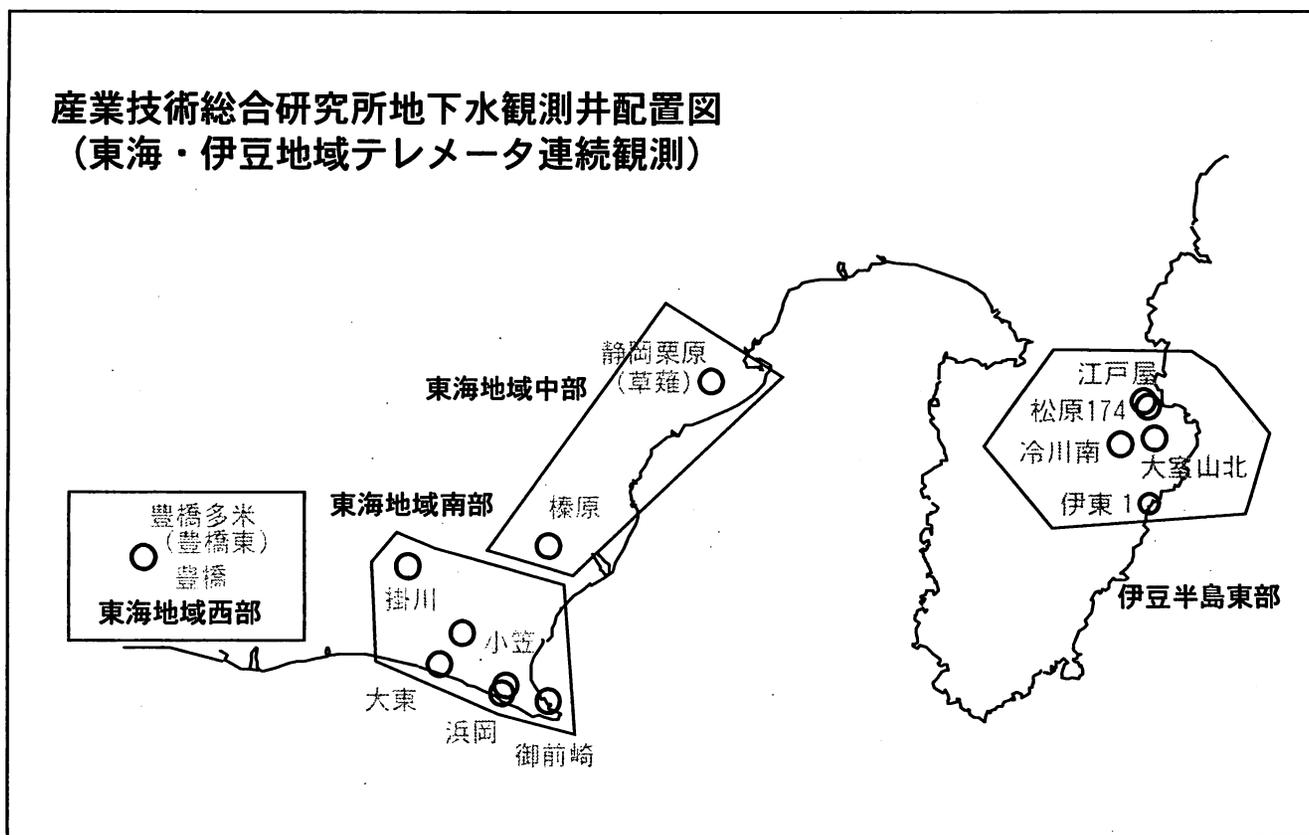


東海・伊豆地域等の地下水観測結果

産業技術総合研究所地下水観測井配置図
(東海・伊豆地域テレメータ連続観測)



【資料目次】

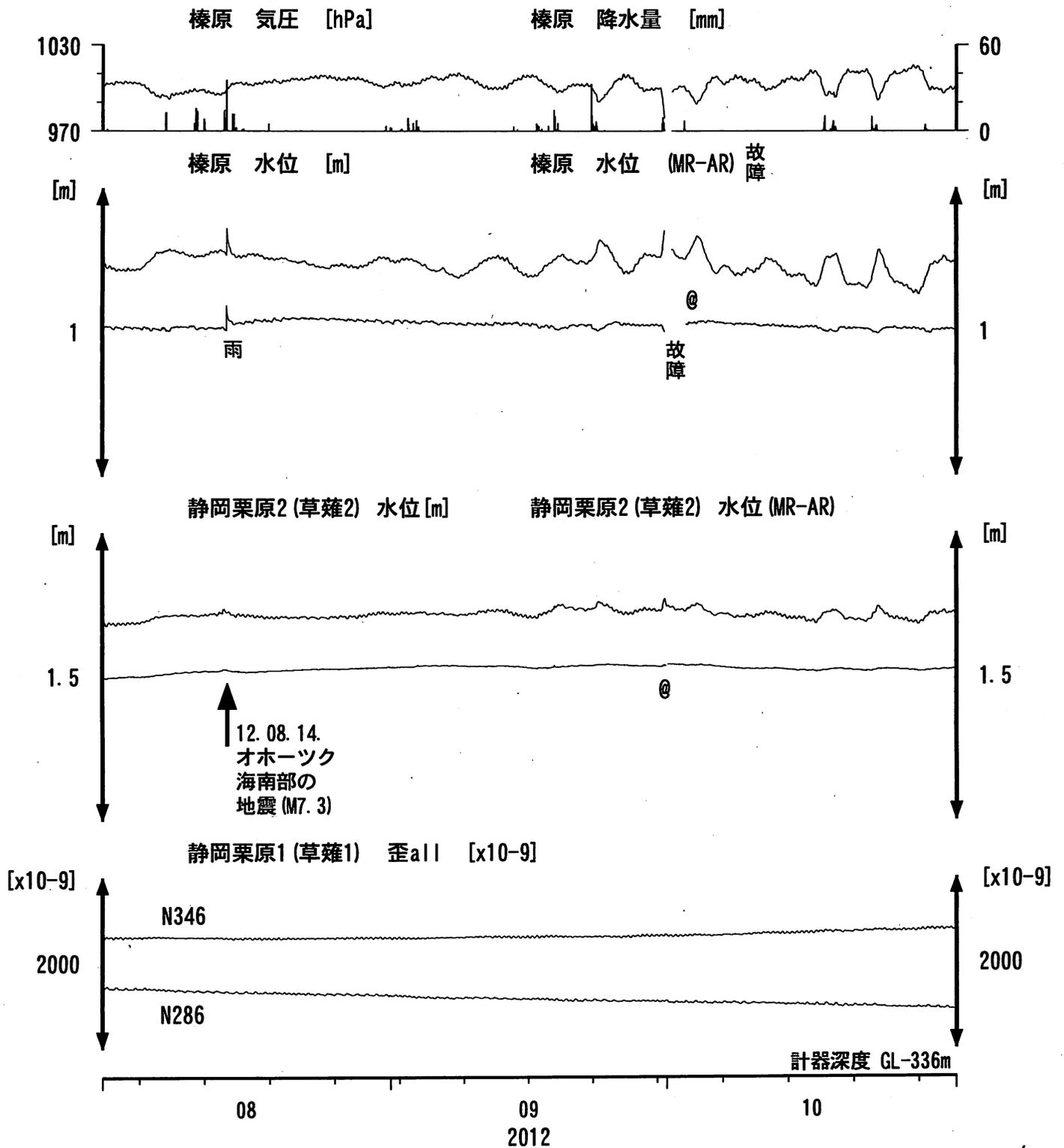
表紙

1. 東海地域中部 [榛原, 静岡栗原(草薙)] 地下水 3成分歪;中期
- 1-b. 東海地域中部 [静岡栗原(草薙)] 3成分歪;中期
2. 東海地域中部 [榛原, 静岡栗原(草薙)] 地下水 3成分歪;長期
3. 東海地域南部 [大東, 小笠, 浜岡, 御前崎] 地下水;中期
4. 東海地域南部 [大東, 小笠, 浜岡, 御前崎] 地下水;長期
- 4-b. 東海地域南部 [浜岡] 地下水・沈下;長期
- 4-c. 東海地域南部 [掛川] 地下水・沈下;長期
5. 東海地域西部 [豊橋, 豊橋多米(豊橋東)] 地下水・歪・傾斜;中期
- 5-b. 東海地域西部 [豊橋多米(豊橋東)] 歪等;中期
6. 東海地域西部 [豊橋・豊橋多米(豊橋東)] 地下水・歪・傾斜;長期
- 6-b. 東海地域西部 [豊橋多米(豊橋東)] 歪等;長期
7. 伊豆半島東部 [松原174, 江戸屋, 大室山北, 冷川南, 伊東1] 地下水;中期
8. 伊豆半島東部 [松原174, 江戸屋, 大室山北, 冷川南, 伊東1] 地下水;長期
9. 関東地域 [つくば1] 地下水;中期
10. 関東地域 [つくば1] 地下水;長期

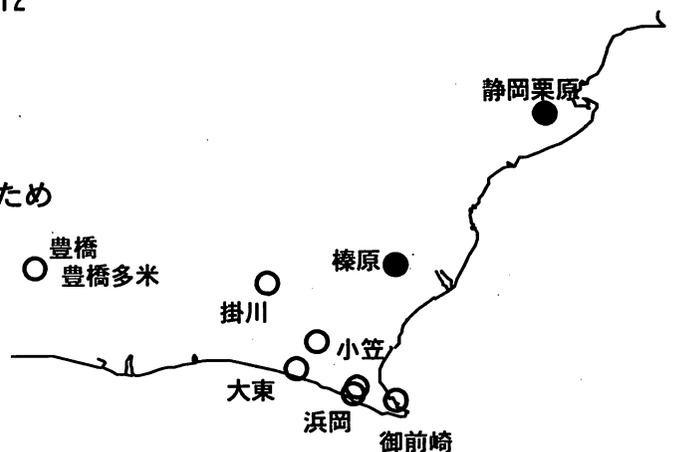
別紙

・榛原・浜岡の降雨グラフ

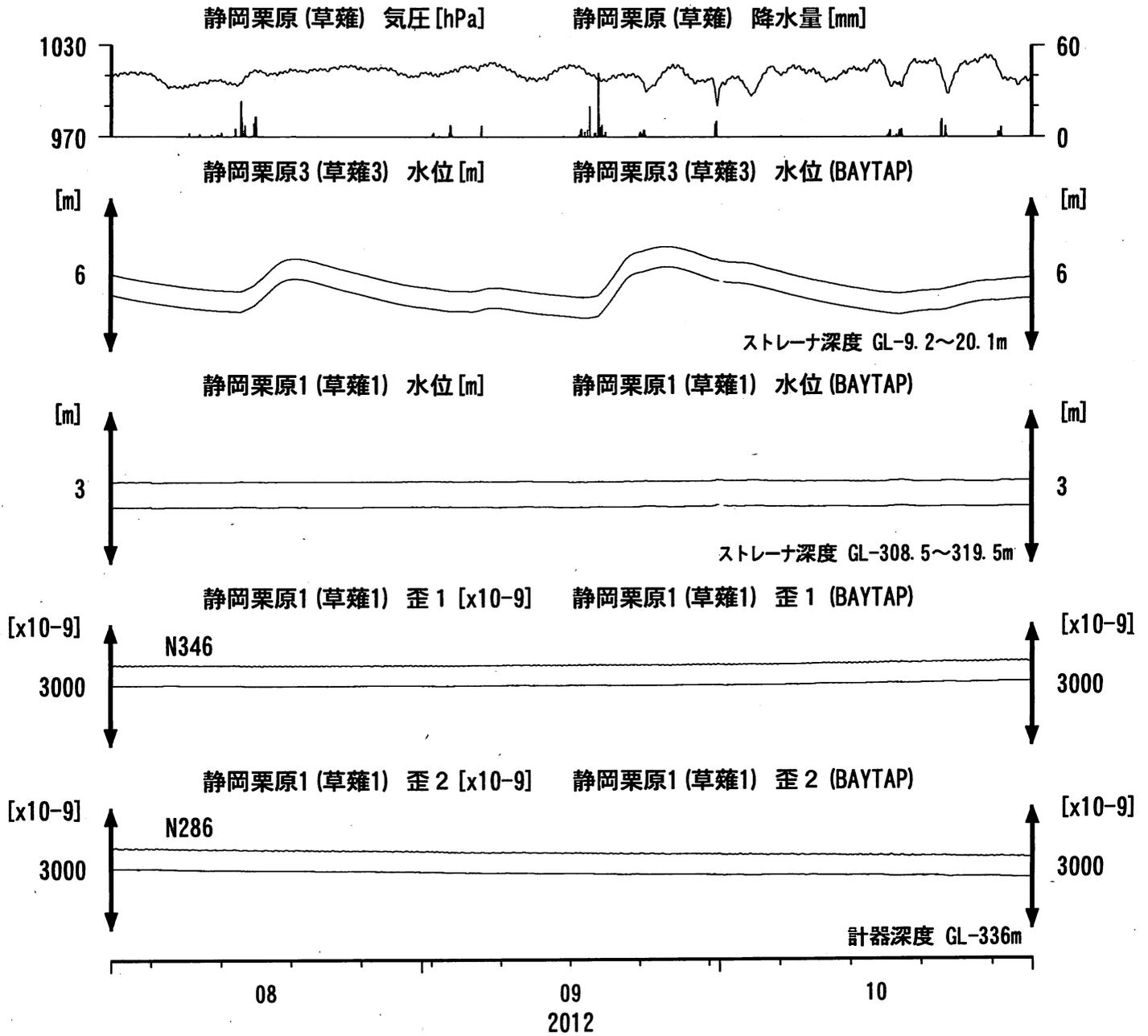
東海地域中部 (榛原・草薙) 中期 (時間値)
 (2012/08/01 00:00 - 2012/11/01 00:00)



コメント：*;雨量補正不十分。\$;保守。
 @;月初めの補正値のギャップは、
 解析プログラムの見かけ上のものである。
 歪3 (N226成分) は2009年6月16日の雷で故障したため
 表示していない。

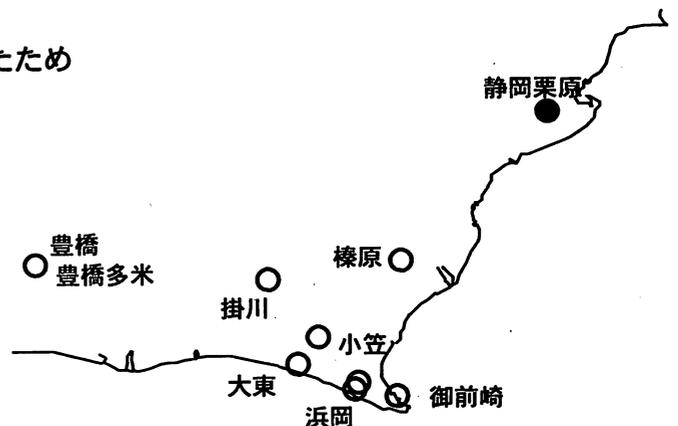


東海地域中部 (草薙・歪) 中期 (時間値) (2012/08/01 00:00 - 2012/11/01 00:00)

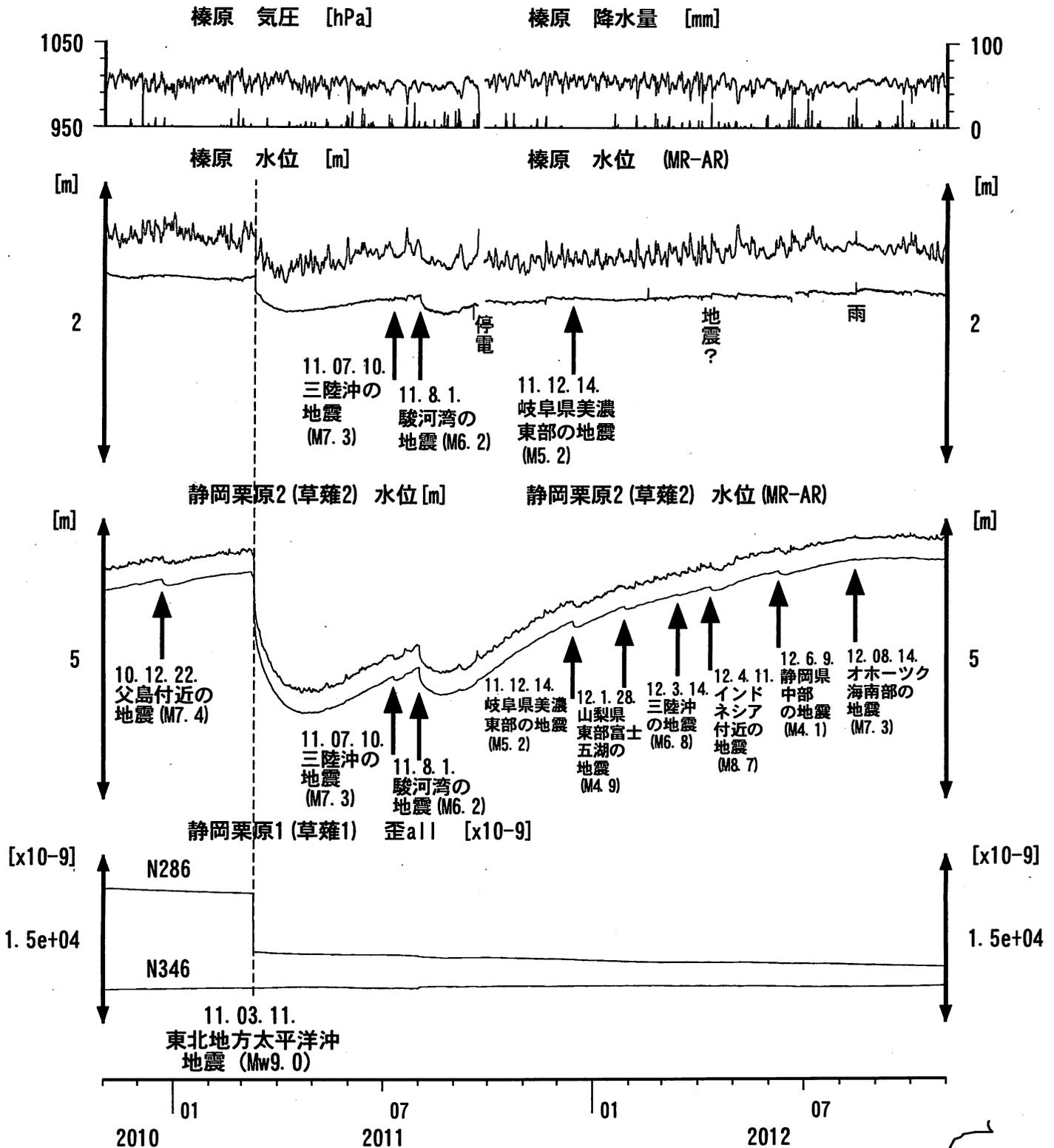


コメント：\$;保守.

静岡栗原1の降雨に伴う水位変化は
地表から水が流れ込むためと思われる。
歪3 (N226成分) は2009年6月16日の雷で故障したため
表示していない。



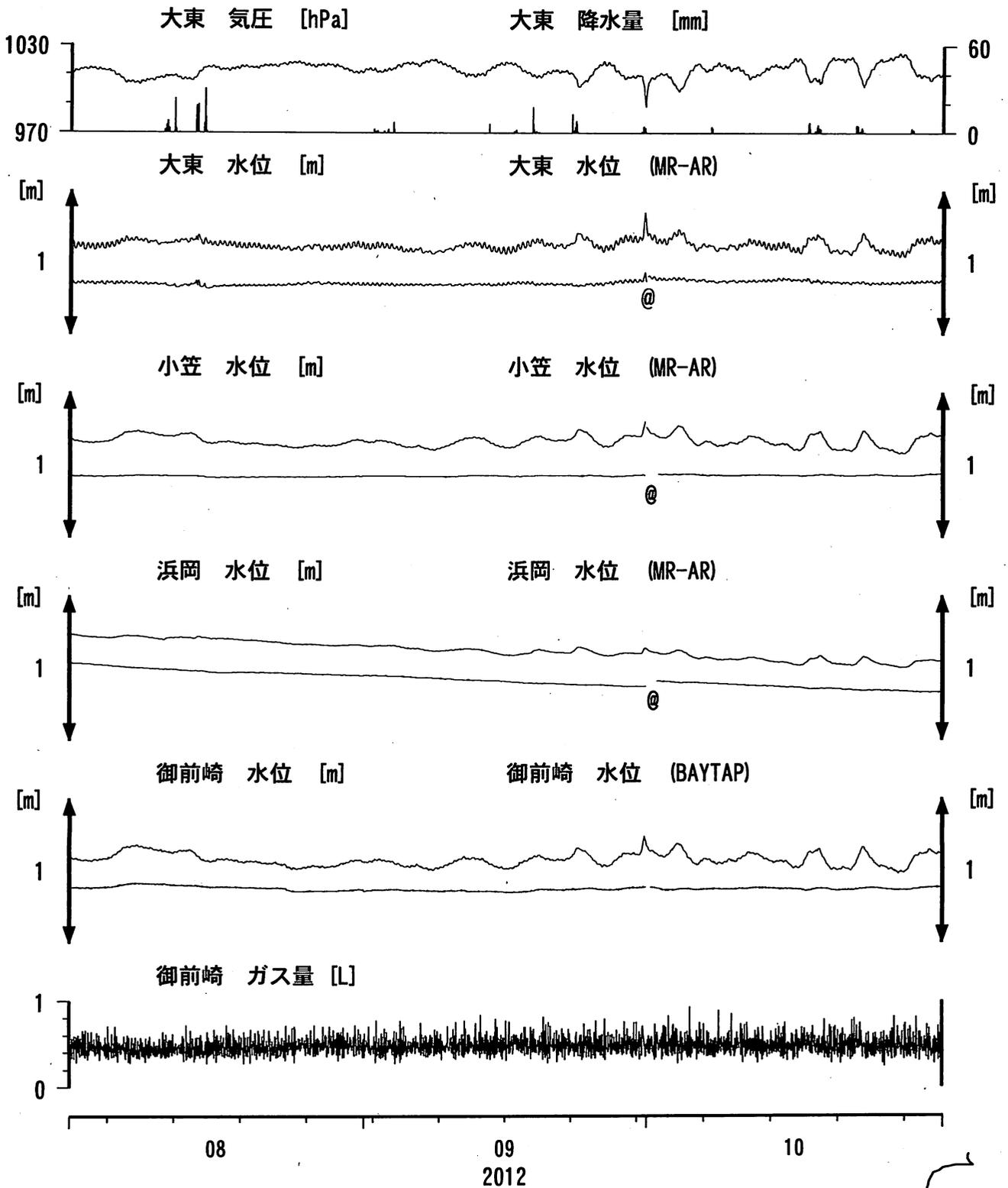
東海地域中部（榛原・草薙）長期（時間値） (2010/11/01 00:00 - 2012/11/01 00:00)



コメント：*;雨量補正不十分。?;原因不明。
歪N226成分が2009年6月16日の雷で故障した。



東海地域南部 地下水観測結果 中期 (時間値)
 (2012/08/01 00:00 - 2012/11/01 00:00)



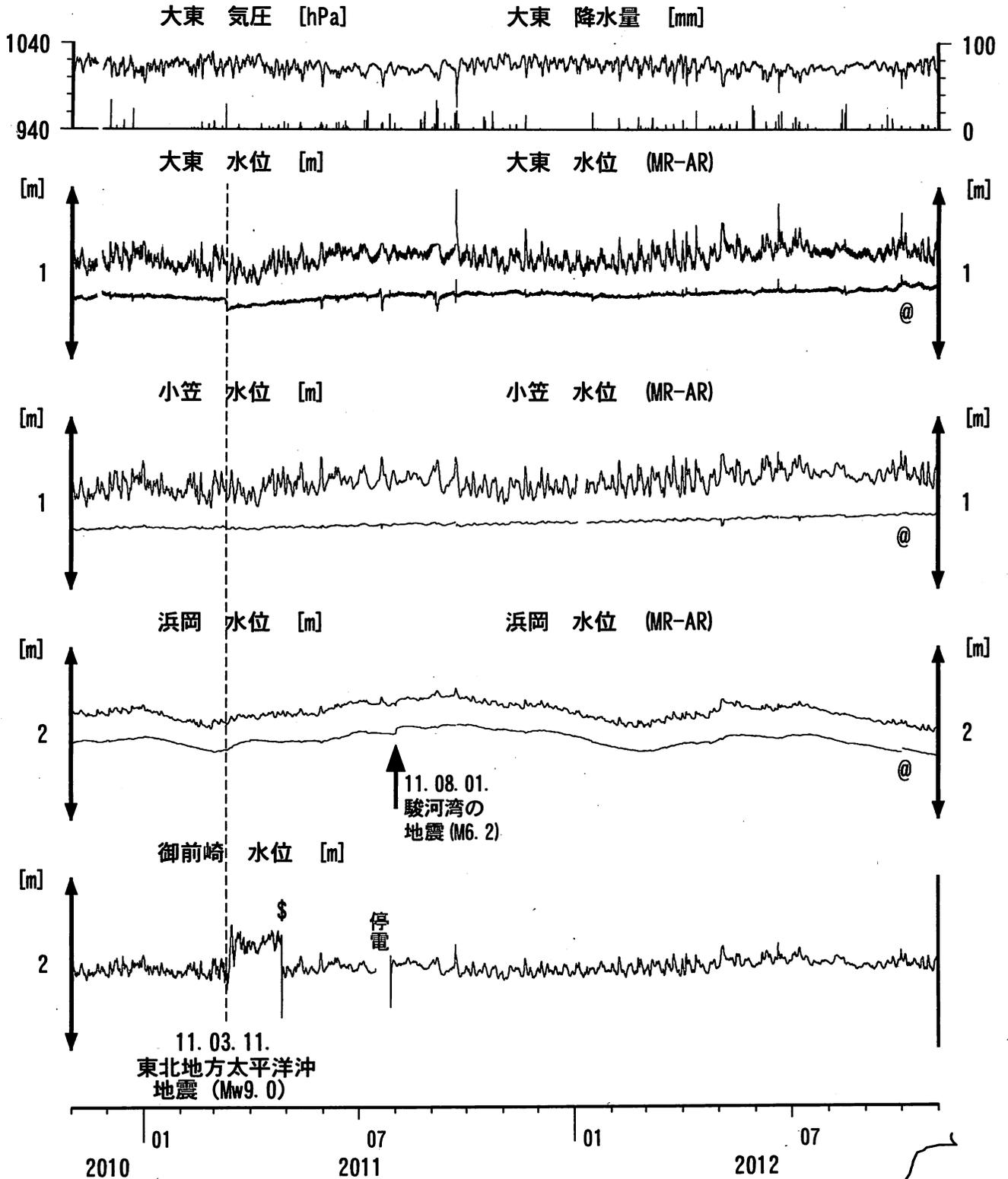
コメント:

*;雨量補正不十分, \$:保守. ?;不明.
 @;月初めの補正値のギャップは,
 解析プログラムの見かけ上のものである.



東海地域南部 地下水観測結果 長期 (時間値)

(2010/11/01 00:00 - 2012/11/01 00:00)



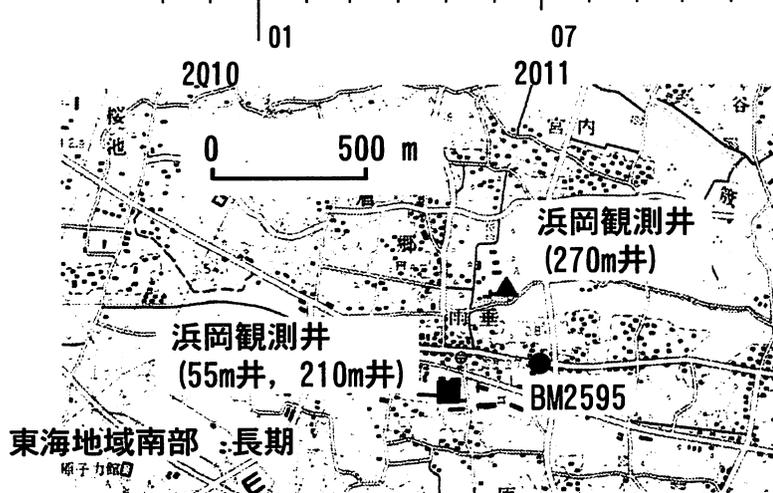
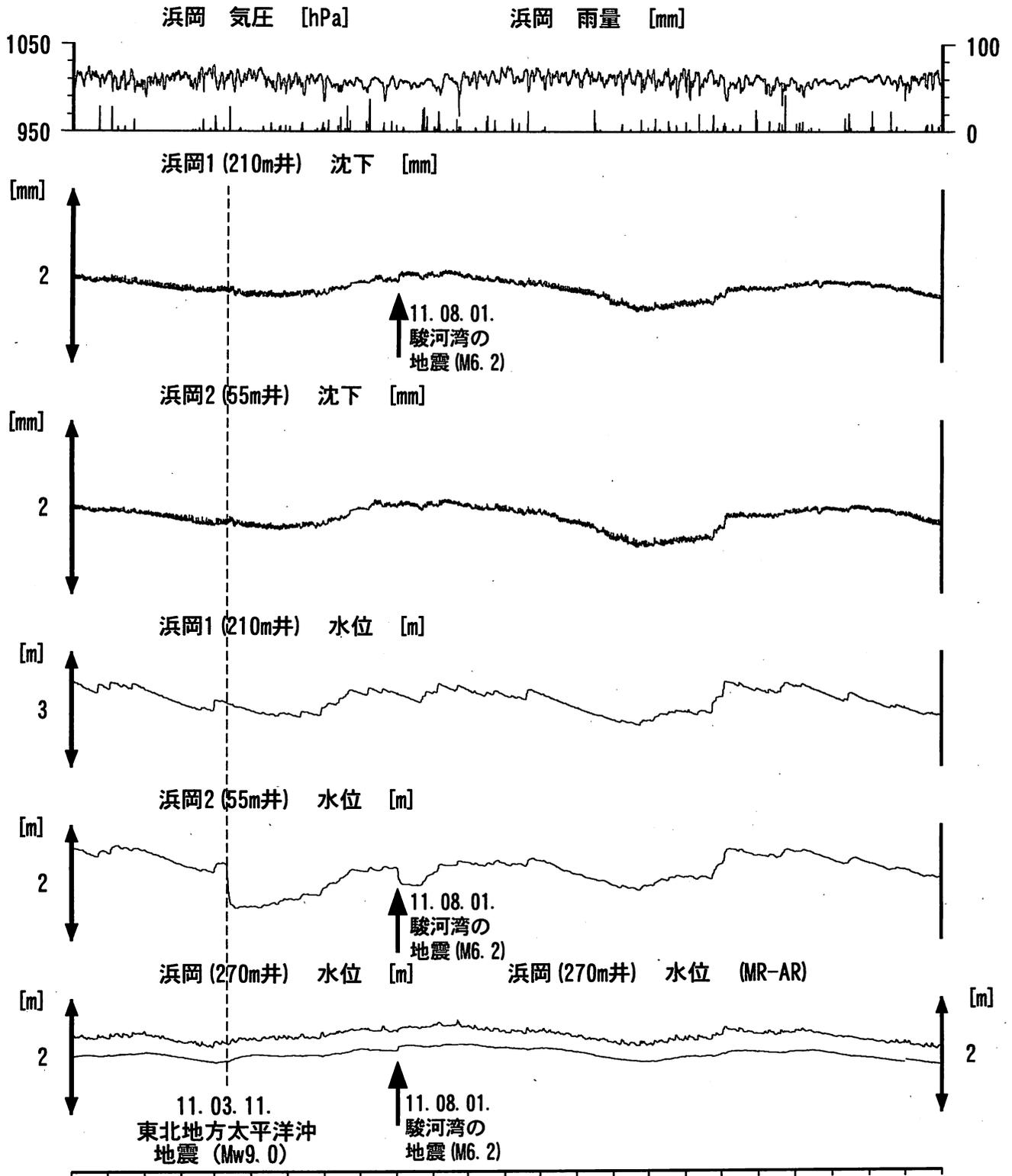
コメント:

*;雨量補正不十分. \$;保守.
 @;月初めの補正値のギャップは、
 解析プログラムの見かけ上のものである。
 2011年3月15日頃~4月28日の
 御前崎の水位の上昇については、
 ガス測定システムの故障によると思われる。
 大東・小笠の井戸口から水が時々溢れるよう
 になったので、2011年9月21日に井戸口の管を
 延長した。



浜岡沈下・水位 (時間値)

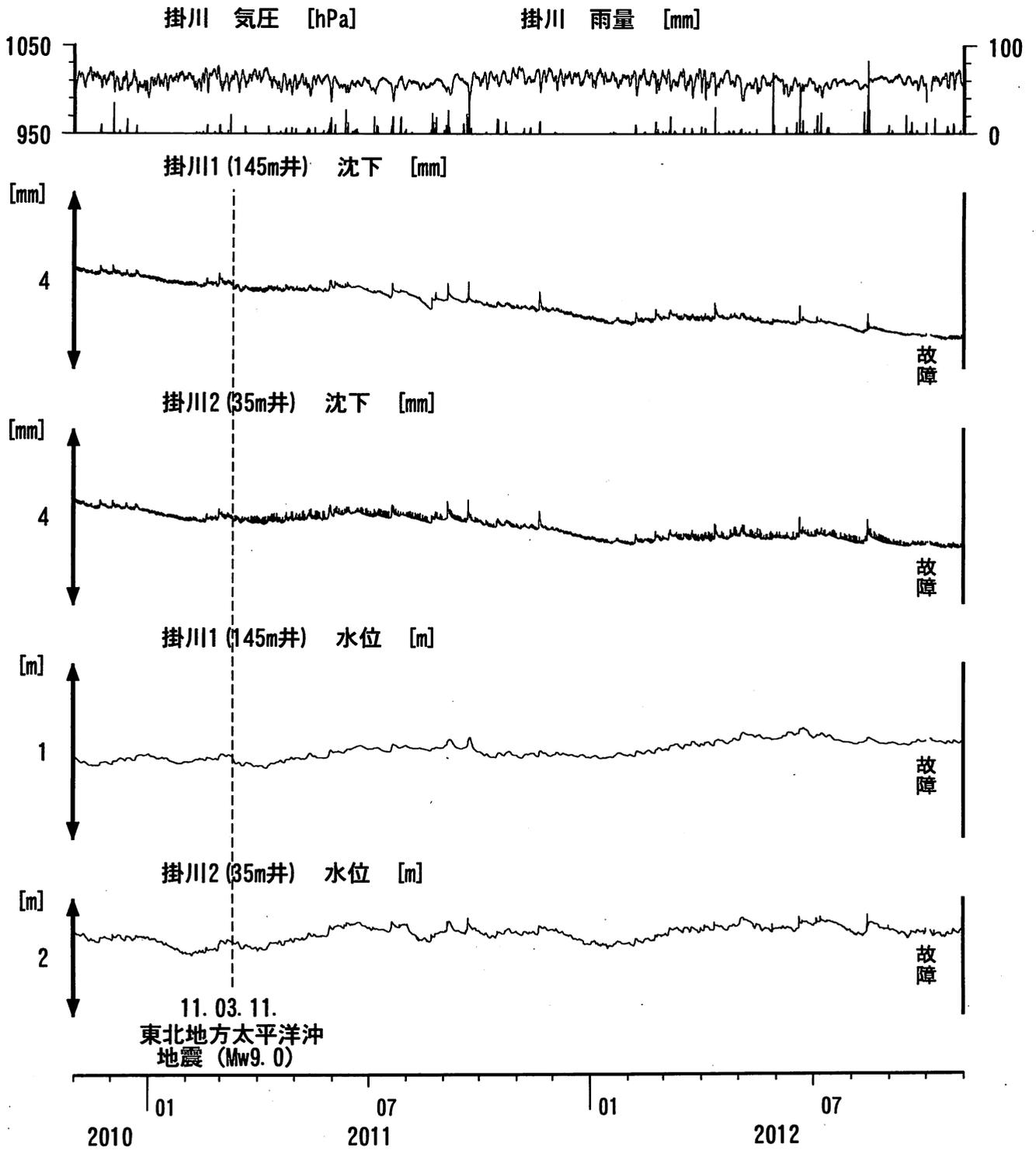
(2010/11/01 00:00 - 2012/11/01 00:00)



コメント：\$;保守.



掛川沈下・水位 (時間値) (2010/11/01 00:00 - 2012/11/01 00:00)



コメント：\$;保守。
?;原因不明。

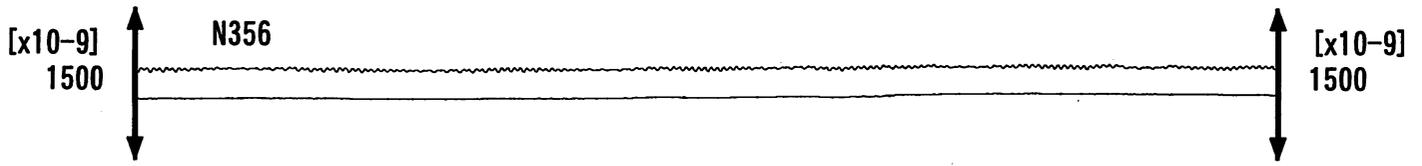


0 500 m

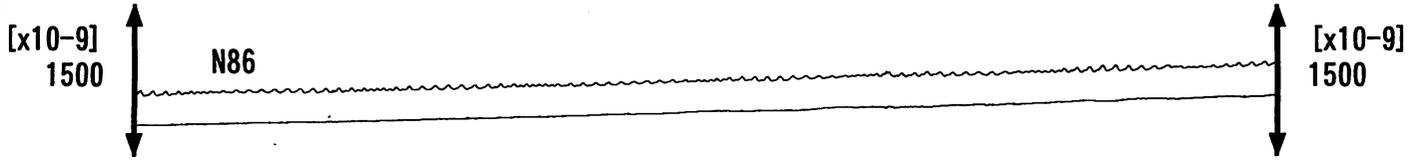


東海地域西部 (豊橋東 歪) 中期 (時間値)
 (2012/08/01 00:00 - 2012/11/01 00:00)

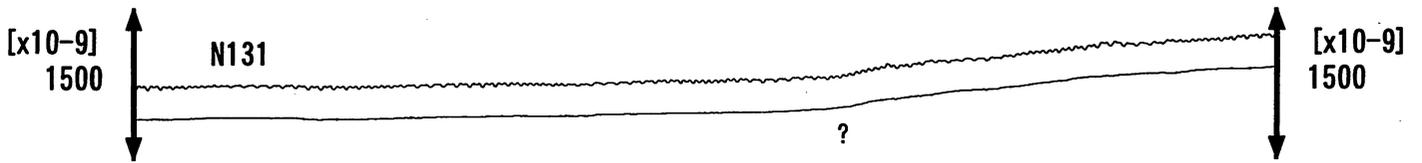
豊橋多米 (豊橋東) 歪N356E [x10⁻⁹] 豊橋多米 (豊橋東) 歪N356E (BAYTAP)



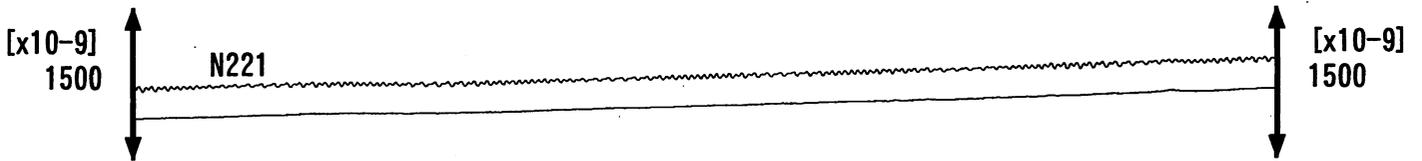
豊橋多米 (豊橋東) 歪N86E [x10⁻⁹] 豊橋多米 (豊橋東) 歪N86E (BAYTAP)



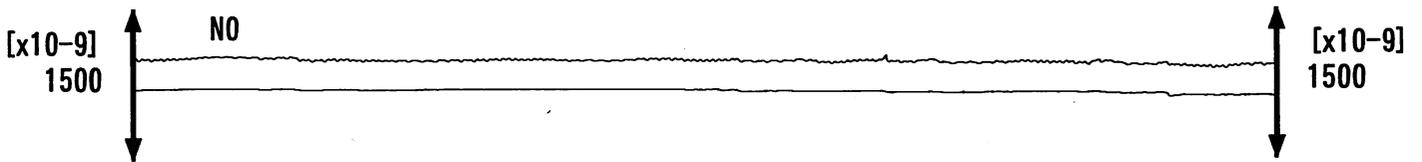
豊橋多米 (豊橋東) 歪N131E [x10⁻⁹] 豊橋多米 (豊橋東) 歪N131E (BAYTAP)



豊橋多米 (豊橋東) 歪N221E [x10⁻⁹] 豊橋多米 (豊橋東) 歪N221E (BAYTAP)



豊橋多米 (豊橋東) 歪鉛直 [x10⁻⁹] 豊橋多米 (豊橋東) 歪鉛直 (BAYTAP)



豊橋多米 (豊橋東) 磁力 N356E [nT]



豊橋多米 (豊橋東) 歪計温度 (水晶式) [deg. C]

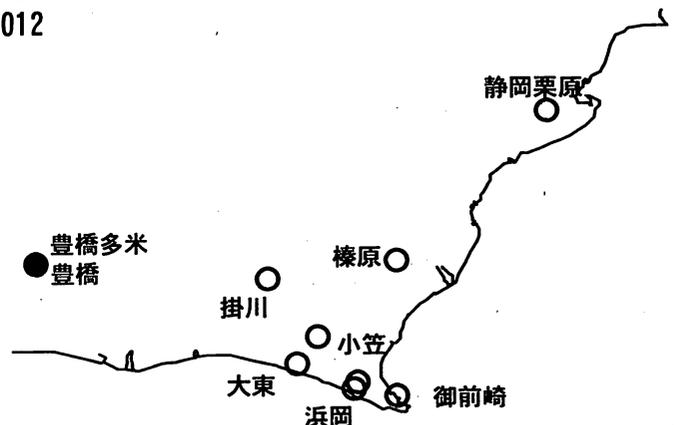


08

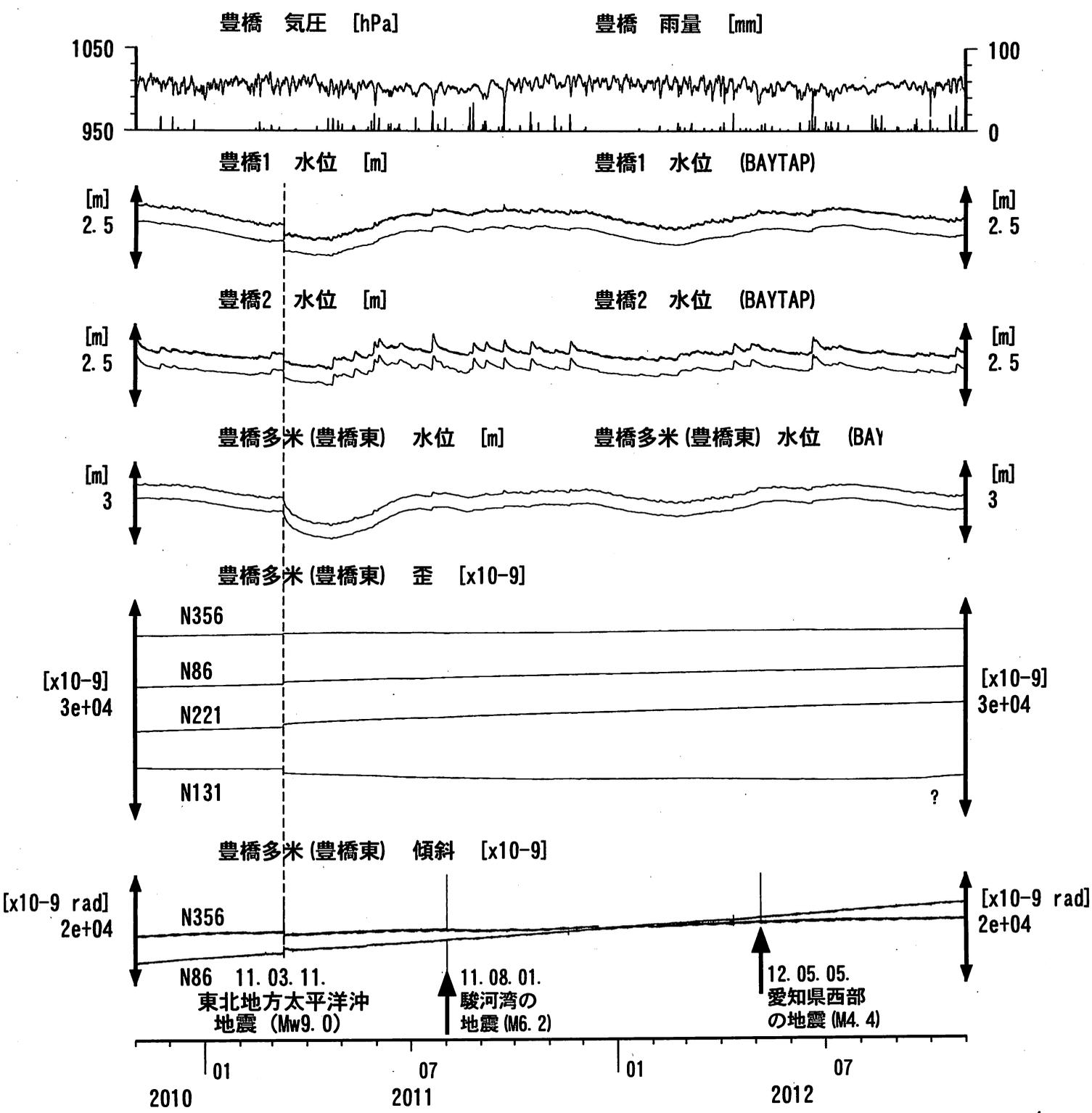
09
2012

10

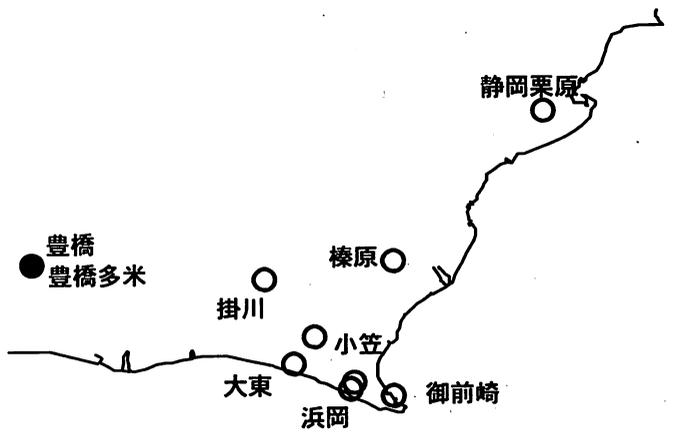
コメント: \$;保守. ?;原因不明.



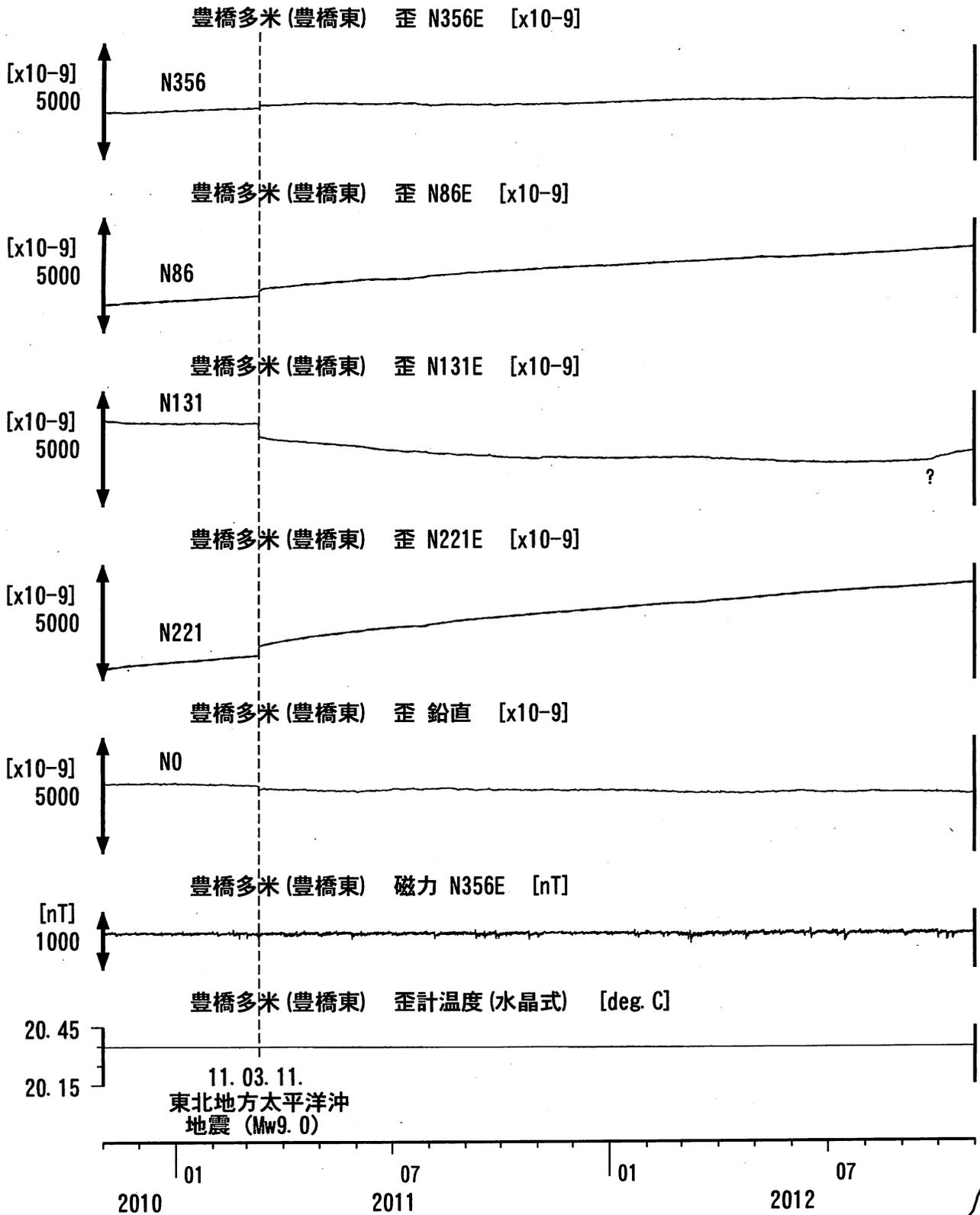
東海地域西部（豊橋・豊橋東）長期（時間値）
 (2010/11/01 00:00 - 2012/11/01 00:00)



コメント：\$;保守。?;原因不明。
 傾斜計データの処理方法を変えたので、
 地震時のパルス状の変化が見えにくくなった。



東海地域西部 (豊橋東 歪) 長期 (時間値)
 (2010/11/01 00:00 - 2012/11/01 00:00)

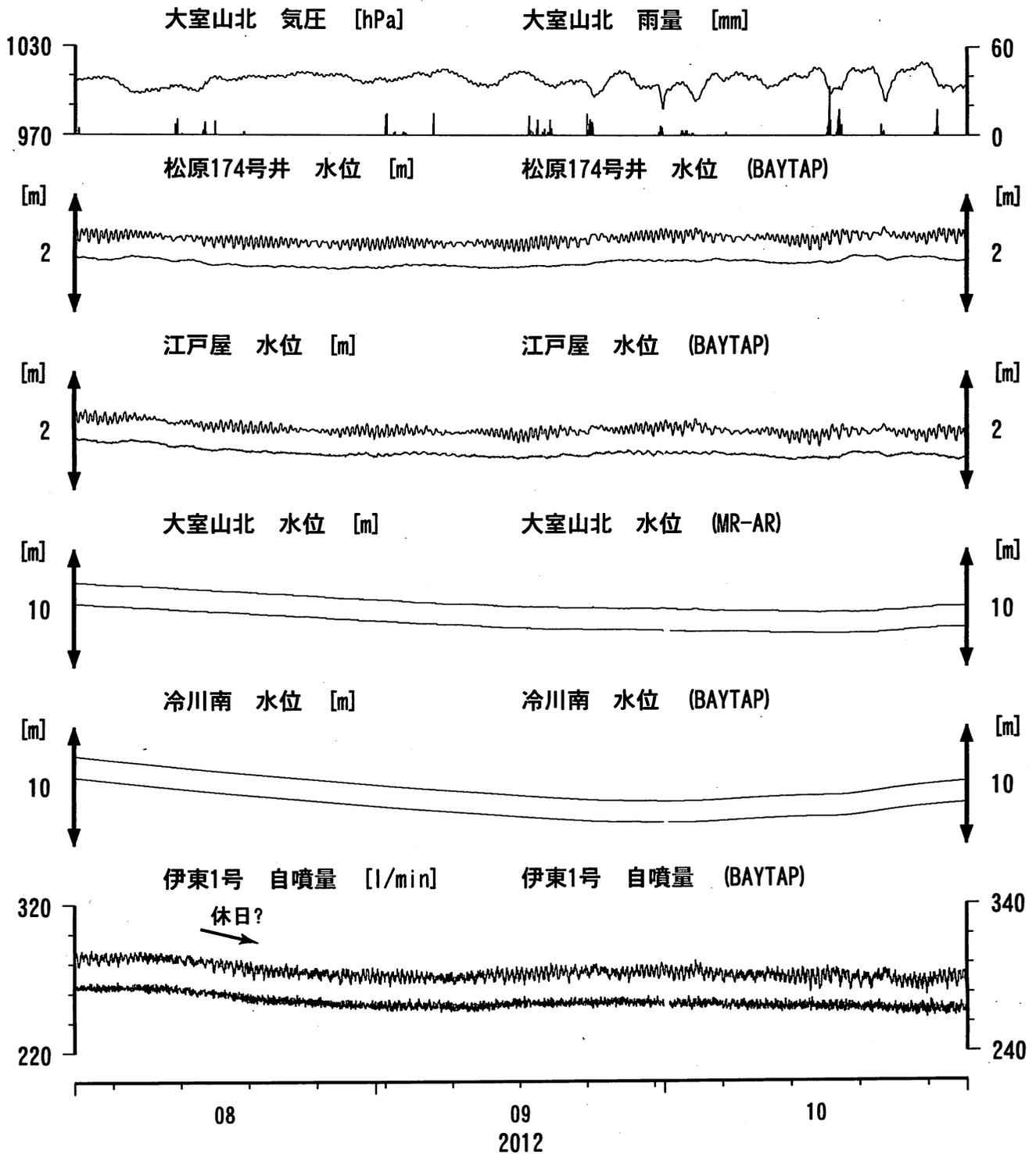


コメント: \$;保守. ?;原因不明.



伊豆半島東部 地下水位・自噴量 中期 (時間値)

(2012/08/01 00:00 - 2012/11/01 00:00)

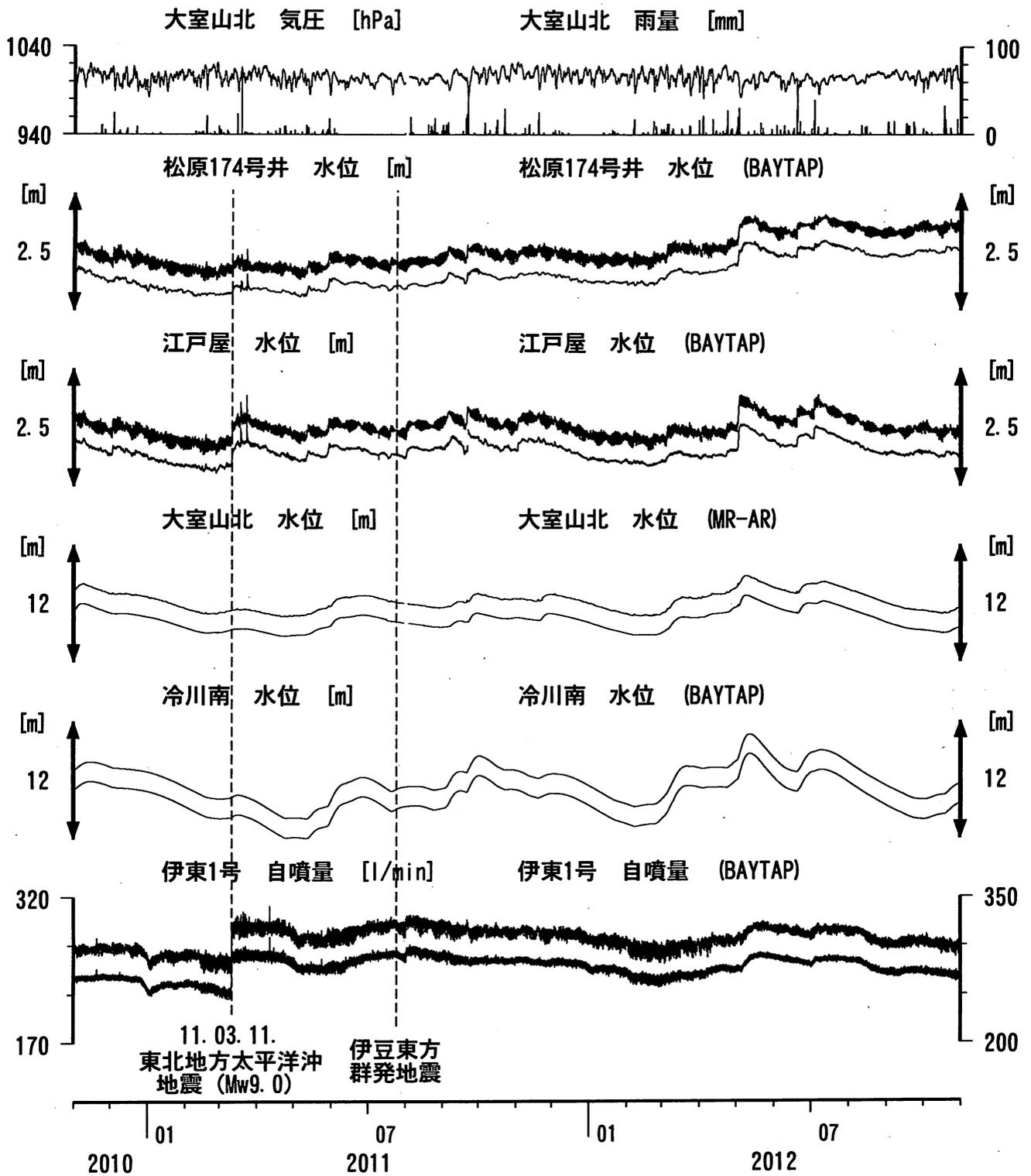


コメント：\$;保守. ?;原因不明.
 松原174号井は静岡県による観測.
 伊東1は、休日・年末年始に周囲の
 温泉使用量が増加するため、自噴量が減少する.
 伊東1の自噴量は、量が少なくなると
 配管構造のため、見かけ上、値がばらつく.



伊豆半島東部 地下水位・自噴量 長期 (時間値)

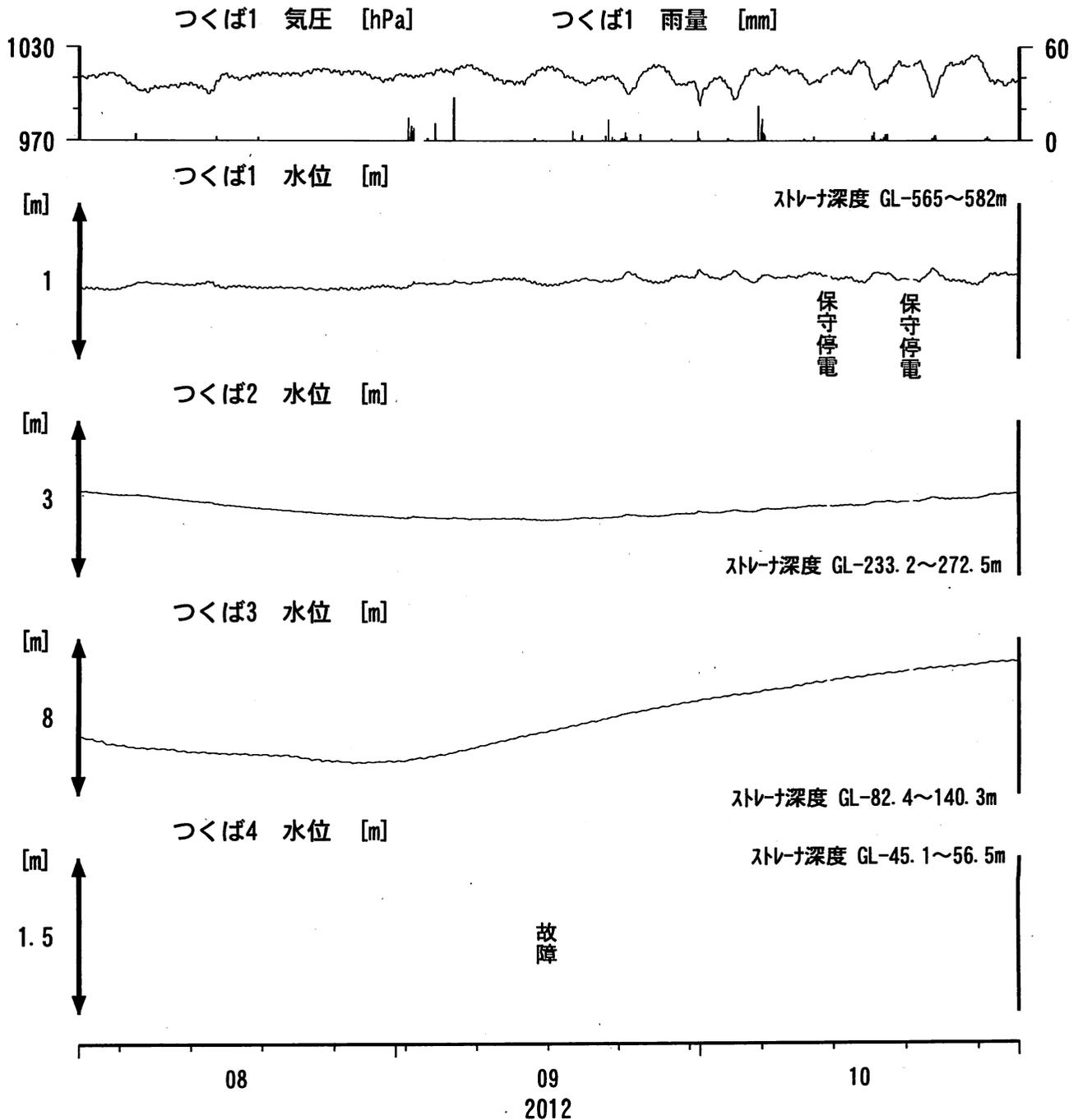
(2010/11/01 00:00 - 2012/11/01 00:00)



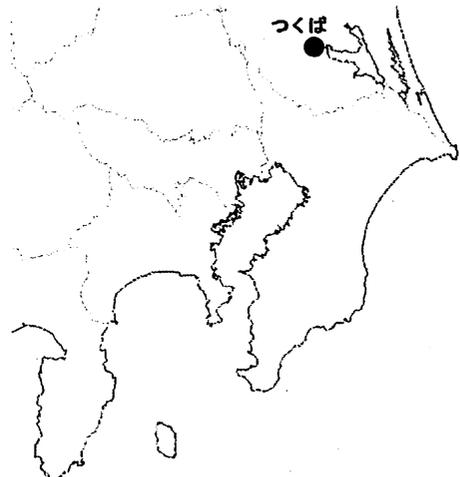
コメント：\$;保守. ?;原因不明.
 松原174号井は静岡県による観測.
 伊東1は、休日・年末年始に周囲の温泉使用量が増加するため、自噴量が減少する.
 伊東1の自噴量は、量が少なくなると配管構造のため、見かけ上、値がばらつく.



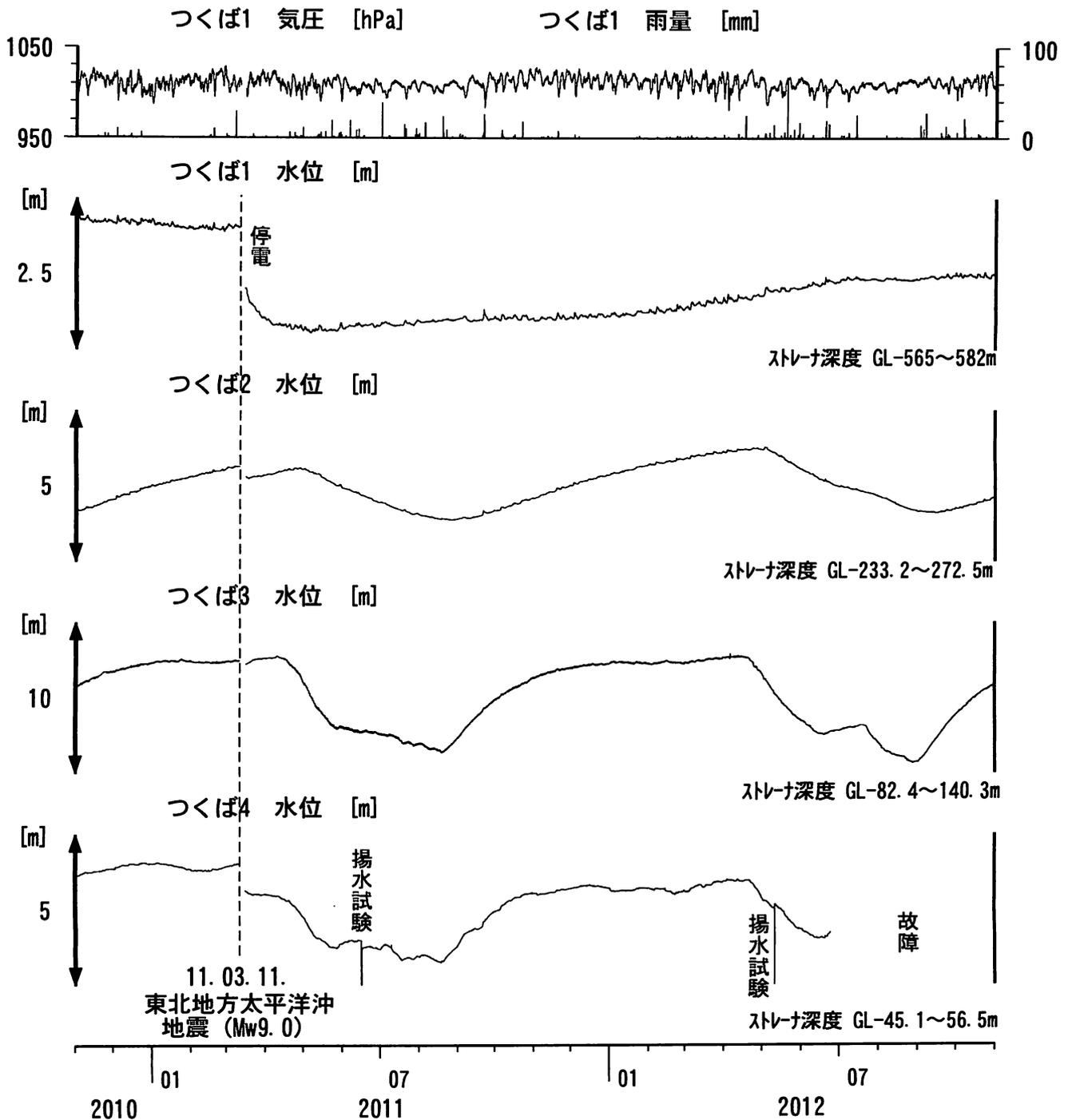
関東地域 地下水観測結果 中期 (時間値)
 (2012/08/01 00:00 - 2012/11/01 00:00)



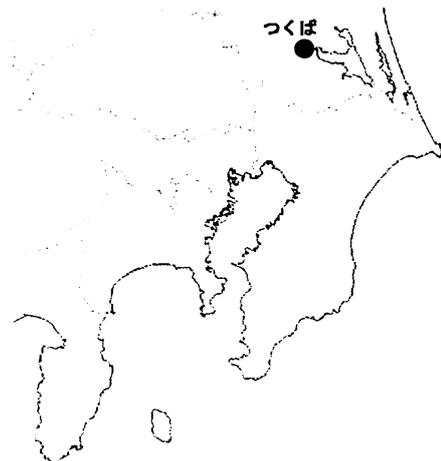
コメント：\$;保守.
 つくば2~4の水位が、例年春~秋に低下するのは、
 周囲の揚水によると考えられる。



関東地域 地下水観測結果 長期 (時間値)
 (2010/11/01 00:00 - 2012/11/01 00:00)

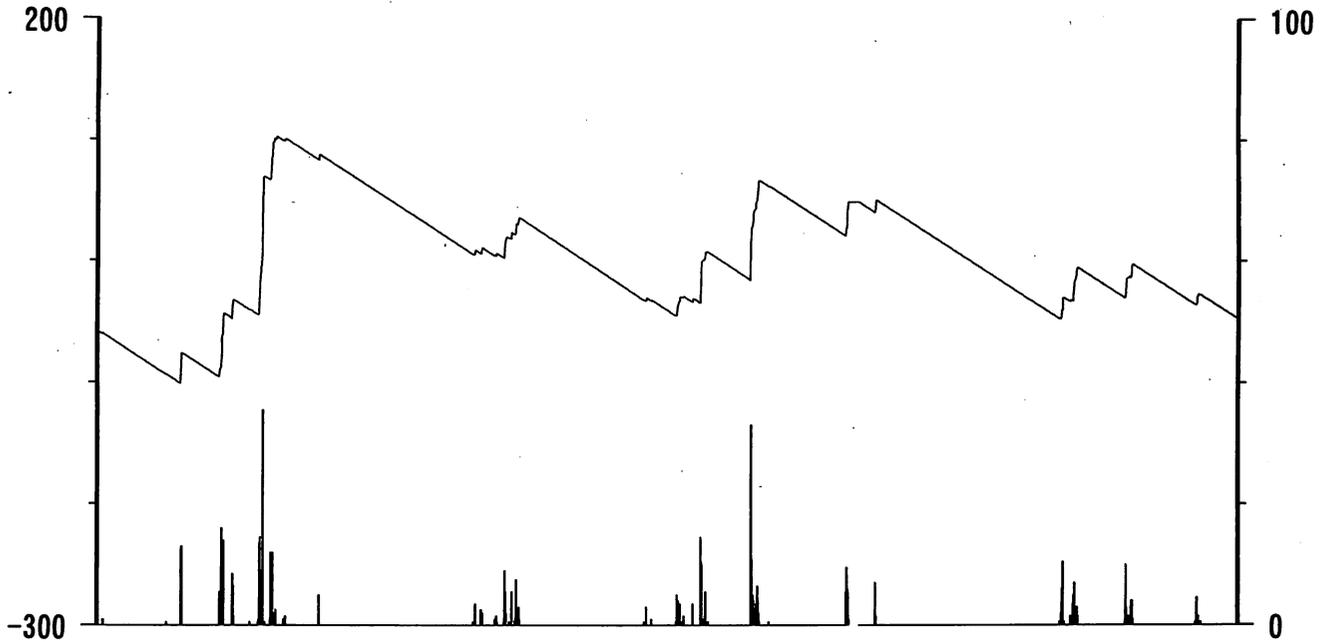


コメント：\$;保守。
 つくば2~4の水位が、例年春~秋に低下するのは、
 周囲の揚水によると考えられる。

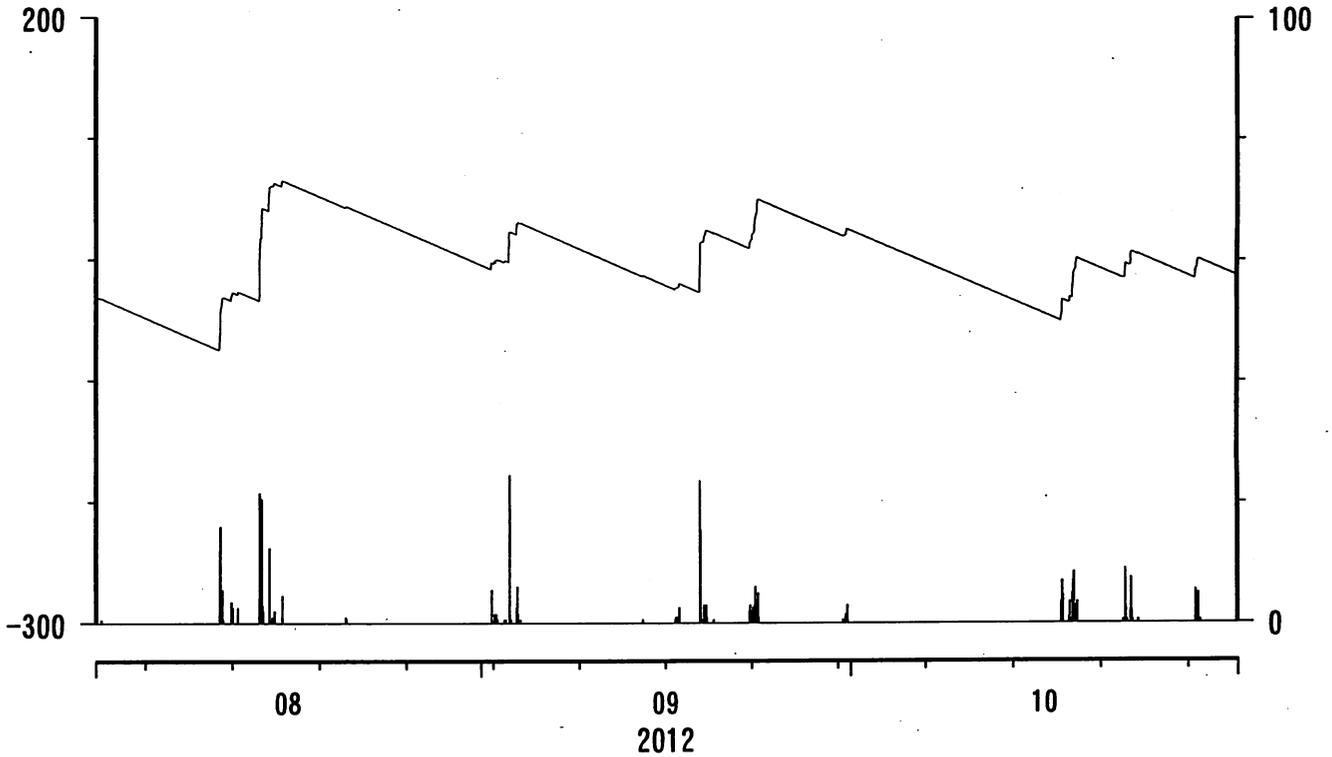


榛原・浜岡観測井 直近3ヶ月の積算降雨量トレンド除去グラフ [mm]
(2012/08/01 00:00 - 2012/11/01 00:00)

榛原 降水量(積算) [mm] (時間値)



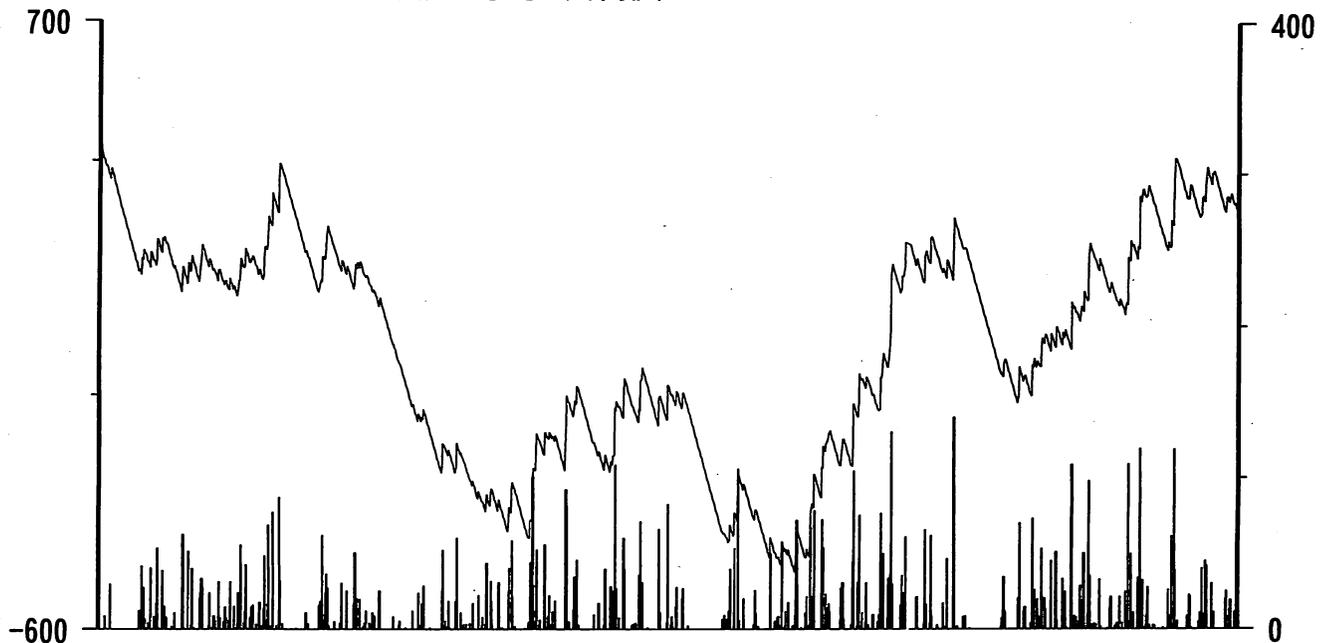
浜岡 降水量(積算) [mm] (時間値)



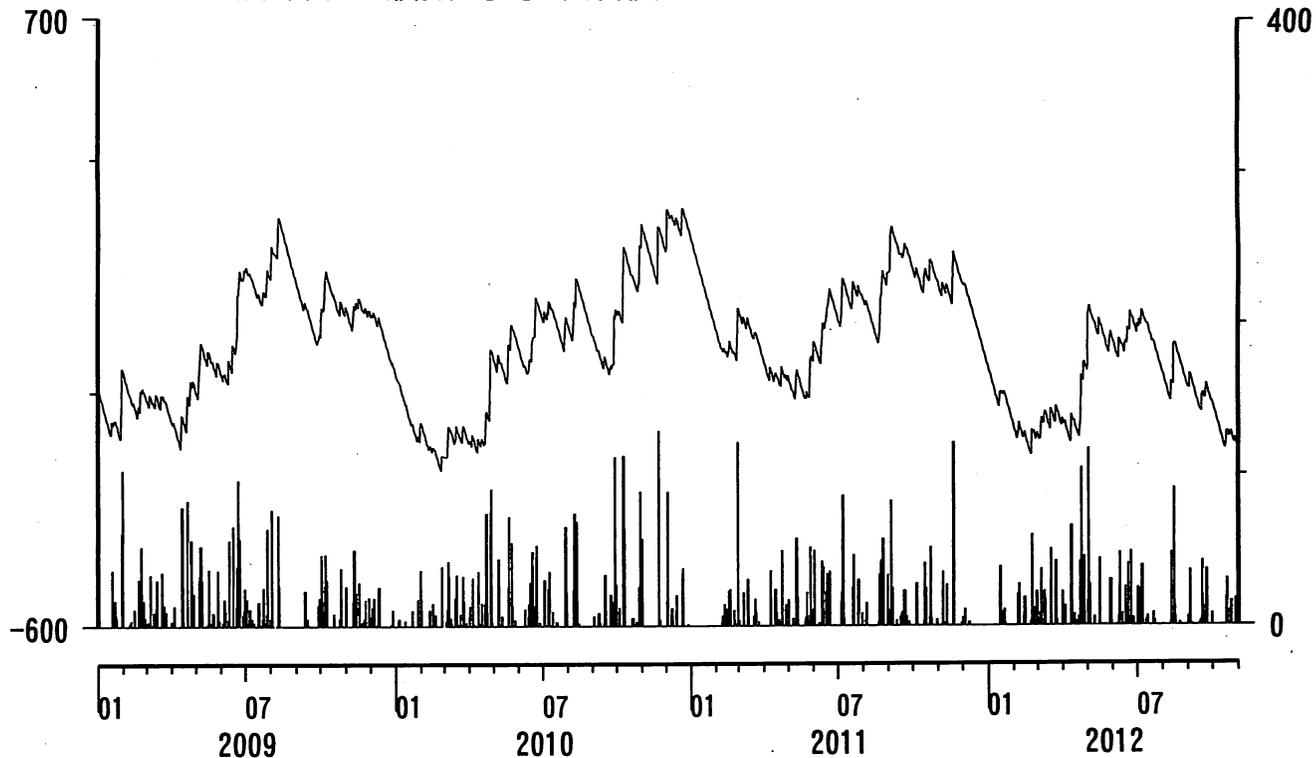
コメント：トレンドは、グラフに示している期間で求めている。

榛原・浜岡観測井 降雨量の積算からトレンド除去後のグラフ [mm]
(2009/01/01 00:00 - 2012/11/01 00:00)

榛原 降水量(積算) [mm] (時間値)



浜岡 降水量(積算) [mm] (時間値)



コメント：トレンドは、グラフに示している期間で求めている。

近畿地域の地下水位・歪観測結果（2012年8月～2012年10月）

産業技術総合研究所

2012年8月～2012年10月の近畿地域におけるテレメータによる地下水位およびボアホール型歪計による地殻歪（水平3成分）の観測結果を報告する。観測点は14点（観測井は16井戸）である（第1図）。同期間中に第1図で示す範囲内で、M4以上で深さ30kmより浅い地震は、無かった。M4以上で深さ30kmより深い有感地震は、無かった。

第2～6図には、2012年5月～2012年10月における地下水位1時間値の生データ（上線）と補正值（下線）を示す。ボアホール型歪計が併設してある観測点については、同期間における歪3成分の観測値（生データ）も示す。歪の図において「N120E」などと示してあるのは、歪の方向が北から120度東方向に回転していることを示す。水位補正值 (corrected) は、潮汐解析プログラムBAYTAP-Gによって、気圧・潮汐・不規則ノイズの影響を除去した結果である。なお、tkz・ysk・yst1・yst2およびyst3は地上より上に水位が来るので、井戸口を密閉して水圧を測定し、それを水位に換算している。hksではケーシングを二重にして、外管で浅い方の地下水位（hks-o）を、内管で深い方の地下水位（hks-i）をそれぞれ測定し、別々の観測井にカウントしている。

ikdの地下水位の2012年9月13日から10月26日までの欠測は観測小屋の整備工事のため（第3図）。hrbの地下水位の短期的な上下変化は口元から雨が流れ込んだためと思われる（第4図）。

これらのデータ（グラフ等）は、<http://riodb02.ibase.aist.go.jp/gxwell/GSJ/index.shtml>で公開されている。（北川有一・小泉尚嗣・高橋誠・佐藤努・松本則夫・大谷竜・板場智史・桑原保人・佐藤隆司・木口努・長郁夫）

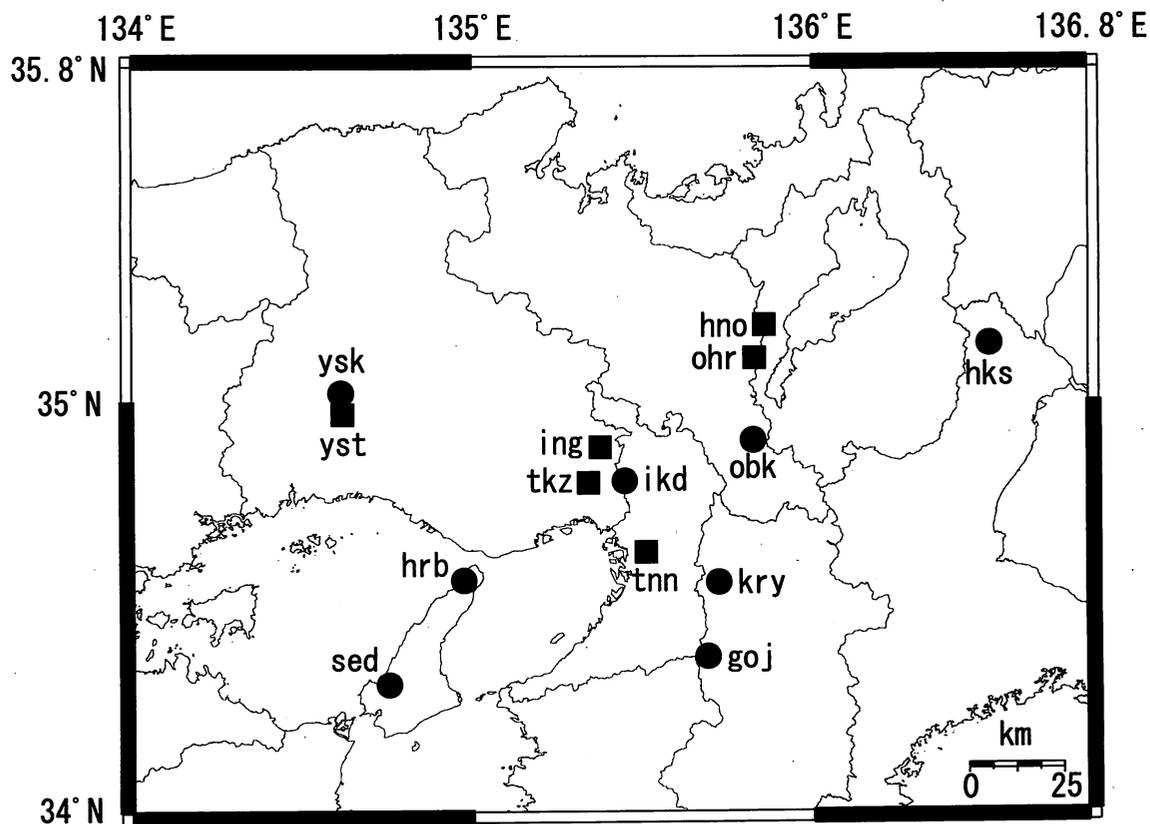


Fig.1 観測点分布図（●・■）。●は地下水のみの観測点で、■はボアホール型歪計を併設している観測点。

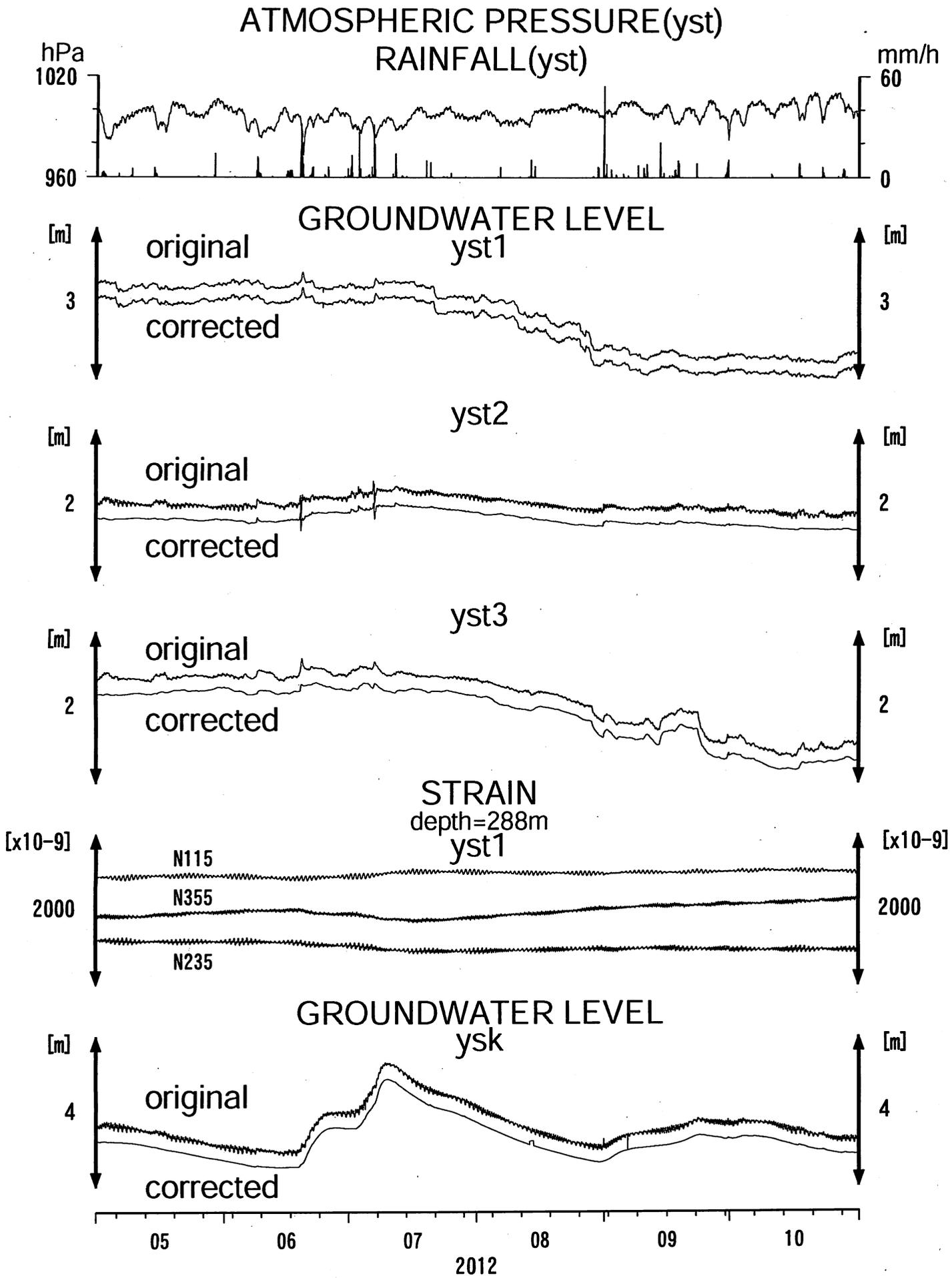


Fig.2

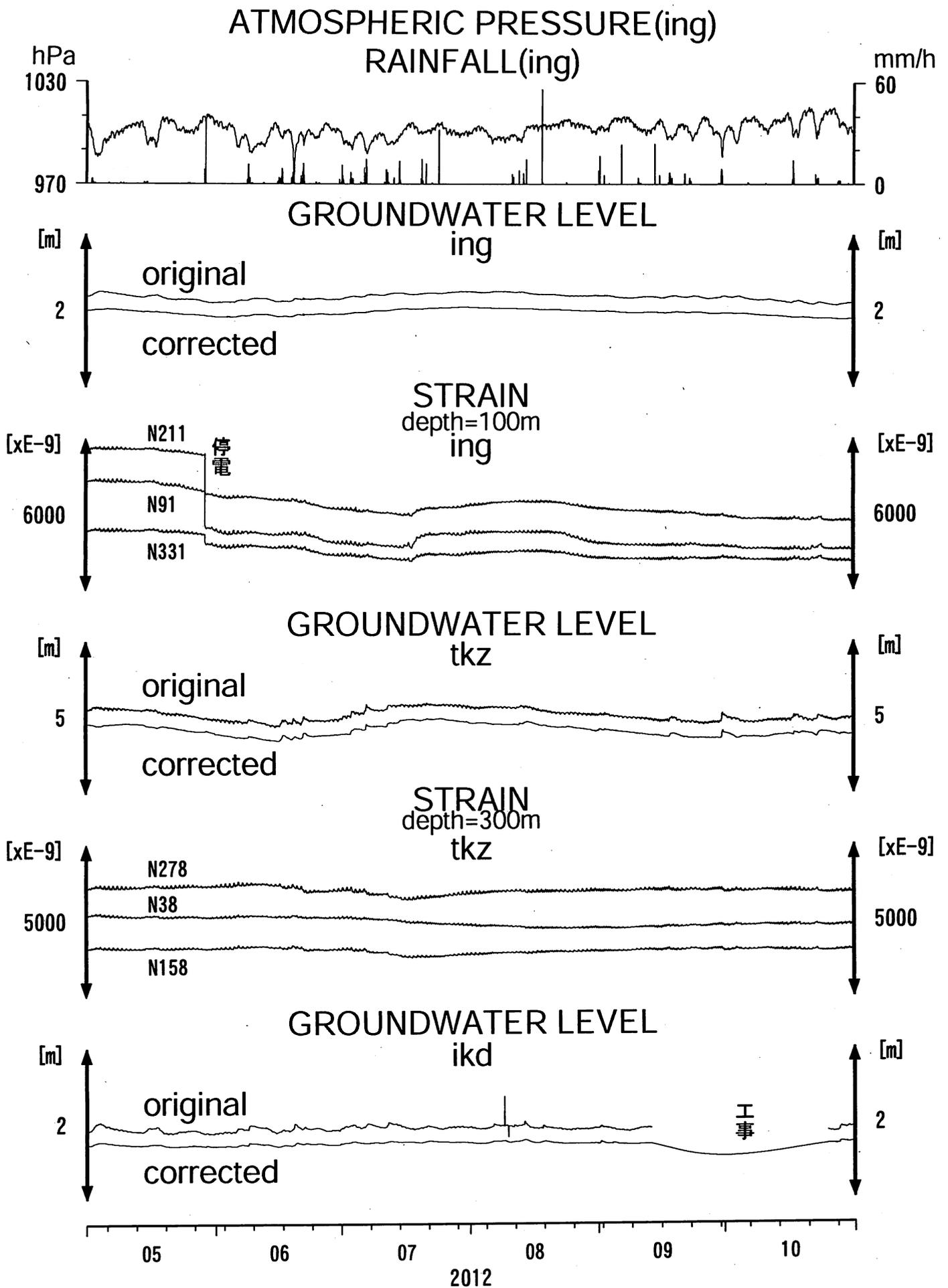


Fig.3

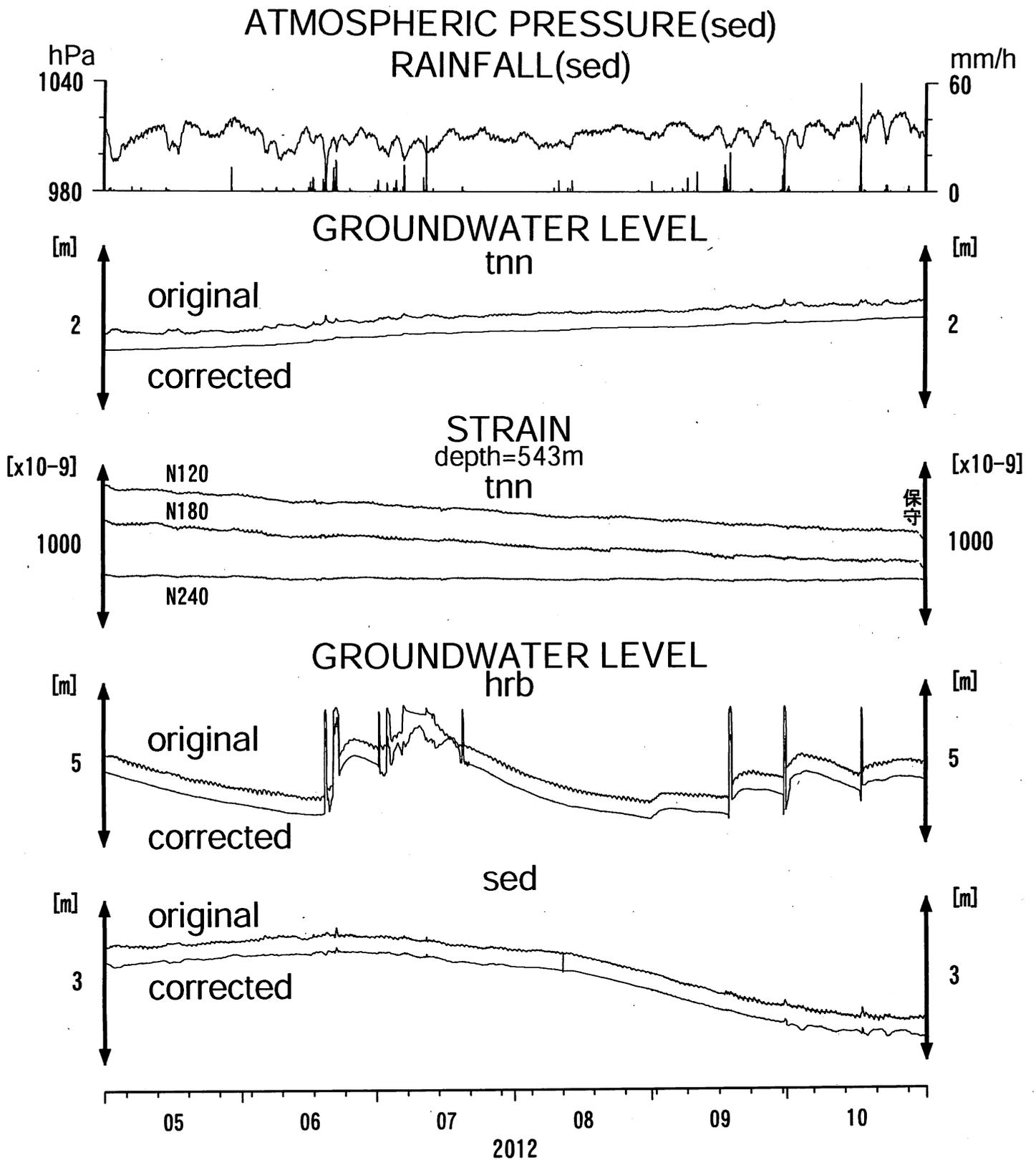


Fig.4

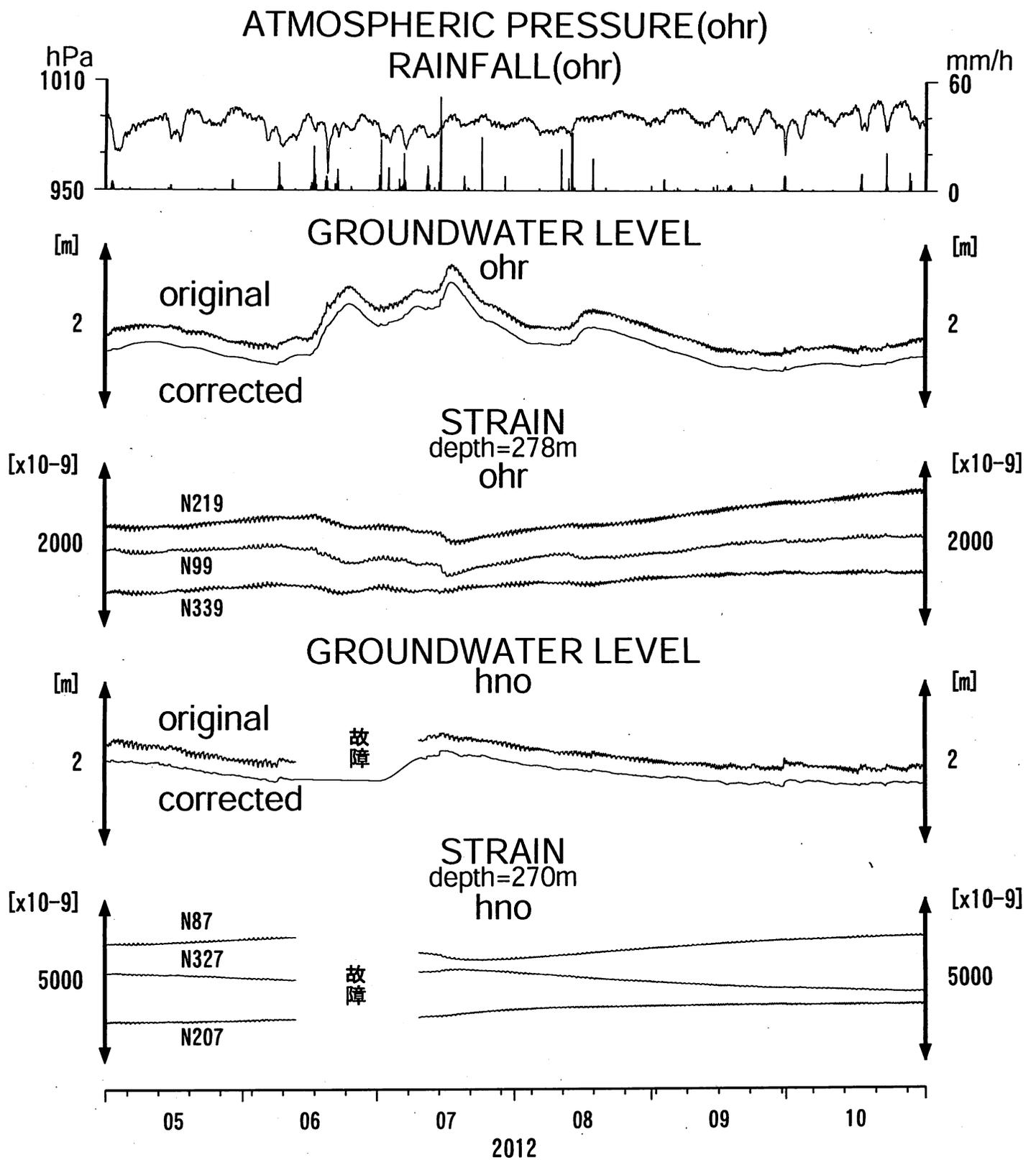


Fig.5

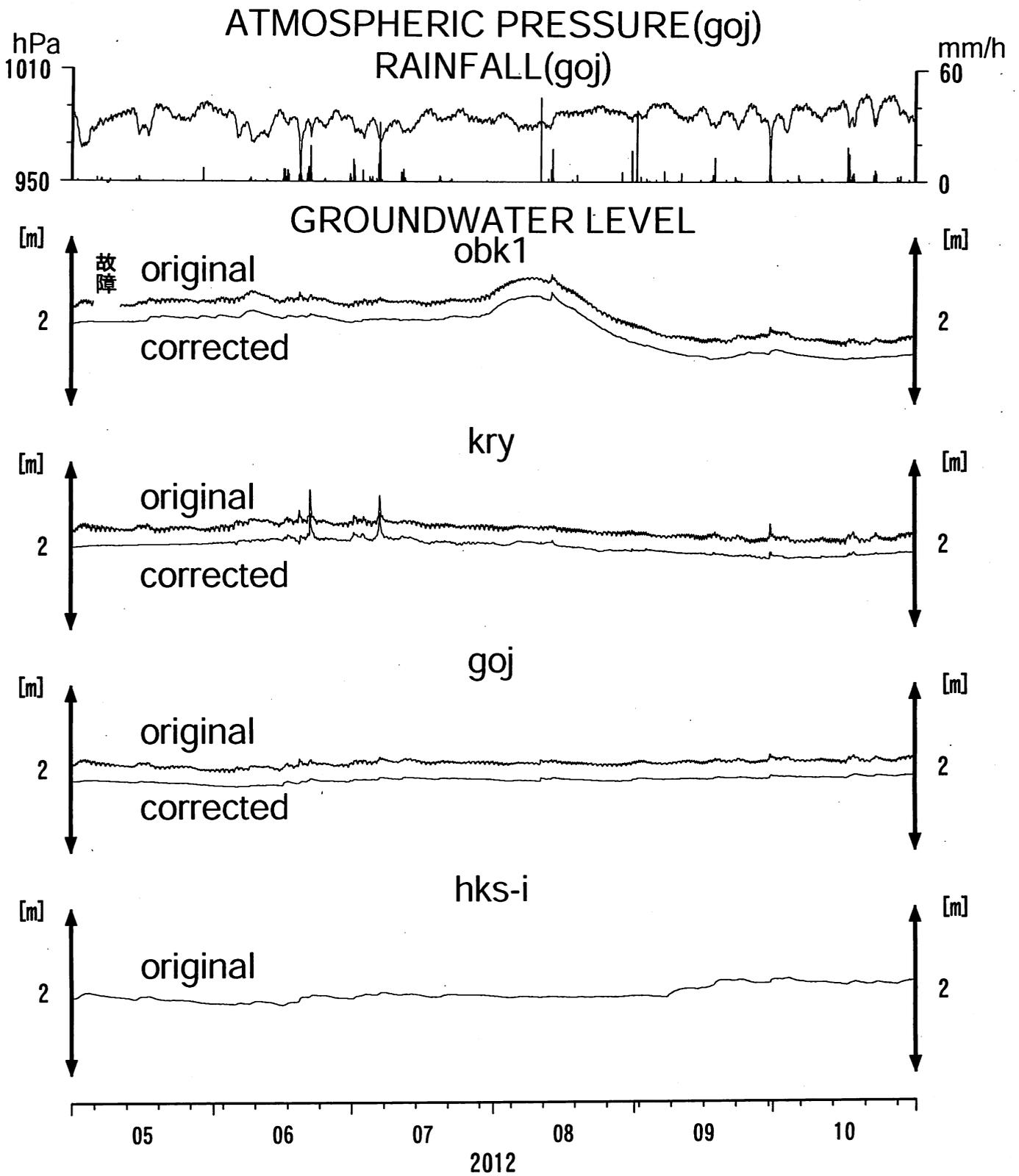


Fig.6

産業技術総合研究所(産総研)では、2007年度から東海・紀伊半島・四国の14点で地下水等総合観測施設を順次整備し、地下水・歪等の観測を開始している。既存の4観測点と合わせて、観測点配置図を第1図に示す。

第2～34図には、2012年5月～2012年10月における歪・傾斜・地下水位の1時間値の生データ(上線)と補正值(下線)を示す。歪・傾斜の図において「N120E」などと示してあるのは、歪・傾斜の測定方向が北から120度東方向に回転していることを示す。補正值は、潮汐解析プログラムBAYTAP-G[Tamura *et al.*, 1991]によって、気圧・潮汐・不規則ノイズの影響を除去した結果である。歪・傾斜のグラフについては、直線トレンド(1次トレンド)を除去している。第35～40図には、産総研で決定した、エンベロープ相関法による深部低周波微動の震源の時空間分布および個数を示す。

東海全体(RT0～3)で微動の発生回数が50個/日以上の日を含む期間(その期間については、回数が20個/日以上で活動開始、20個/日未満で活動終了と判断する)については、第2～6図および第35～36図に灰色網掛けにてその期間を主な活動地域(RT0～3)と共に表示した。紀伊半島全体(RK0～4)で微動の発生回数が50個/日以上の日を含む期間(その期間については、回数が20個/日以上で活動開始、20個/日未満で活動終了と判断する)については、第6～19図および第37～38図に灰色網掛けにてその期間を主な活動地域(RK0～4)と共に表示した。四国東部(RS4～RS6)の合計で微動の発生回数が25個/日以上の日を含む期間(その期間については、回数が10個/日以上で活動開始、10個/日未満で活動終了と判断する)については、第20～28図および第39～40図に灰色網掛けにてその期間を主な活動地域(RS4～6)と共に表示した。四国西部(RS0～RS3)の合計で微動の発生回数が100個/日以上の日を含む期間(その期間については、回数が20個/日以上で活動開始、20個/日未満で活動終了と判断する)については、第25～34図および第39～40図に灰色網掛けにてその期間を主な活動地域(RS0～3)と共に表示した。

歪・傾斜の変化から短期的SSEの断層モデルを推定したイベントについて、その解析結果を報告する。断層モデル推定手法については、解析結果の後に示す。

2012年8月12日～14日午前にかけて、三重県中部～奈良県東部県境付近において活発な深部低周波微動活動が観測され(第41図)、同時期に産総研の多成分歪3観測点、傾斜2観測点、防災科研Hi-net高感度加速度計(傾斜)3観測点において変化が観測された(第42図)。断層面の推定を行った結果を第43図に示す。推定されたMwは5.7であった。すべり面直上の観測点が少ないため、断層面の大きさに関しては任意性が高いと考えられる。

三重県中部では、89日前の5月15日～16日午前にかけて三重県中部～伊勢湾でMw5.8、120日前の4月14日～16日にかけてMw5.6、188日前の2月6日午後～11日にかけてMw5.7の短期的SSEが発生したと推定されている(第43図)。

2012年8月16日～18日(期間A)にかけて長野県南部で、19日～25日(期間B)にかけては愛知県北東部において活発な深部低周波微動活動が観測され(第44図)、期間Aでは産総研の多成分歪1観測点、気象庁の多成分歪6観測点で、期間Bでは産総研の多成分歪2観測点、気象庁の多成分歪7観測点において変化が観測された(第45図)。2つの期間について断層面の推定を行った結果を第46～47図に示す。なお、気象庁掛川富部観測点の水平歪1は、期間中にローカルな変位によると推定される異常な変化が、気象庁浜松春野観測点の水平歪1はノイズレベルが高いため、動成分を除く3成分のみを解析に使用した。2つの期間において推定されたMwはそれぞれ5.8、5.9であった。期間Aに関しては、直前の降雨の影響が残っているため、誤差が大きいと考えられる。

長野県南部～愛知県北東部県境付近で活発な深部低周波微動活動が観測されたのは2010年11月以来である。

2012年9月4日～5日にかけて、豊後水道において活発な深部低周波微動活動が観測され(第48図)、産総

研の多成分歪1観測点、防災科研Hi-net高感度加速度計(傾斜)3観測点において変化が観測された(第49図)。これらの観測結果から断層面の推定を行った結果を第50図に示す。推定されたMwは5.6であった。この領域及び断層面に隣接する四国西部では、94日前の2012年5月26日～6月2日午前にかけて、Mw5.5～Mw5.7(3期間に分割)の短期的SSEが発生したと推定されている。

2012年10月2日頃～4日午前にかけて、三重県中部付近において活発な深部低周波微動活動が観測され(第51図)、産総研の多成分歪3観測点および傾斜1観測点、気象庁の多成分歪計2観測点、防災科研Hi-net高感度加速度計(傾斜)3観測点において変化が観測された(第52図)。これらの観測結果から断層面の推定を行った結果を第53図に示す。9月30日頃に降った大雨の影響をなるべく避けるため、解析の開始日を、10月2日とした。終了日は、微動を参考に4日12時までとした。推定されたMwは5.7であった。大雨の影響も含まれ、断層面の位置および大きさに関しては任意性が高いと考えられる。断層面に隣接する奈良県東部～三重県中部付近では、48日前の8月12日～14日午前にかけて、短期的SSEが発生したと推定されている(第53図)。

三重県中部では、138日前の5月15日～16日午前にかけて三重県中部～伊勢湾でMw5.8の短期的SSEが発生したと推定されている。

2012年10月27日～29日午前にかけて、奈良県南部において活発な深部低周波微動活動が観測され(第54図)、同時期に産総研の多成分歪1観測点において変化が観測された(第55図)。Mwを把握することを目的に観測結果から断層面の推定を行った結果を第56図に示す。推定されたMwは5.5であった。最終解については、断層の位置・大きさを微動域に限定している。

奈良県南部では、140日前の2012年6月8日午後～9日にかけてMw5.6の短期的SSEが発生したと推定されている。なお、Itaba and Ando [2011]によると、同領域の平均的な活動間隔は 120 ± 20 日である。

2012年10月31日～11月5日にかけて、愛知県中部において活発な深部低周波微動活動が観測され(第57図)、産総研の多成分歪2観測点、気象庁の多成分歪計5観測点、防災科研Hi-net高感度加速度計(傾斜)5観測点において変化が観測された(第58図)。微動の時空間分布および歪・傾斜変化から期間を期間A(10月31日～11月2日)と期間B(11月3日～5日)の2つに分けて、断層面の推定を行った結果を第59～60図に示す。推定されたMwは期間Aで5.5、期間BでMw5.7であった。断層面に隣接する長野県南部～愛知県北東部では、63日前の2012年8月16日～25日にかけて、Mw5.8およびMw5.9の短期的SSEが発生したと推定されている(第59～60図)。

愛知県中部では、217日前の3月23日午後～28日午前にかけてMw5.7の短期的SSEが発生したと推定されている。この領域における2008年5月以降の7回(今回を除く)の活動の発生間隔は198～266日間である。

解析方法

短期的SSEの断層面推定には、それぞれの観測点の水平歪4成分・体積歪・地下水圧・傾斜2成分の記録を用いる。地下水圧は、O1およびM2分潮の振幅をBAYTAP-G [Tamura et al., 1991]により計算し、GOTIC2 [Matsumoto et al., 2001]により推定した地球個体潮汐および海洋荷重潮汐(O1およびM2分潮)との振幅比を用いて、体積歪に変換する。歪・地下水・傾斜ともに、観測波形からBAYTAP-Gにより、気圧応答成分、潮汐成分およびホワイトノイズ成分を取り除く。また、イベント直前の期間を用いて1次トレンドも取り除く。微動活動も参考にして、数時間～半日単位で活動開始・終了時期を判断し、その期間の変化量を短期的SSEによる変化量とする。その際、歪についてはMatsumoto et al. [2010]の手法で理論潮汐歪を用いてキャリブレーションを行っている。

断層面の推定は、計算時間の短縮と、推定された結果の一意性を確認するために2段階で行う。断層面推定は板場ほか[2012]の手法を用いた。フィリピン海プレート境界面上[弘瀬ほか、2007]に多数の断層面を仮定してグリッドサーチにより推定する。仮定した断層面上のすべりによって各観測点で期待される歪変化の計算にはOkada [1992]のプログラムを用いる。1段階目には、断層面のサイズは固定(幅・長さ共に20km)、断層面の位置(0.1° 間隔)およびすべり量(1～100mmの間で1mm間隔)のみ可変として広範囲で計算を行う。1段階目の結果を示す図では、それぞれの断層面において最適なすべり量を与えたときの、観測値と計算値(期待値)との残差分布を示している。これにより、短期的SSEが生じている可能性が高い領域を絞り込むとともに、推定された結果の任意性を確認することが出来る。2段階目には、1段階目で絞り込んだ領域(=残差が小さい領域)付近で、位置及びすべり量に加えて、断層面の長さを10～80km、幅を10～50km、それぞれ1km間隔で可変と

して計算を行なう。その結果、観測値との残差が最小となる断層面が1つ計算されるが、計算に使用している観測点数が少ない場合や、断層面と観測点配置の関係によっては任意性が高くなるので注意が必要である。なお、異種観測値を統合して解析するため、観測点ごとに残差をノイズレベルによって規格化している。ノイズレベルは、気圧応答、潮汐成分およびホワイトノイズ成分を取り除いた後(微動活動が活発な期間および周辺の日雨量50mmを超える時期を除く)の24時間階差の 2σ とした。

深部低周波微動の検出・震源決定には、エンベロープ相関法を用いている。

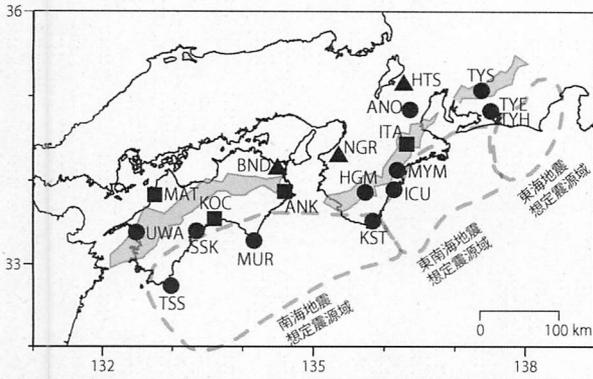
謝辞

短期的SSEの断層モデル推定には、防災科研Hi-net高感度加速度計(傾斜計)および気象庁、静岡県の多成分歪計および体積歪計の記録を使用しました。気象庁の歪計データを解析する際には、気象庁によるキャリブレーション係数を使用しました。微動の解析には、防災科研Hi-net、気象庁、東京大学、京都大学、名古屋大学、高知大学、九州大学の地震波形記録を使用しました。低周波地震の震央位置表示には、気象庁の一元化カタログを使用しました。ここに記して感謝します。

(板場智史・北川有一・小泉尚嗣・高橋誠・松本則夫・武田直人)

参考文献

- 弘瀬冬樹, 中島淳一, 長谷川昭 (2007), Double-Difference Tomography法による西南日本の3次元地震波速度構造およびフィリピン海プレートの形状の推定, *地震*, **60**, 1-20.
- 板場智史, 松本則夫, 北川有一, 小泉尚嗣, 木村武志, 木村尚紀, 廣瀬仁, 針生義勝, 歪・傾斜統合解析による短期的SSE断層モデルの推定, *日本地震学会, 2011年度秋期大会*, 静岡, 10月, 2011.
- 板場智史, 松本則夫, 北川有一, 小泉尚嗣, 松澤孝紀, 歪・傾斜・地下水統合解析による短期的スロースリップイベントのモニタリング, *日本地球惑星連合2012年大会*, 千葉, 5月, 2012.
- Itaba, S., and R. Ando, A slow slip event triggered by teleseismic surface waves, *Geophys. Res. Lett.*, **38**, L21306, doi:10.1029/2011GL049593, 2011.
- Matsumoto, K., T. Sato, T. Takanezawa, and M. Ooe, GOTIC2: A Program for Computation of Oceanic Tidal Loading Effect, *J. Geod. Soc. Japan*, **47**, 243-248, 2001.
- Matsumoto, N., O. Kamigaichi, Y. Kitagawa, S. Itaba, and N. Koizumi (2010), In-situ Calibration of Borehole Strainmeter Using Green's Functions for Surface Point Load at a Depth of Deployment, *Eos, Trans. AGU*, Abstract G11A-0626.
- Okada, Y. (1992), Internal deformation due to shear and tensile faults in a half-space, *Bull. Seismol. Soc. Am.*, **82**, 1018-1040.
- Tamura, Y., T. Sato, M. Ooe and M. Ishiguro (1991), A procedure for tidal analysis with a Bayesian information criterion, *Geophys. J. Int.*, **104**, 507-516.

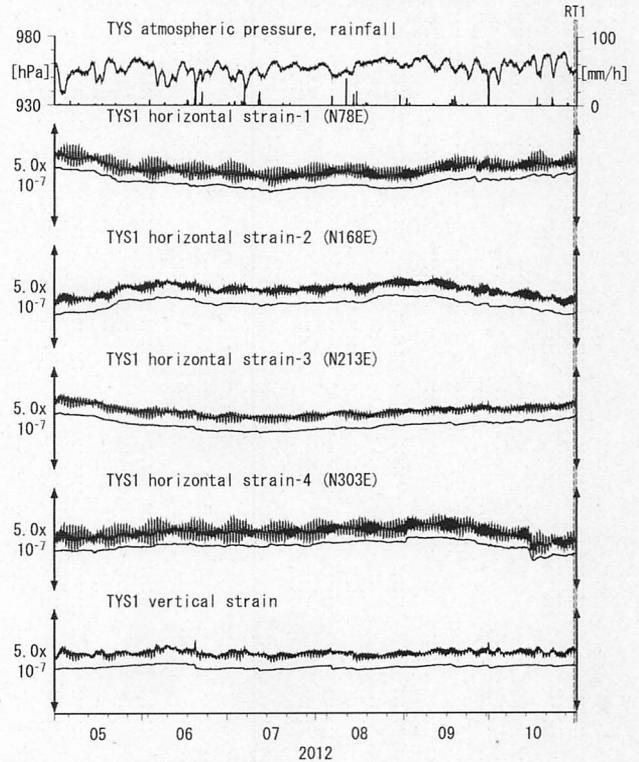


第1図: 地下水位観測点の分布図 (●・■・▲)。●はデジタル方式の石井式歪計・傾斜計をしている新規観測点、■はGladwin式歪計・ミットヨ式傾斜計を併設している新規観測点、▲はアナログ方式の石井式歪計を併設している既存の観測点。灰色の領域は短期的SSE及び深部低周波微動が定期的に発生していると考えられる地域。

第1表: 産総研観測点の新名称。平成23年1月17日から「市町村名」+「町・字名等」を基本とする名称に変更している。なお、3文字コードは変更していない。

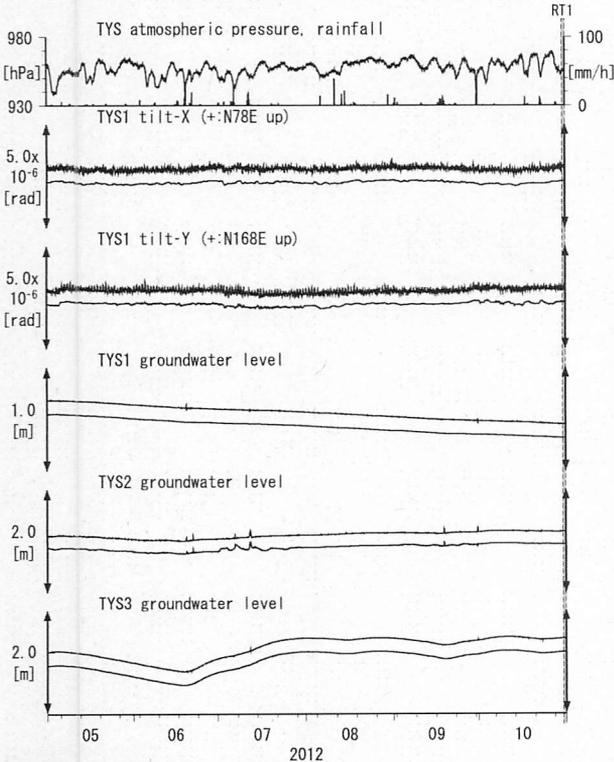
3文字コード (変更無し)	旧名称	新名称	新名称ふりがな	市区町村	図
TYS	豊田下山	→ 豊田神社	とよたかんの	愛知県豊田市	2,3
TYE	豊橋東	→ 豊橋多米	とよはしため	愛知県豊橋市	4,5
HTS	桑荘	→ 桑荘香の庄	あいしょうこうのしょう	滋賀県桑知郡桑荘町	6
ANO	安濃	→ 津安濃	つあのおう	三重県津市	7,8
ITA	飯高赤桶	→ 松阪飯高	まつさかいいたか	三重県松阪市	9,10
MYM	海山	→ 紀北海山	きほくみやま	三重県北牟婁郡紀北町	11,12
ICU	井内浦	→ 熊野磯崎	くまのいそざき	三重県熊野市	13,14
HGM	本宮三越	→ 田辺本宮	たなべほんぐう	和歌山県田辺市	15,16
KST	串本津荷 変更無し	串本津荷	くしもとつが	和歌山県東牟婁郡串本町	17,18
NGR	根来	→ 岩出東坂本	いわでひがしざかもと	和歌山県岩出市	19
BND	板東	→ 嘴門大麻	なるとおおあさ	徳島県嘴門市	20
ANK	阿南桑野 変更無し	阿南桑野	あなんくわの	徳島県阿南市	21,22
MUR	室戸	→ 室戸岬	むろとみさき	高知県室戸市	23,24
KOC	高知市	→ 高知五台山	こうちごだいせん	高知県高知市	25,26
SSK	須崎	→ 須崎大谷	すざきおおたに	高知県須崎市	27,28
TSS	土佐清水	→ 土佐清水松尾	とさしみずまつお	高知県土佐清水市	29,30
UWA	宇和	→ 西予宇和	せいようわ	愛媛県西予市	31,32
MAT	松山	→ 松山南江戸	まつやまみなみえど	愛媛県松山市	33,34

第2図 Crustal strains at TYS (時間値)
(2012/05/01 00:00 - 2012/11/01 00:00)



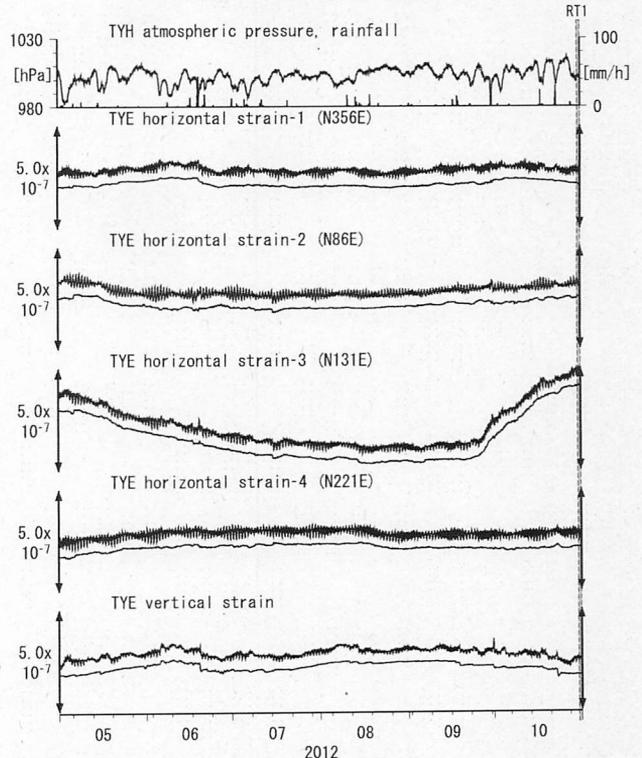
Strainmeter depth = 586.7-588.1 [GL-m]
上: 1次トレンドを除去
下: BAYTAP-GIにより潮汐・気圧応答・ノイズ成分を除去後、1次トレンドも除去

第3図 Tilt and groundwater level at TYS (時間値)
(2012/05/01 00:00 - 2012/11/01 00:00)



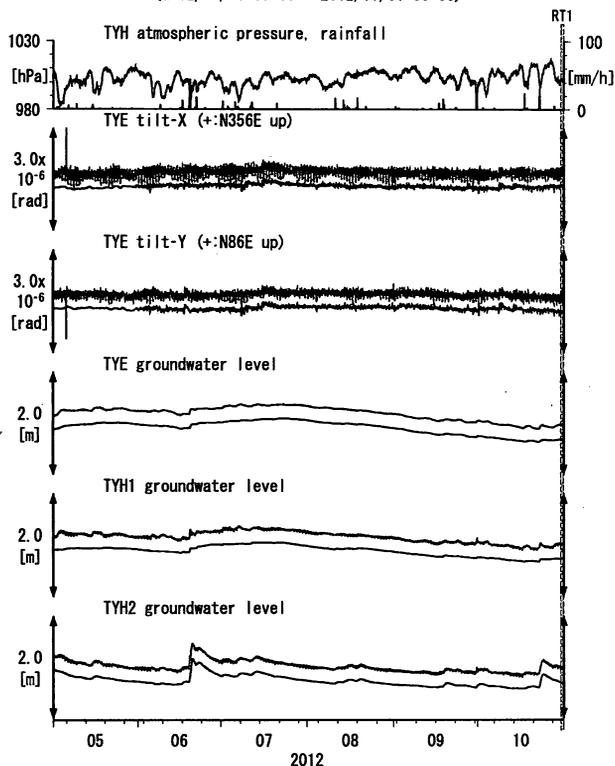
Tiltmeter depth = 585.9-586.7 [GL-m]
TYS1: Screen depth = 404.8-426.7 [GL-m]
TYS2: Screen depth = 148.8-154.3 [GL-m]
TYS3: Screen depth = 26.8-32.3 [GL-m]
上: tiltは1次トレンド除去
下: BAYTAP-GIにより潮汐・気圧応答・ノイズ成分除去、tiltは1次トレンドも除去

第4図 Crustal strain at TYE (時間値)
(2012/05/01 00:00 - 2012/11/01 00:00)



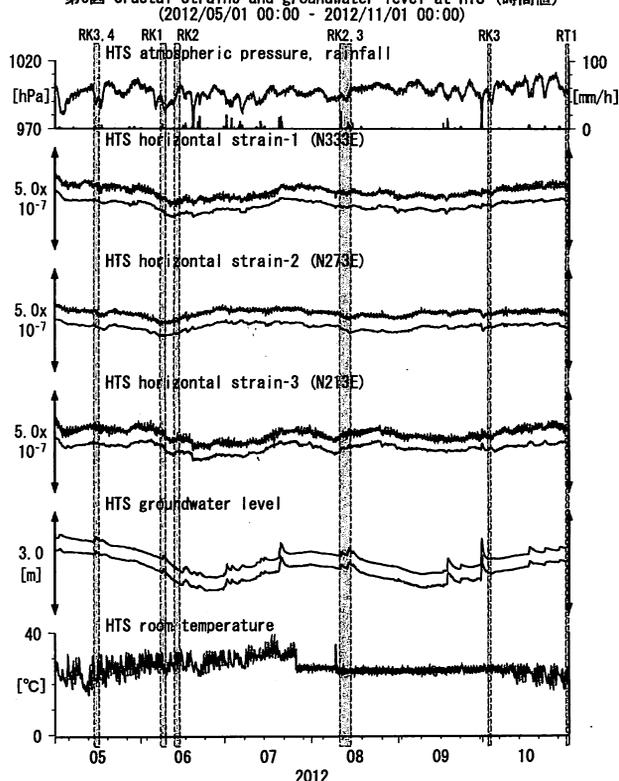
Strainmeter depth = 266.5-267.9 [GL-m]
上: 1次トレンドを除去
下: BAYTAP-GIにより潮汐・気圧応答・ノイズ成分を除去後、1次トレンドも除去

第5図 Tilt and groundwater level at TYE and TYH (時間値)
(2012/05/01 00:00 - 2012/11/01 00:00)



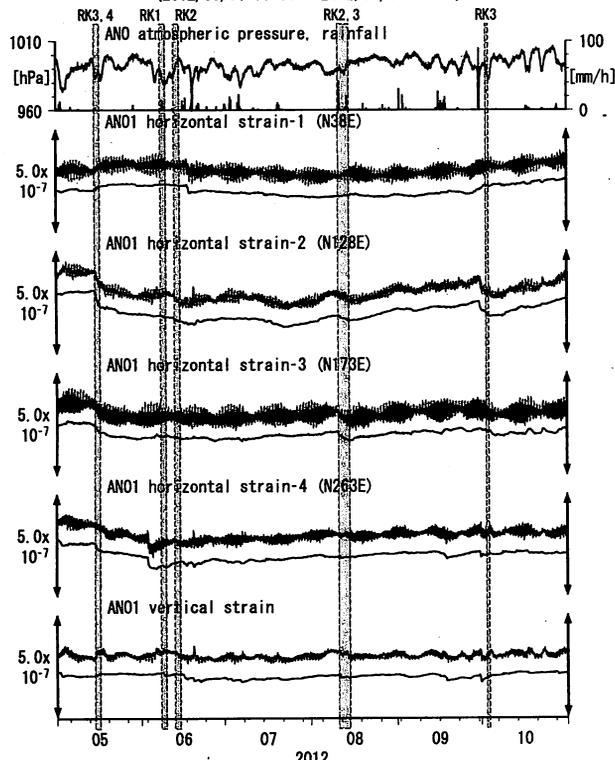
Tiltmeter depth = 265.6-266.5 [GL-m]
 TYE : Screen depth = 185.9-207.8 [GL-m]
 TYH1 : Screen depth = 178.6-200.4 [GL-m]
 TYH2 : Screen depth = 133.7-150.0 [GL-m]
 上: tiltは1次トレンドを除去
 下: BAYTAP-Gにより潮汐・気圧応答・ノイズ成分を除去、tiltは1次トレンドも除去

第6図 Crustal strains and groundwater level at HTS (時間値)
(2012/05/01 00:00 - 2012/11/01 00:00)



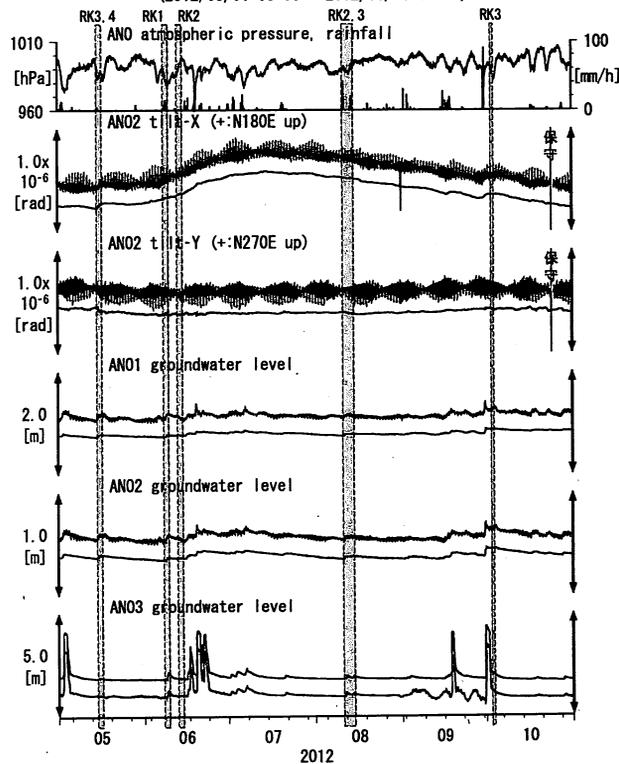
Strainmeter depth = 433.5-436.5 [GL-m]
 Screen depth = 338.3-360.1 [GL-m]
 上: strainは1次トレンドを除去
 下: BAYTAP-Gにより潮汐・気圧応答・ノイズ成分を除去、strainは1次トレンドも除去

第7図 Crustal strains at ANO (時間値)
(2012/05/01 00:00 - 2012/11/01 00:00)



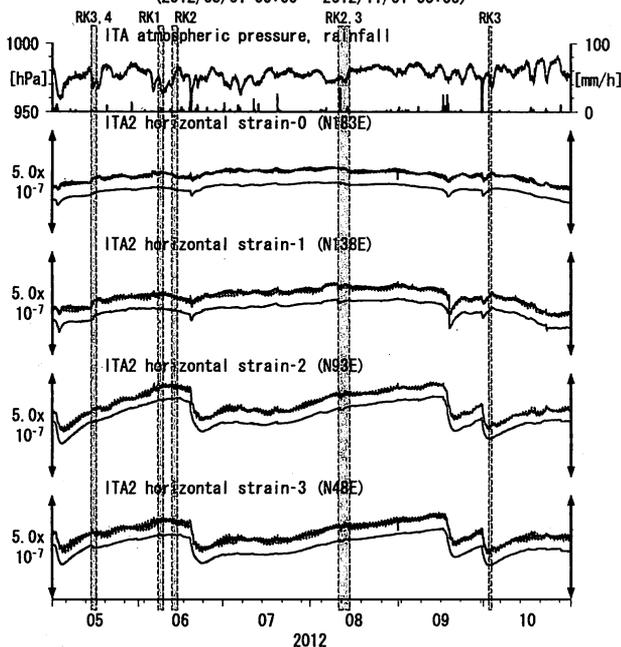
Strainmeter depth = 588.9-590.3 [GL-m]
 上: 1次トレンドを除去
 下: BAYTAP-Gにより潮汐・気圧応答・ノイズ成分を除去、1次トレンドも除去

第8図 Tilt and groundwater level at ANO (時間値)
(2012/05/01 00:00 - 2012/11/01 00:00)



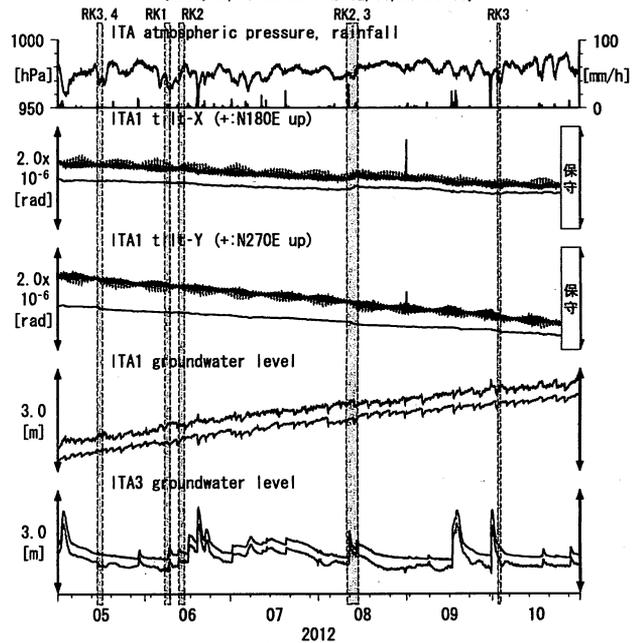
Tiltmeter depth = 236.6-237.3 [GL-m]
 ANO1 : Screen depth = 502.7-513.6 [GL-m]
 ANO2 : Screen depth = 197.5-208.5 [GL-m]
 ANO3 : Screen depth = 12.0-22.9 [GL-m]
 上: tiltは1次トレンド除去
 下: BAYTAP-Gにより潮汐・気圧応答・ノイズ成分を除去、tiltは1次トレンドも除去

第9図 Crustal strains at ITA (時間値)
(2012/05/01 00:00 - 2012/11/01 00:00)



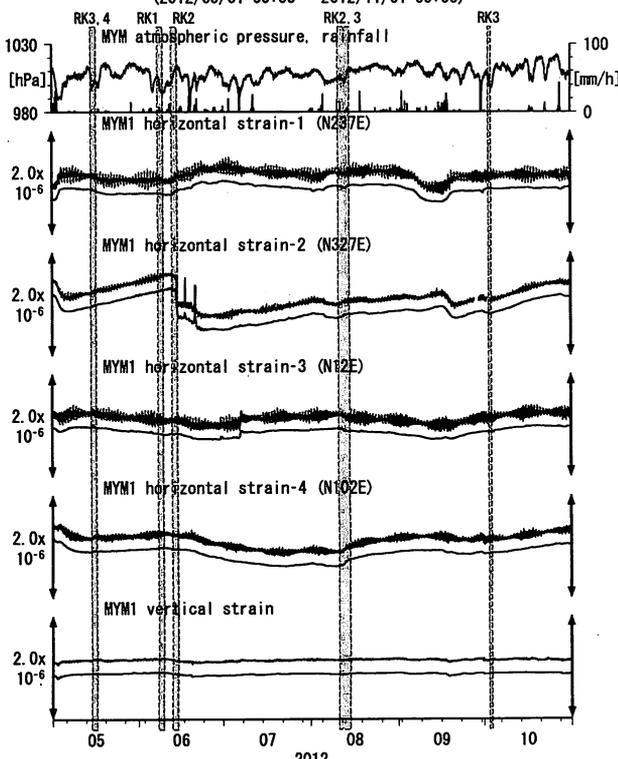
Strainmeter depth = 181.3-183.6 [GL-m]
上: 1次トレンドを除去
下: BAYTAP-Gにより潮汐・気圧応答・ノイズ成分を除去後、1次トレンドも除去

第10図 Tilt and groundwater level at ITA (時間値)
(2012/05/01 00:00 - 2012/11/01 00:00)



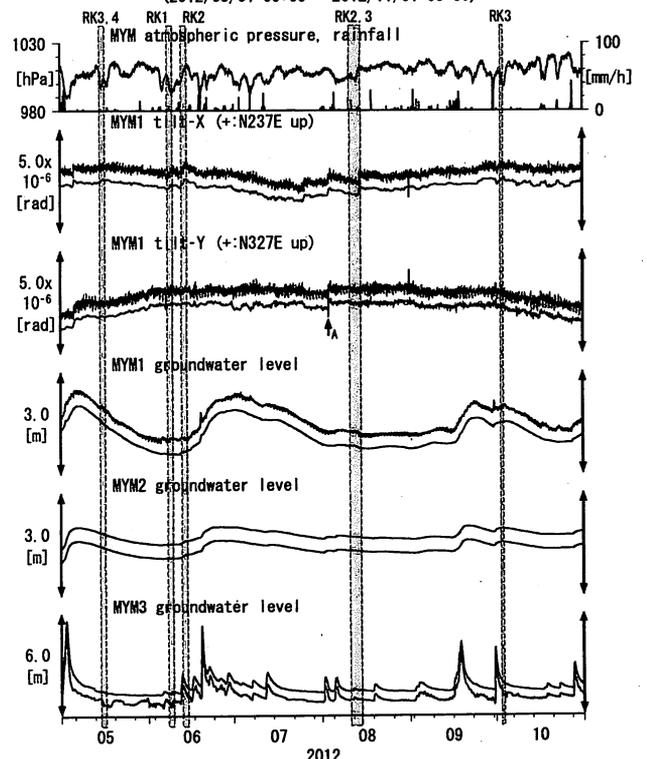
Tiltmeter depth = 596.7-597.3 [GL-m]
ITA1 : Screen depth = 547.6-558.5 [GL-m]
ITA3 : Screen depth = 10.8-16.3 [GL-m]
上: tiltは1次トレンドを除去
下: BAYTAP-Gにより潮汐・気圧応答・ノイズ成分を除去後、tiltは1次トレンドも除去

第11図 Crustal strains at MYM (時間値)
(2012/05/01 00:00 - 2012/11/01 00:00)

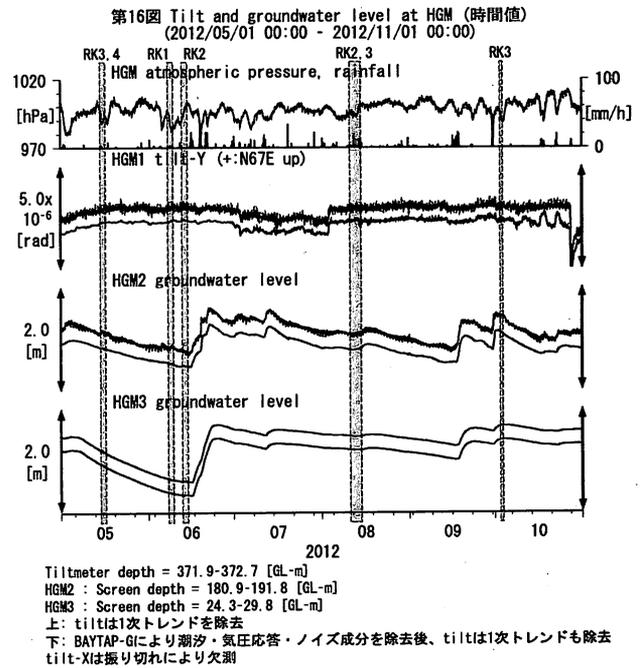
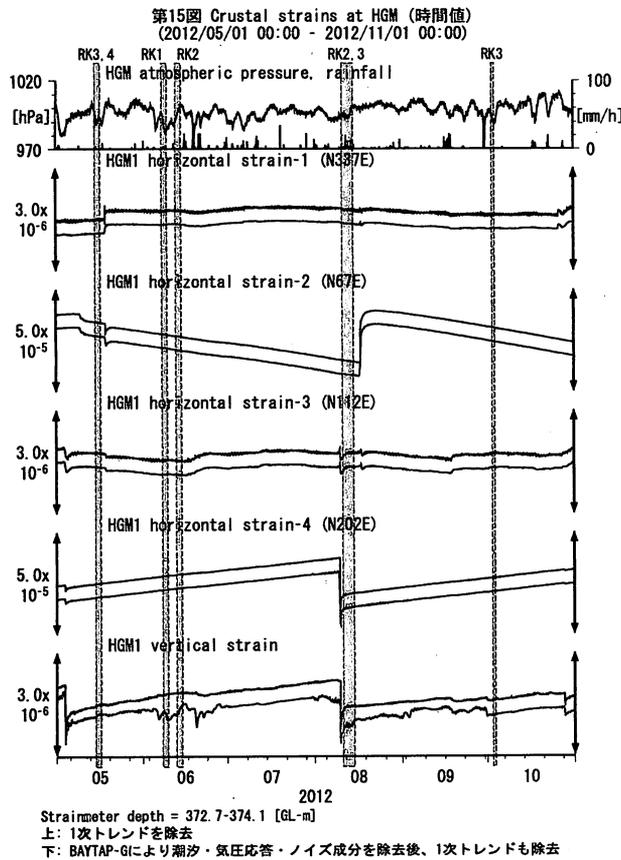
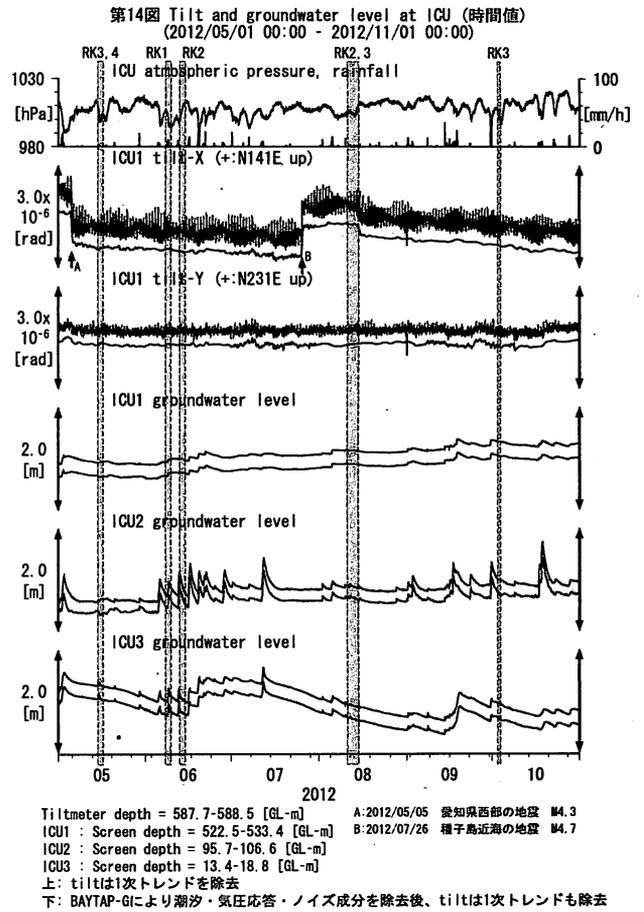
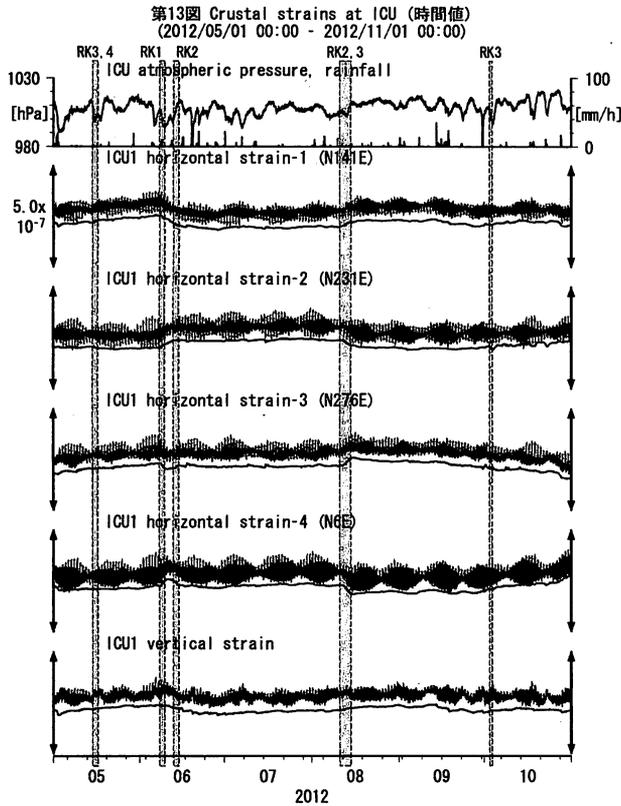


Strainmeter depth = 590.0-591.4 [GL-m]
上: 1次トレンドを除去
下: BAYTAP-Gにより潮汐・気圧応答・ノイズ成分を除去後、1次トレンドも除去

第12図 Tilt and groundwater level at MYM (時間値)
(2012/05/01 00:00 - 2012/11/01 00:00)

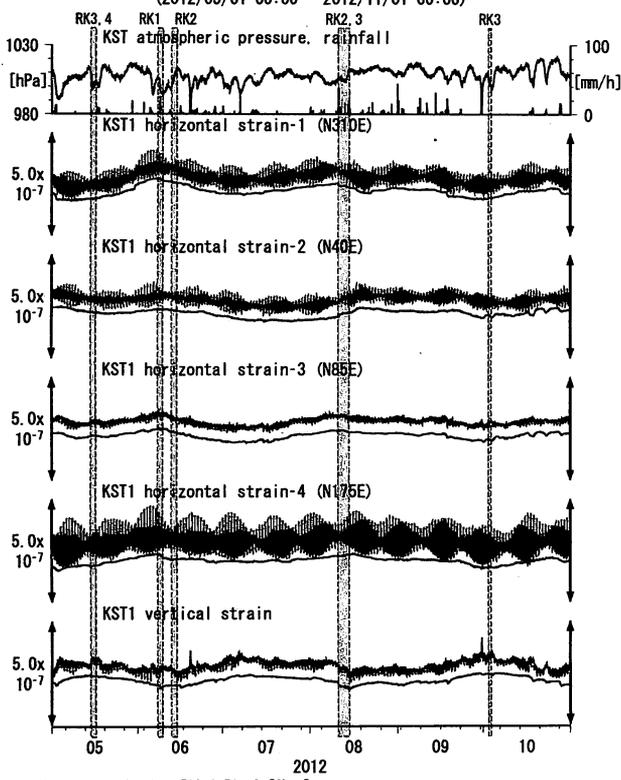


Tiltmeter depth = 589.2-590.0 [GL-m] A:2012/08/03 和歌山県南部の地震 Ⅲ3.7
MYM1 : Screen depth = 418.9-429.8 [GL-m]
MYM2 : Screen depth = 140.3-151.1 [GL-m]
MYM3 : Screen depth = 19.9-25.3 [GL-m]
上: tiltは1次トレンドを除去
下: BAYTAP-Gにより潮汐・気圧応答・ノイズ成分を除去後、tiltは1次トレンドも除去



第17図 Crustal strains at KST (時間値)

(2012/05/01 00:00 - 2012/11/01 00:00)



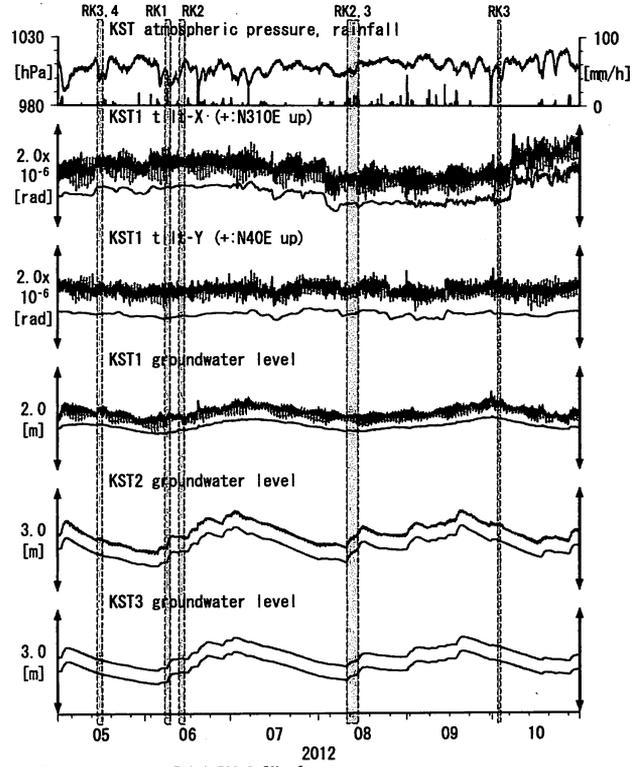
Strainmeter depth = 589.8-591.2 [GL-m]

上: 1次トレンドを除去

下: BAYTAP-Gにより潮汐・気圧応答・ノイズ成分を除去後、1次トレンドも除去

第18図 Tilt and groundwater level at KST (時間値)

(2012/05/01 00:00 - 2012/11/01 00:00)



Tiltmeter depth = 589.0-589.8 [GL-m]

KST1 : Screen depth = 509.2-520.2 [GL-m]

KST2 : Screen depth = 132.9-143.9 [GL-m]

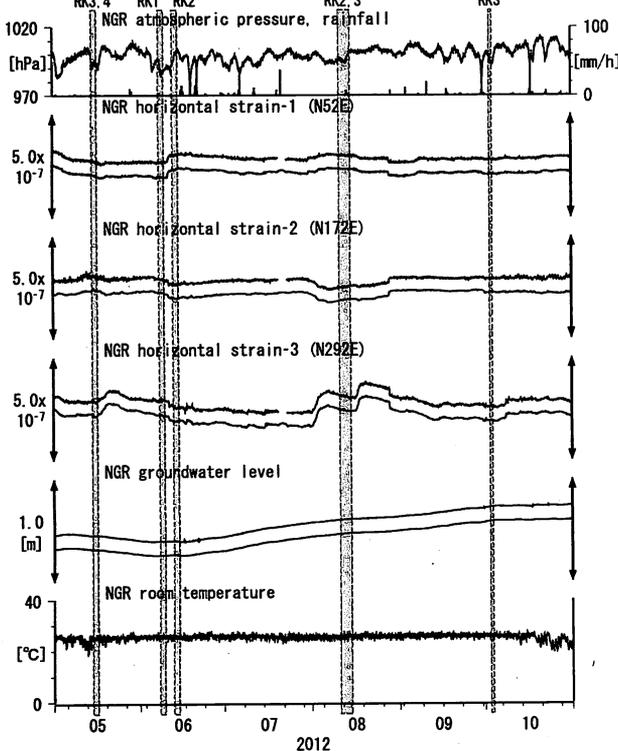
KST3 : Screen depth = 20.4-30.6 [GL-m]

上: tiltは1次トレンドを除去

下: BAYTAP-Gにより潮汐・気圧応答・ノイズ成分を除去後、tiltは1次トレンドも除去

第19図 Crustal strains and groundwater level at NGR (時間値)

(2012/05/01 00:00 - 2012/11/01 00:00)



Strainmeter depth = 616 [GL-m]

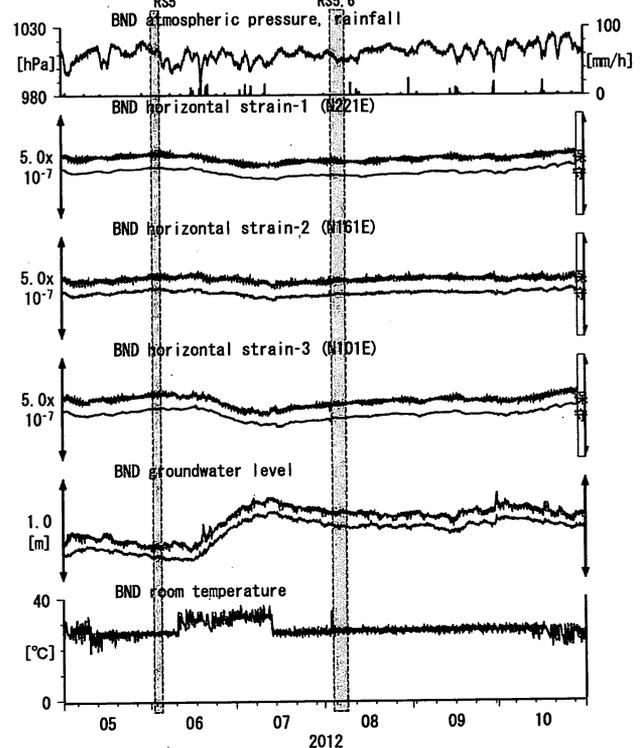
Screen depth = 408.9-446.5 [GL-m]

上: strainは1次トレンドを除去

下: BAYTAP-Gにより潮汐・気圧応答・ノイズ成分を除去後、strainは1次トレンドも除去

第20図 Crustal strains and groundwater level at BND (時間値)

(2012/05/01 00:00 - 2012/11/01 00:00)

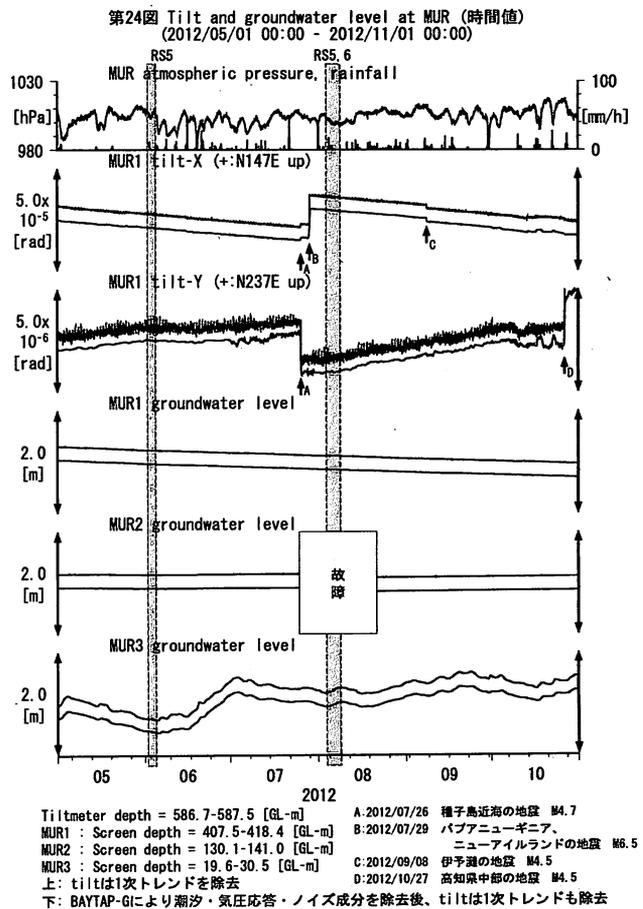
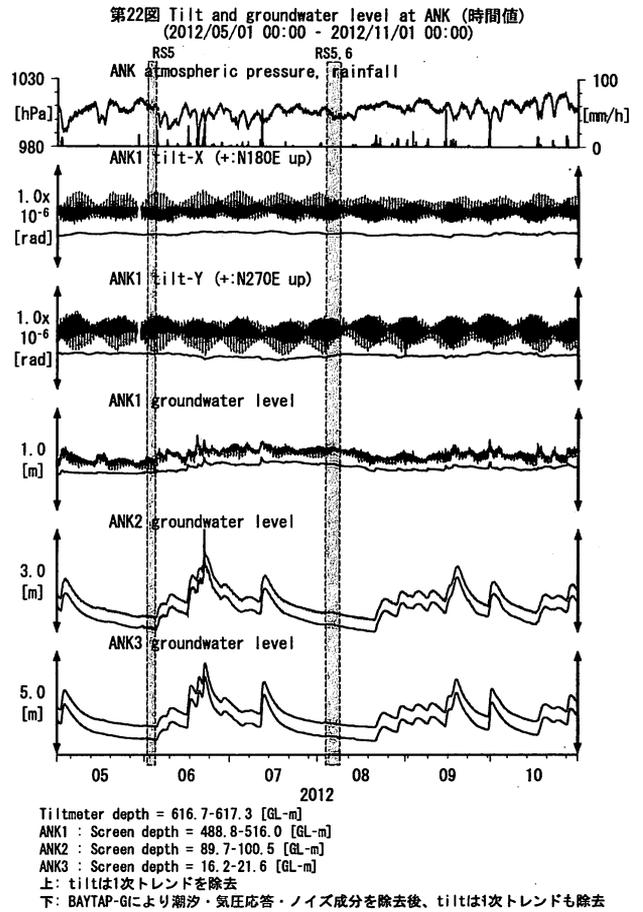
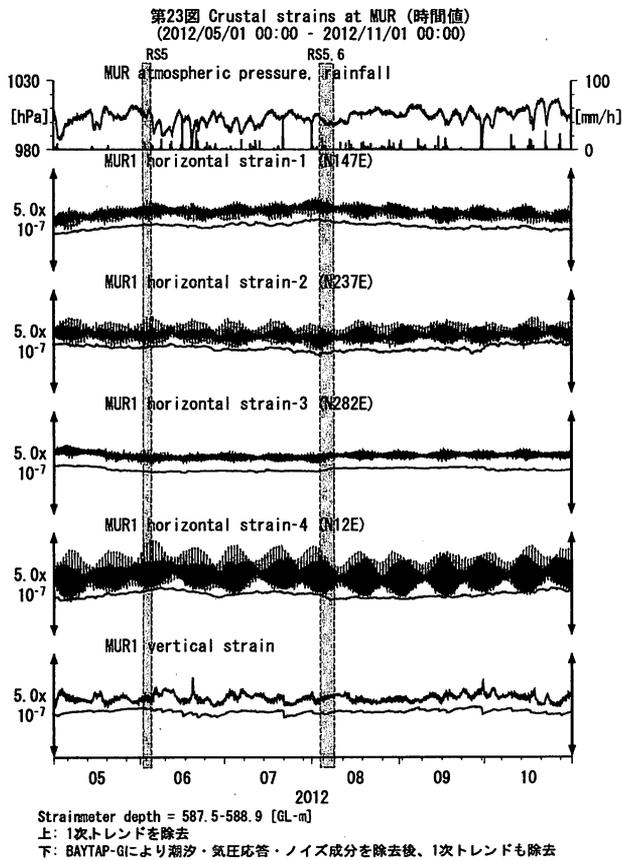
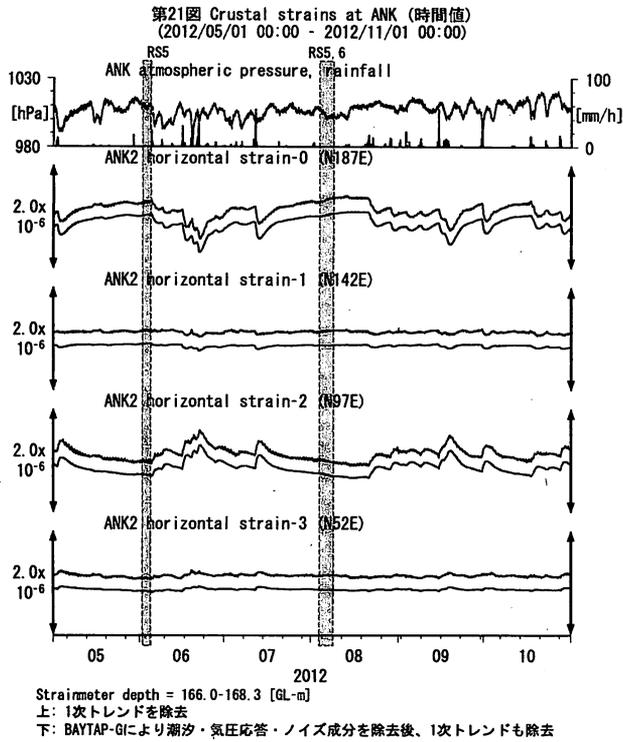


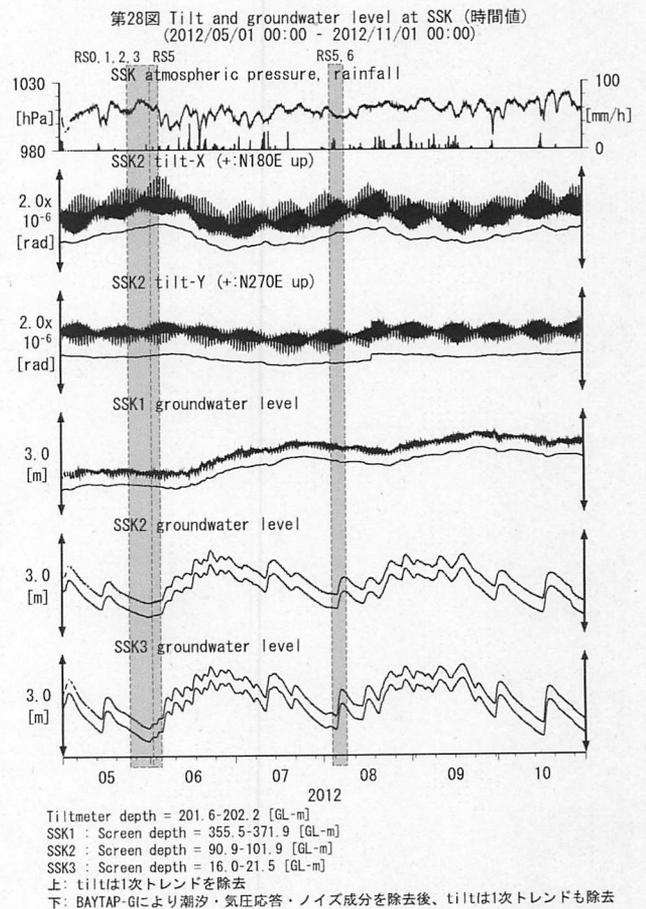
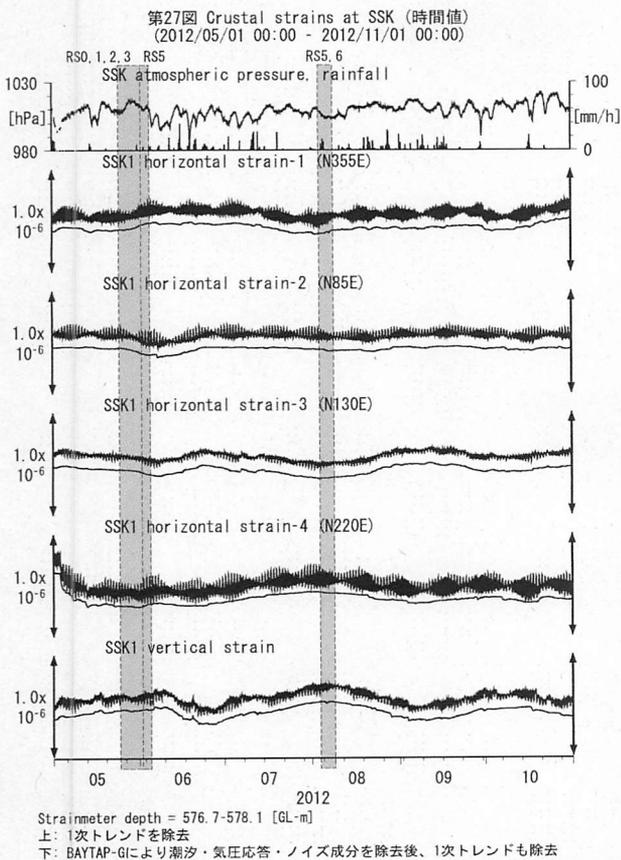
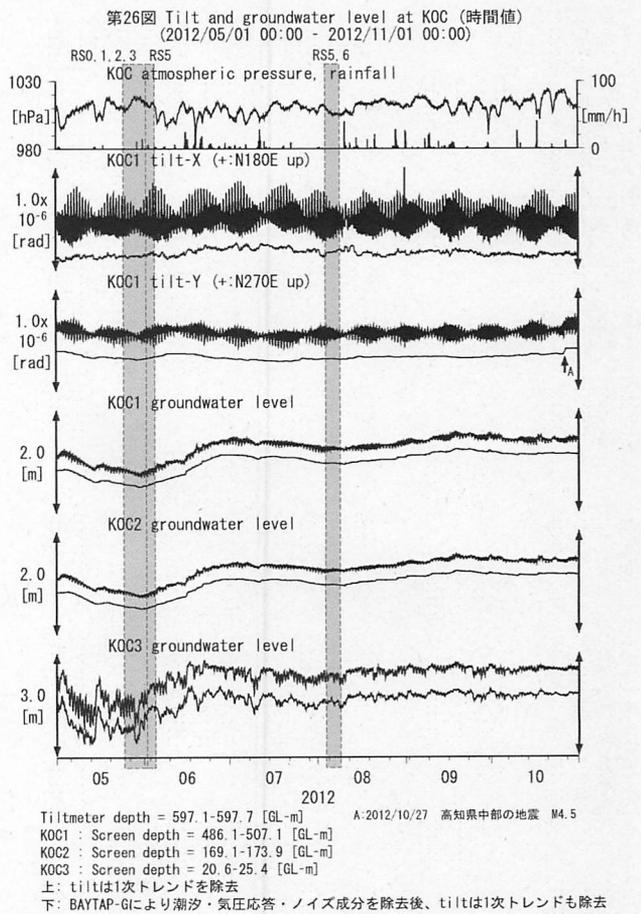
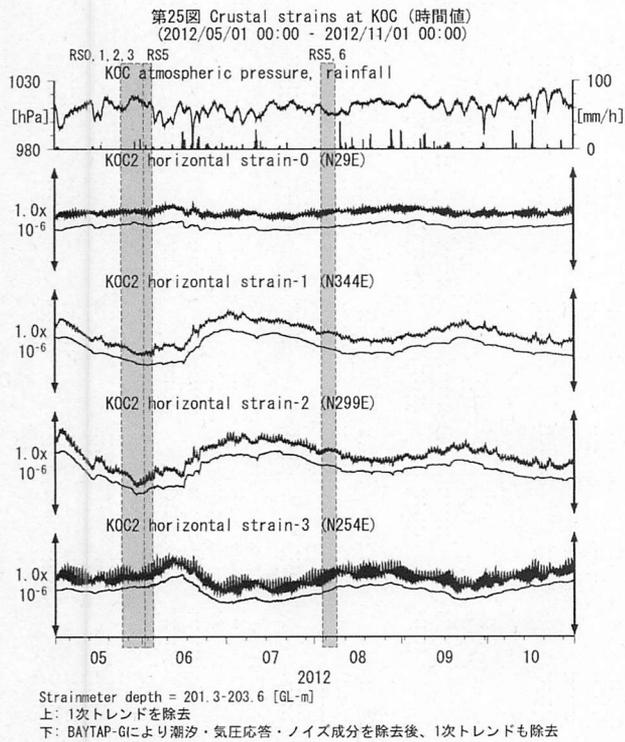
Strainmeter depth = 495.0-498.0 [GL-m]

Screen depth = 419.9-430.8 [GL-m]

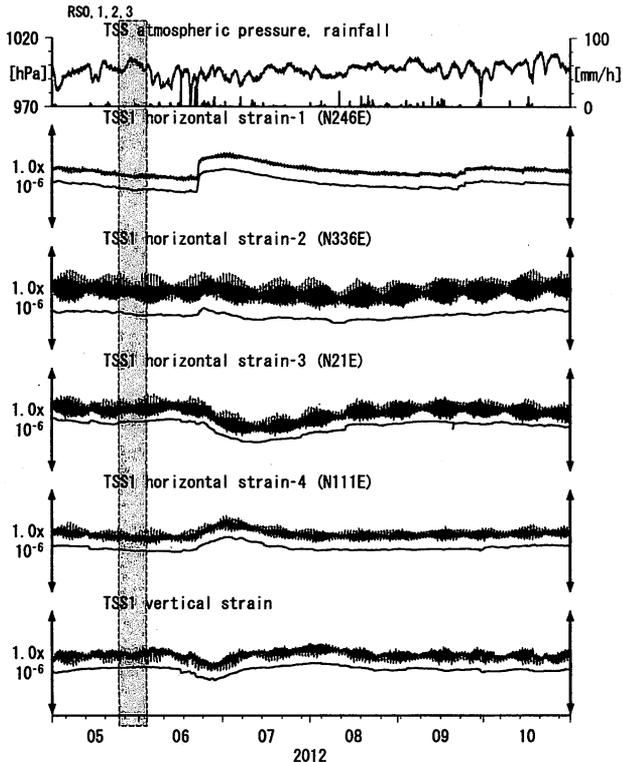
上: strainは1次トレンドを除去

下: BAYTAP-Gにより潮汐・気圧応答・ノイズ成分を除去後、strainは1次トレンドも除去



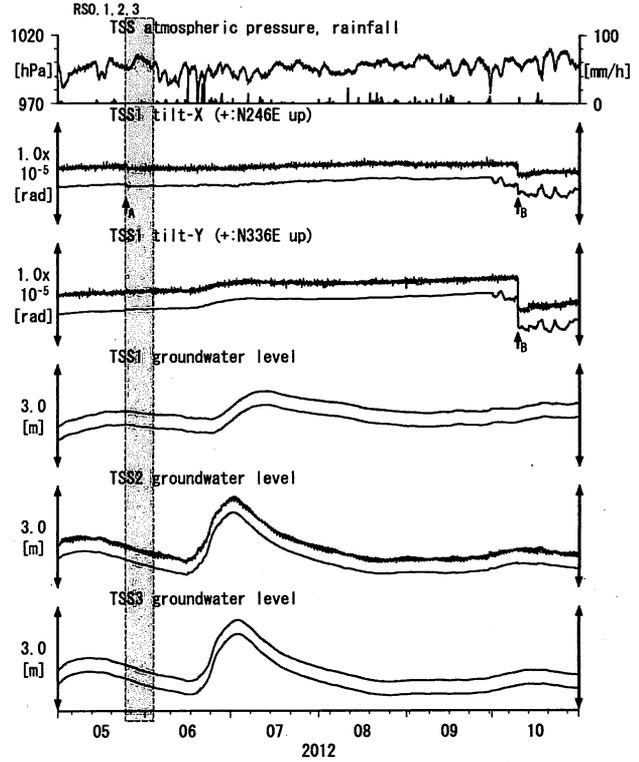


第29図 Crustal strains at TSS (時間値)
(2012/05/01 00:00 - 2012/11/01 00:00)



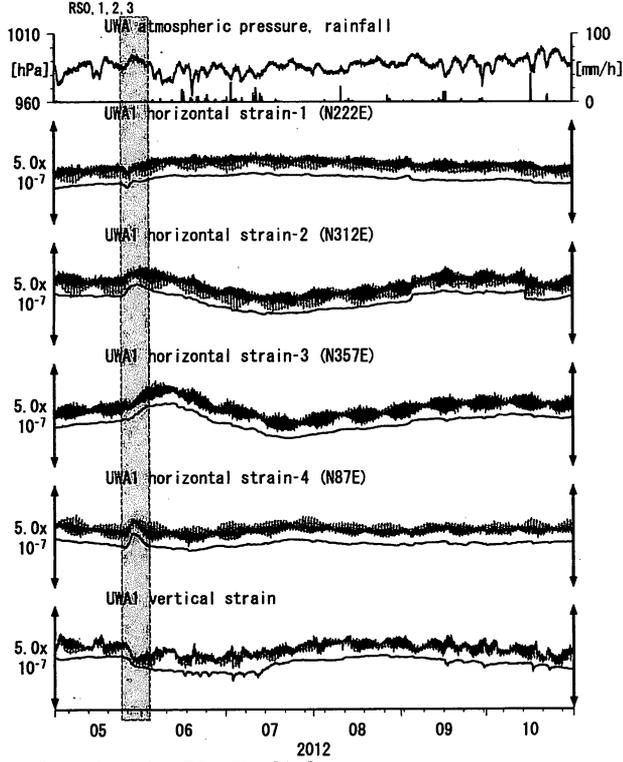
Strainmeter depth = 587.0-588.4 [GL-m]
上: 1次トレンドを除去
下: BAYTAP-GIにより潮汐・気圧応答・ノイズ成分を除去後、1次トレンドも除去

第30図 Tilt and groundwater level at TSS (時間値)
(2012/05/01 00:00 - 2012/11/01 00:00)



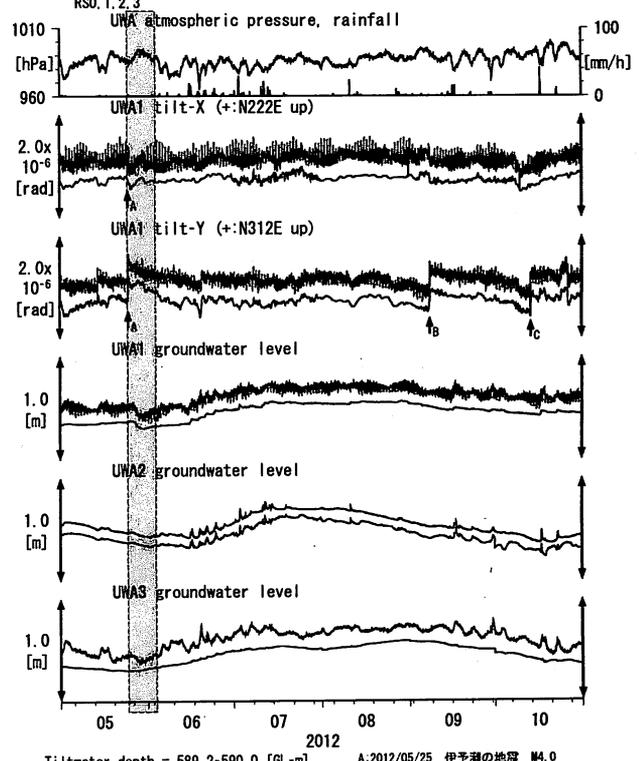
Tiltmeter depth = 586.2-587.0 [GL-m] A: 2012/05/25 伊予灘の地震 M4.0
TSS1 : Screen depth = 467.7-473.2 [GL-m] B: 2012/10/10 日向灘の地震 M4.5
TSS2 : Screen depth = 238.9-244.3 [GL-m]
TSS3 : Screen depth = 129.1-134.6 [GL-m]
上: tiltは1次トレンドを除去
下: BAYTAP-GIにより潮汐・気圧応答・ノイズ成分を除去後、tiltは1次トレンドも除去

第31図 Crustal strains at UWA (時間値)
(2012/05/01 00:00 - 2012/11/01 00:00)



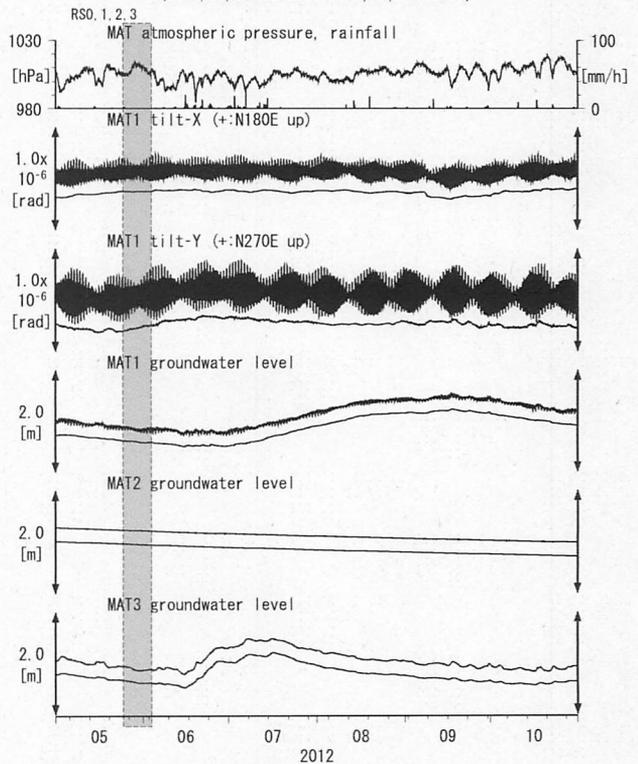
Strainmeter depth = 590.0-591.4 [GL-m]
上: 1次トレンドを除去
下: BAYTAP-GIにより潮汐・気圧応答・ノイズ成分を除去後、1次トレンドも除去

第32図 Tilt and groundwater level at UWA (時間値)
(2012/05/01 00:00 - 2012/11/01 00:00)



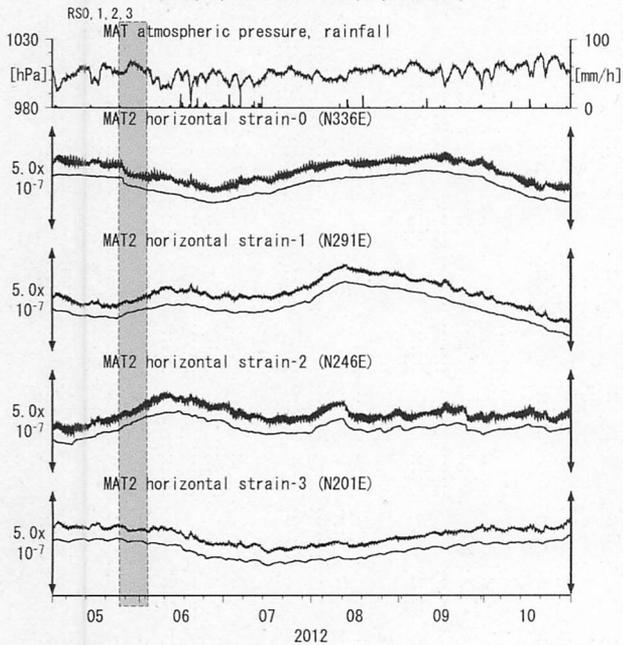
Tiltmeter depth = 589.2-590.0 [GL-m] A: 2012/05/25 伊予灘の地震 M4.0
UWA1 : Screen depth = 446.4-457.4 [GL-m] B: 2012/09/08 伊予灘の地震 M4.5
UWA2 : Screen depth = 68.9-79.9 [GL-m] C: 2012/10/14 日向灘の地震 M4.1
UWA3 : Screen depth = 13.6-18.4 [GL-m]
上: tiltは1次トレンドを除去
下: BAYTAP-GIにより潮汐・気圧応答・ノイズ成分を除去後、tiltは1次トレンドも除去

第34図 Tilt and groundwater level at MAT (時間値)
(2012/05/01 00:00 - 2012/11/01 00:00)

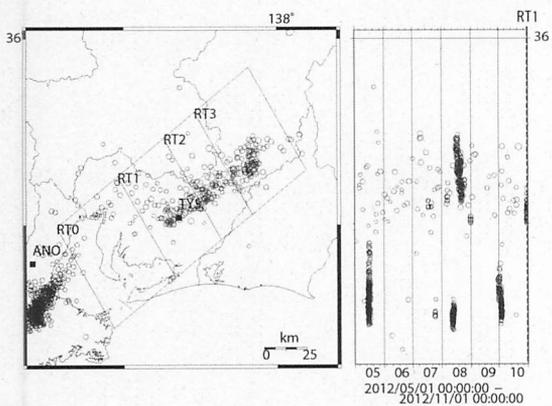


Tiltmeter depth = 596.7-597.3 [GL-m]
MAT1 : Screen depth = 512.2-528.6 [GL-m]
MAT2 : Screen depth = 170.2-181.1 [GL-m]
MAT3 : Screen depth = 17.0-22.5 [GL-m]
上: tiltは1次トレンドを除去
下: BAYTAP-GIにより潮汐・気圧応答・ノイズ成分を除去後、tiltは1次トレンドも除去

第33図 Crustal strains at MAT (時間値)
(2012/05/01 00:00 - 2012/11/01 00:00)

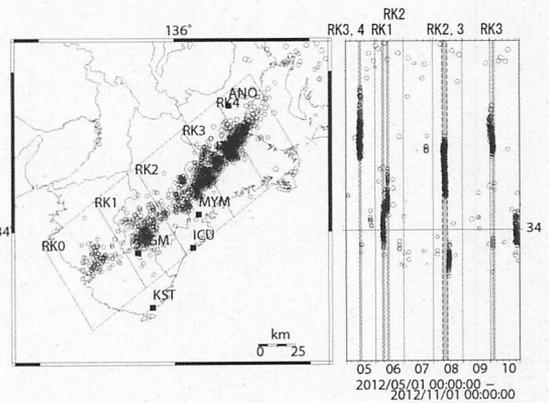
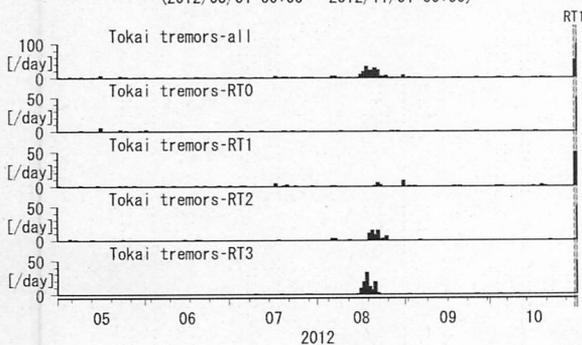


Strainmeter depth = 200.8-203.1 [GL-m]
上: 1次トレンドを除去
下: BAYTAP-GIにより潮汐・気圧応答・ノイズ成分を除去後、1次トレンドも除去



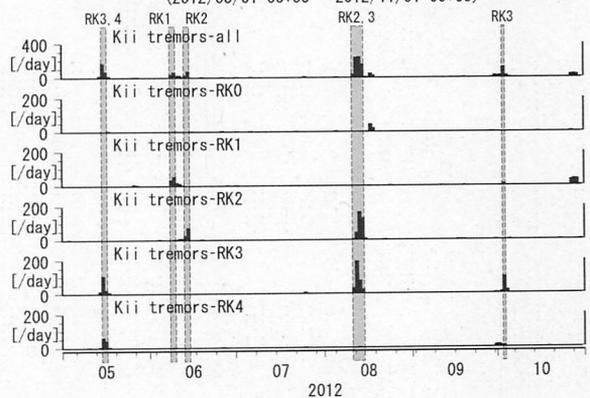
第35図 東海地方における深部低周波微動の時空間分布図(産総研による決定)

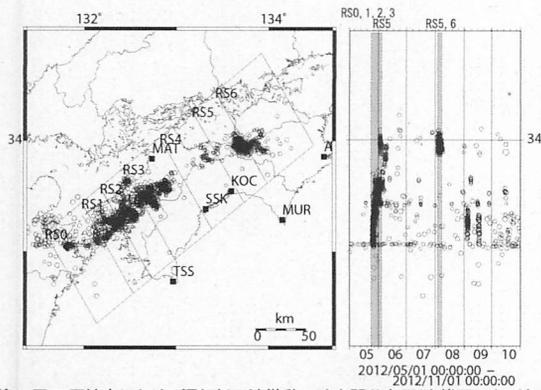
第36図 Deep low-frequency tremors in Tokai (日値)
(2012/05/01 00:00 - 2012/11/01 00:00)



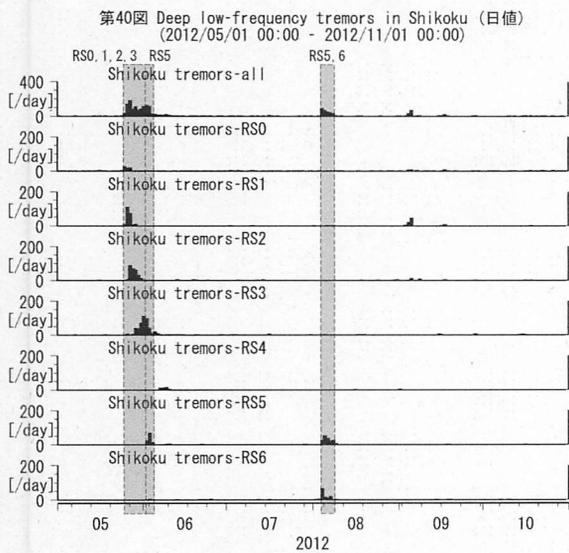
第37図 紀伊半島における深部低周波微動の時空間分布図(産総研による決定)

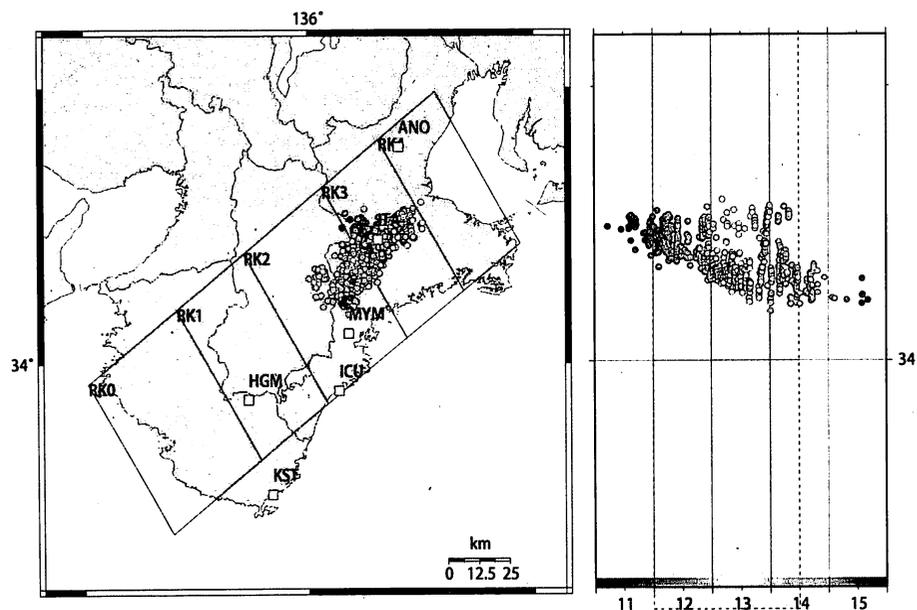
第38図 Deep low-frequency tremors in Kii Peninsula (日値)
(2012/05/01 00:00 - 2012/11/01 00:00)



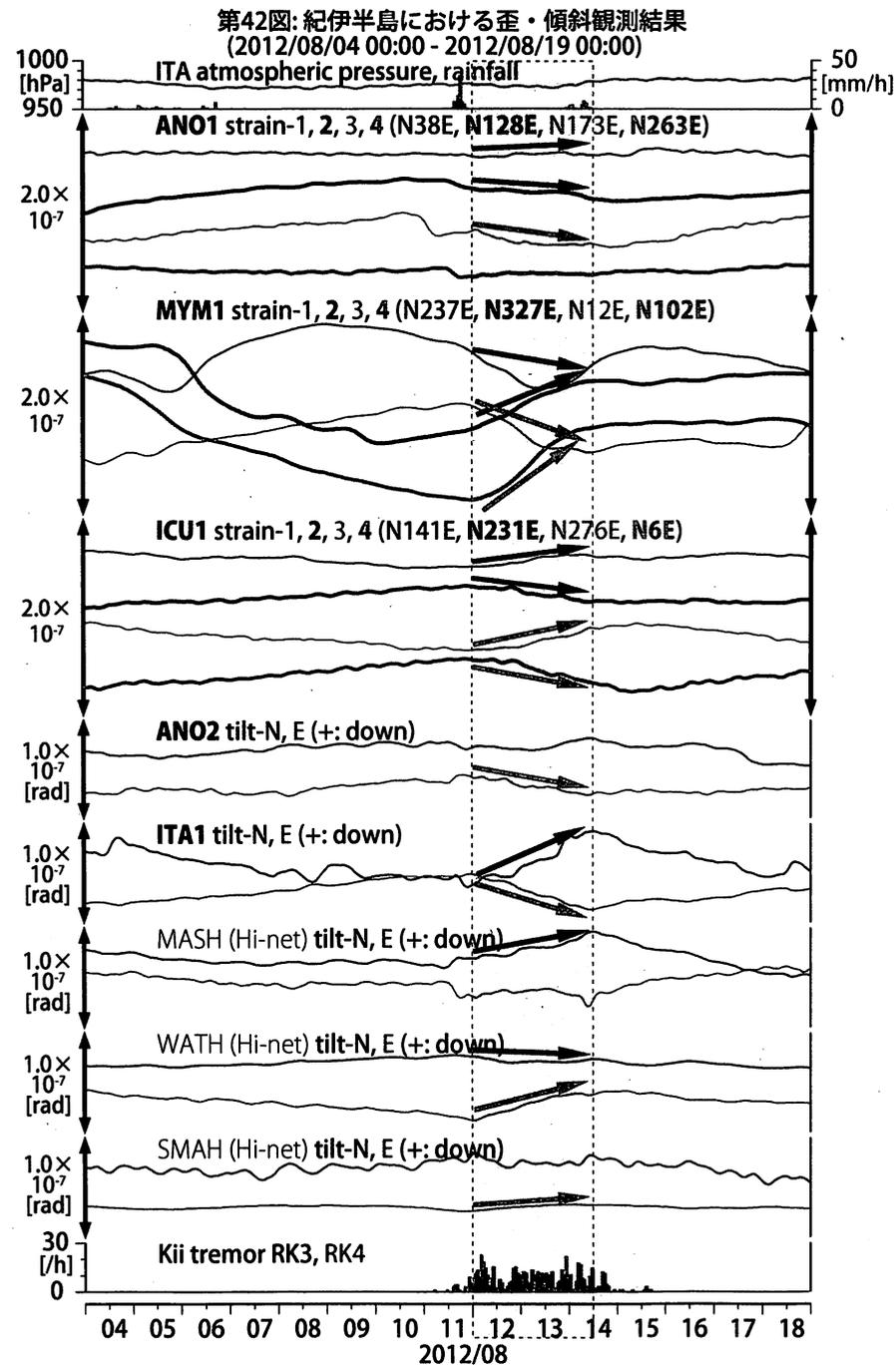


第39図 四国地方における深部低周波微動の時空間分布図(産総研による決定)

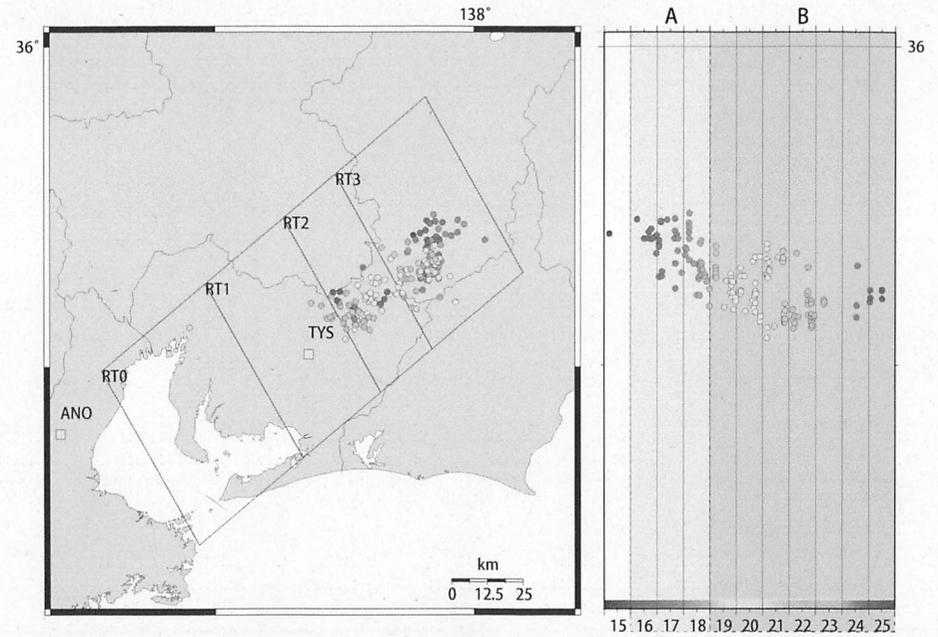
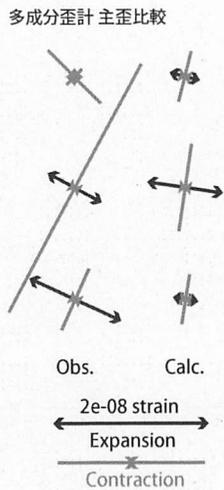
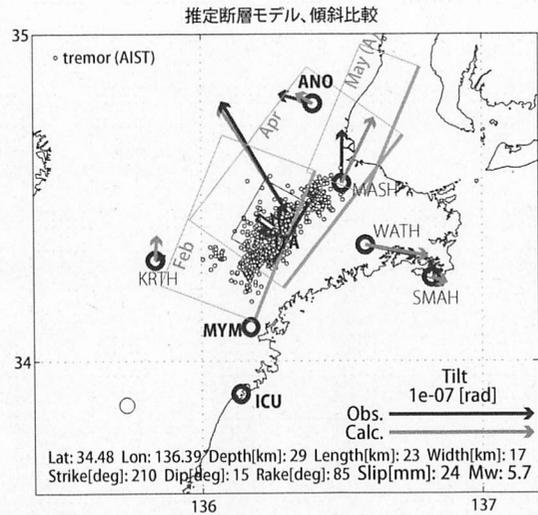
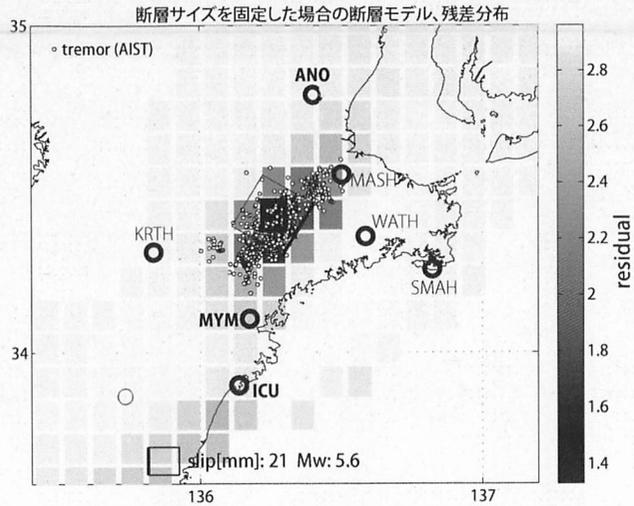




第41図: 2012/8/11 0:00 - 8/16 0:00 における紀伊半島の深部低周波微動の時空間分布図。
エンベロープ相関法により決定。



歪・傾斜は直線トレンド、潮汐・気圧応答・ノイズ成分除去 (BAYTAP-G)

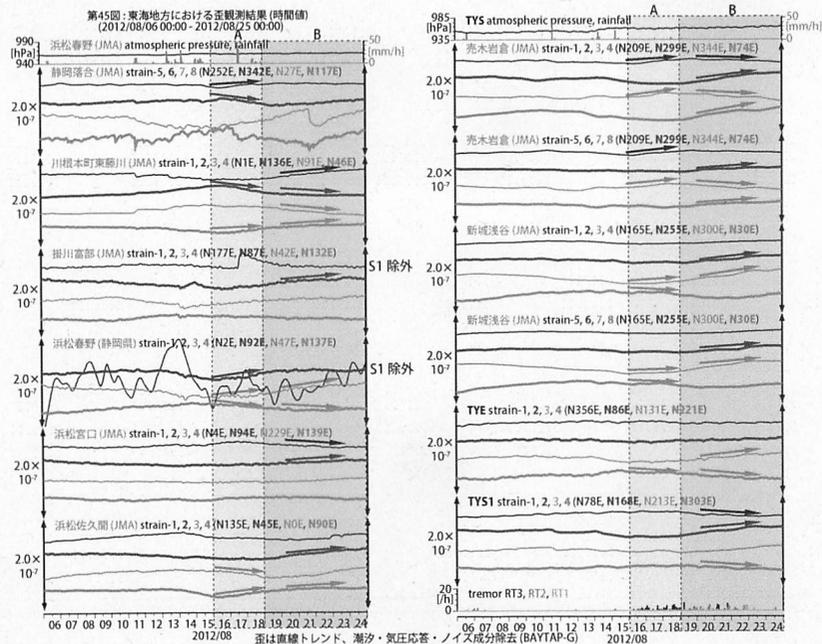


第44図: 2012/8/15 0:00 - 8/26 0:00 における東海地方の深部低周波微動の時空間分布図。エンベロープ相関法により決定。

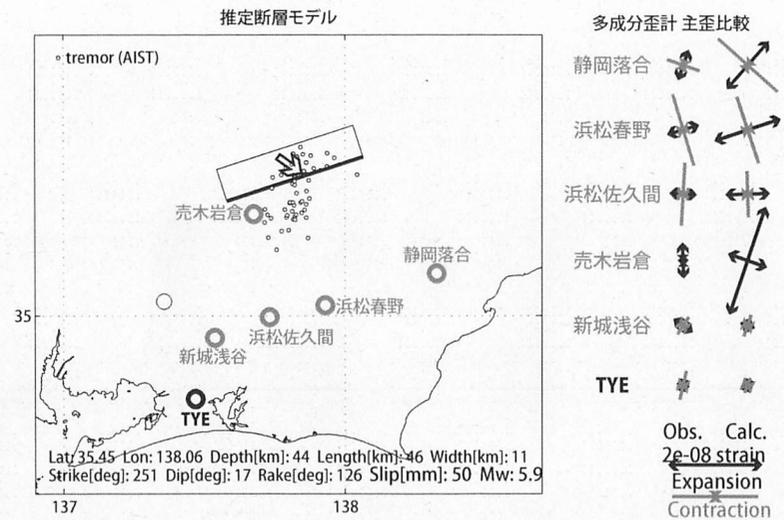
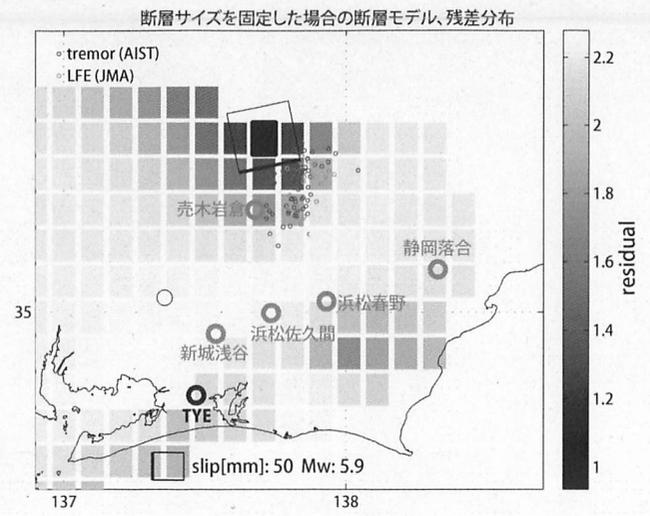
第43図: (上段)プレート境界面上のパッチ(断層面)をすべらせた際の、歪・傾斜の観測値と計算値の残差分布図。断層面サイズは固定(20x20km)。黒色矩形は最小残差の断層面を表す。このパッチのすべり量、Mwを下部に示している。残差の小さい領域(色の濃い領域)が狭くコントラストも高いため、任意性が低いと考えられる。

(下段)断層面推定結果(黒色矩形)。灰色の矩形は、北東から南西に向かってそれぞれ、2012年5月15-16日、同年4月14-16日、同年2月9-10日に発生した短期的SSEの推定断層面を示す。傾斜の観測値・モデルからの計算値との比較を地図内に、主歪の観測値とモデルからの計算値との比較を右側に示す。

(共通)小さい黒色丸印は産総研による深部低周波微動の震央位置を示す。黒色太字は産総研の、黒色細字は防災科研Hi-netの観測点の観測点名を示す。



期間A

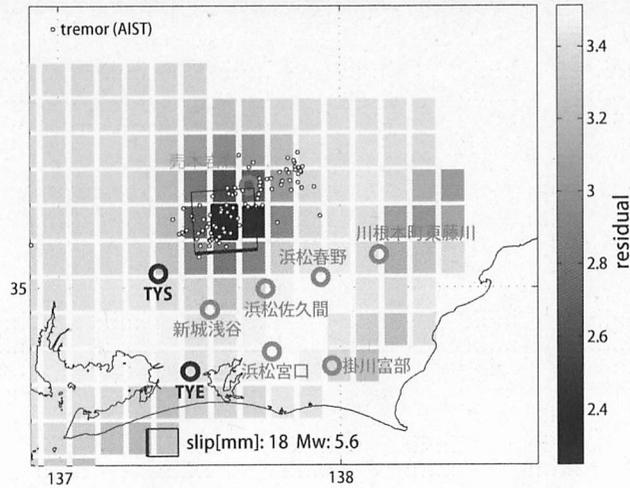


第46図: (上段)プレート境界面上のパッチ(断層面)をすべらせた際の、歪・傾斜の観測値と計算値の残差分布図。断層面サイズは固定(20x20km)。黒色矩形は最小残差の断層面を表す。このパッチのすべり量、Mwを下部に示している。残差の小さい領域(色の濃い領域)が広くコントラストが低いため、任意性が高いと考えられる。

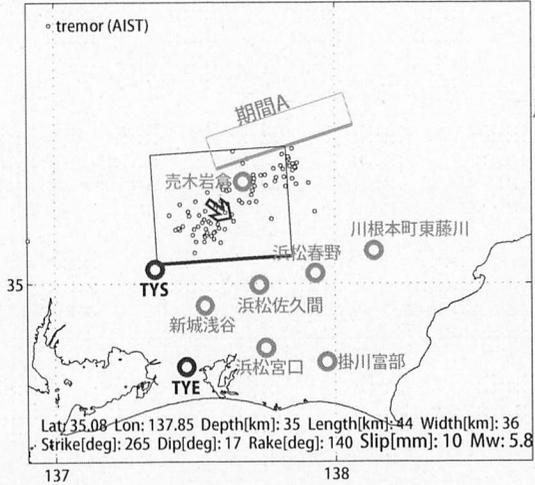
(下段) 断層面推定結果(黒色矩形)。主歪の観測値とモデルからの計算値との比較を右側に示す。
 (共通)小さい黒色丸印は産総研による深部低周波微動の震央位置を示す。黒色太字は産総研の、灰色は気象庁の観測点を示す。

期間B

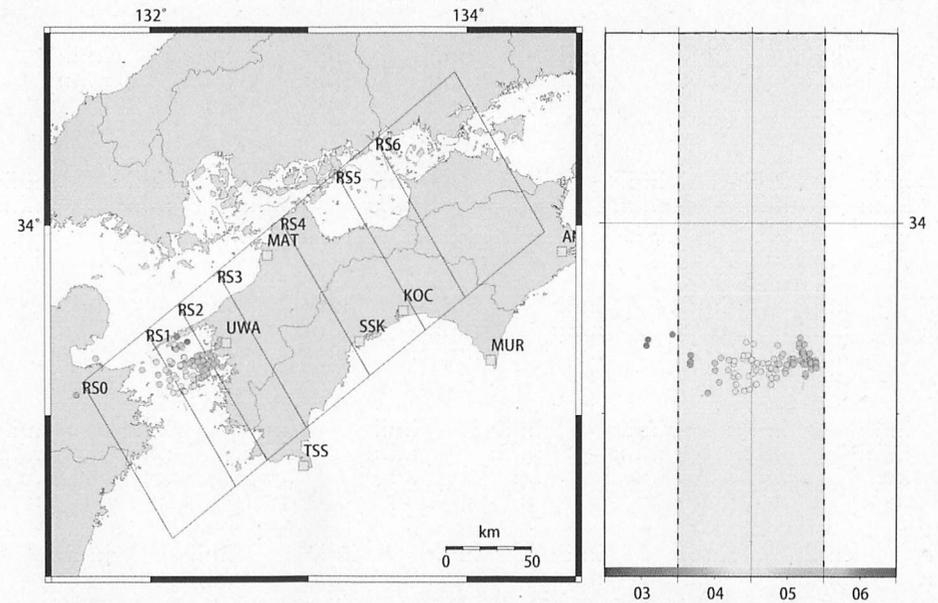
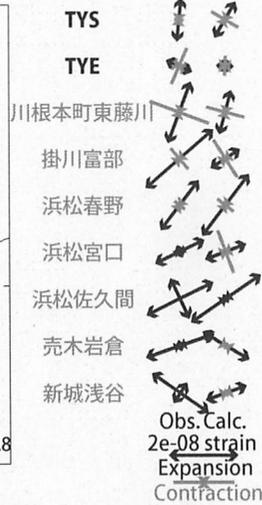
断層サイズを固定した場合の断層モデル、残差分布



推定断層モデル



多成分歪計 主歪比較

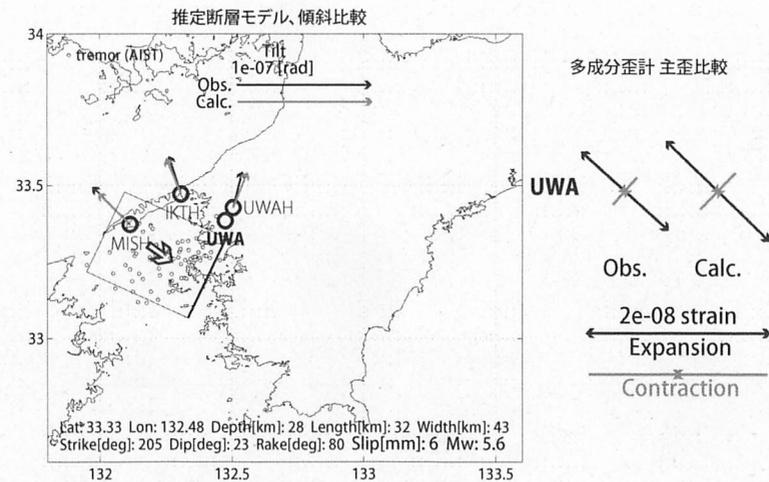
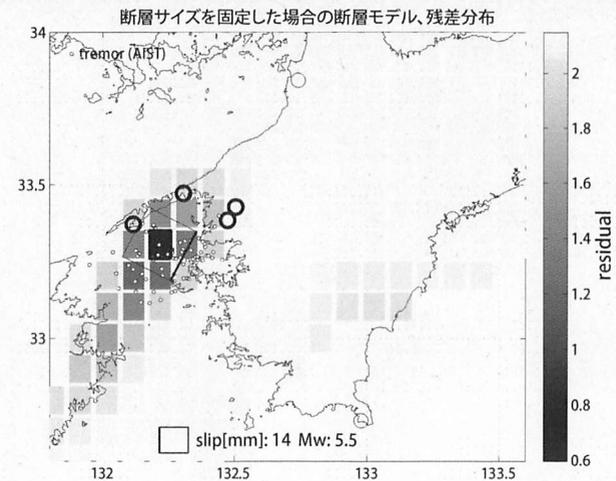
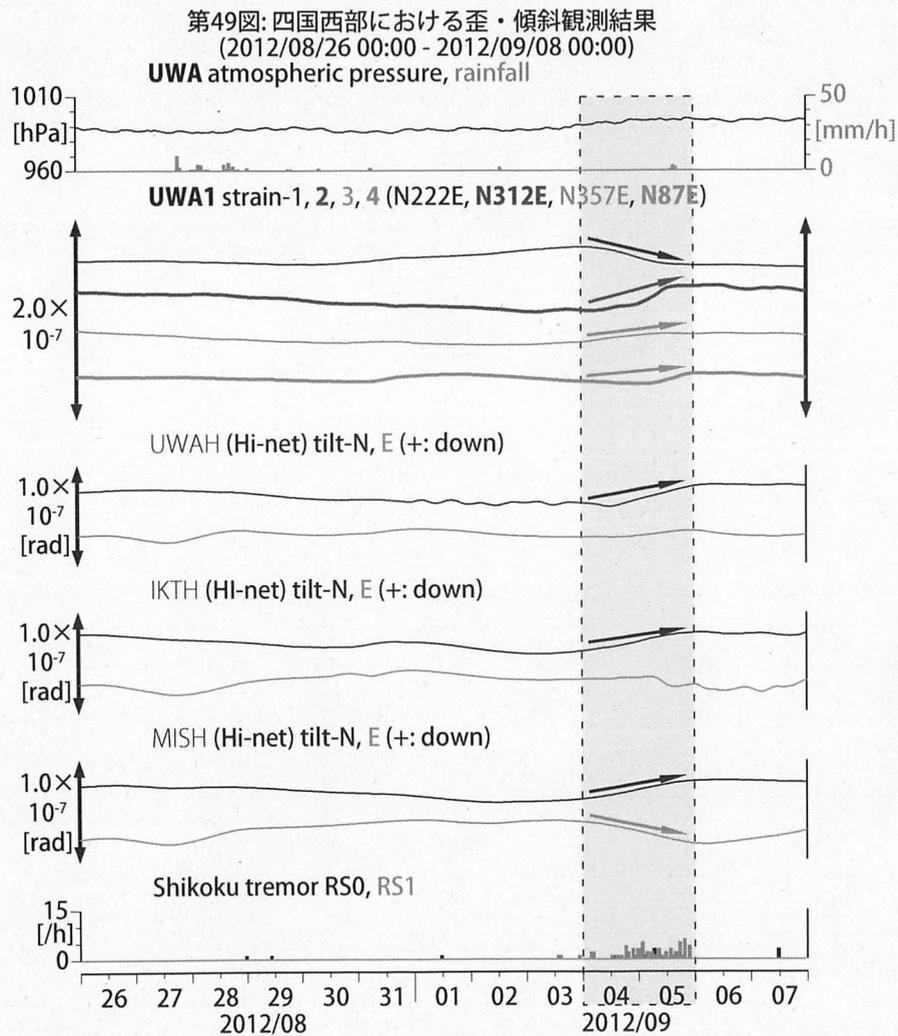


第48図: 2012/9/3 0:00 - 9/7 0:00 における四国の深部低周波微動の時空間分布図。エンベロープ相関法により決定。

第47図: (上段)プレート境界面上のパッチ(断層面)をすべらせた際の、歪・傾斜の観測値と計算値の残差分布図。断層面サイズは固定(20x20km)。黒色矩形は最小残差の断層面を表す。このパッチのすべり量、Mwを下部に示している。

(下段)断層面推定結果(黒色矩形)。主歪の観測値とモデルからの計算値との比較を右側に示す。

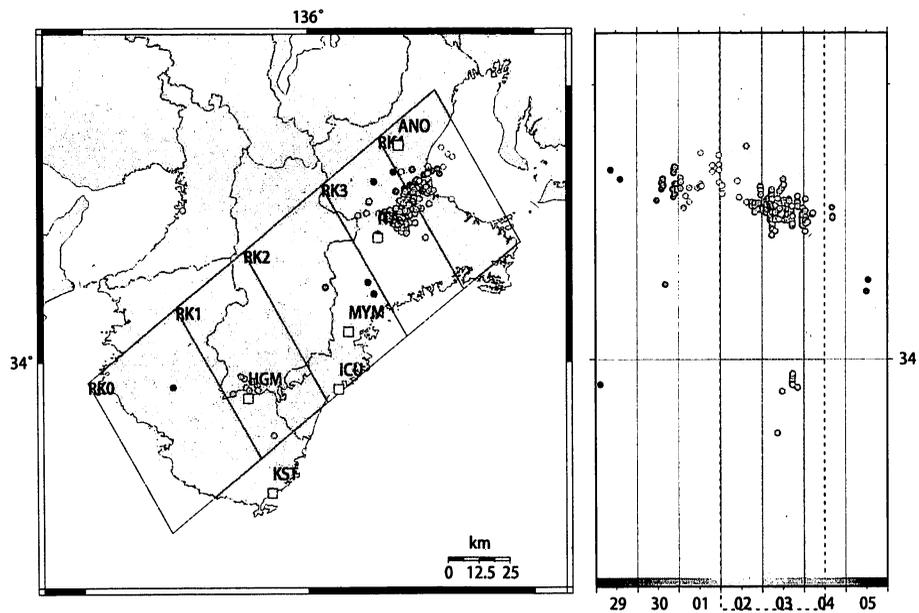
(共通)小さい黒色丸印は産総研による深部低周波微動の震央位置を示す。黒色太字は産総研の、灰色は気象庁の観測点を示す。



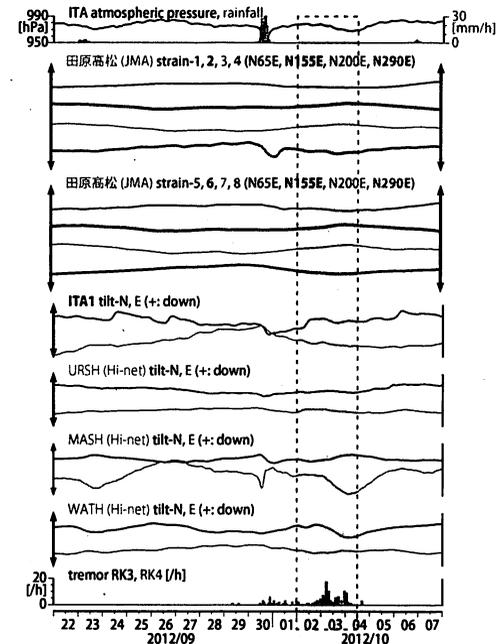
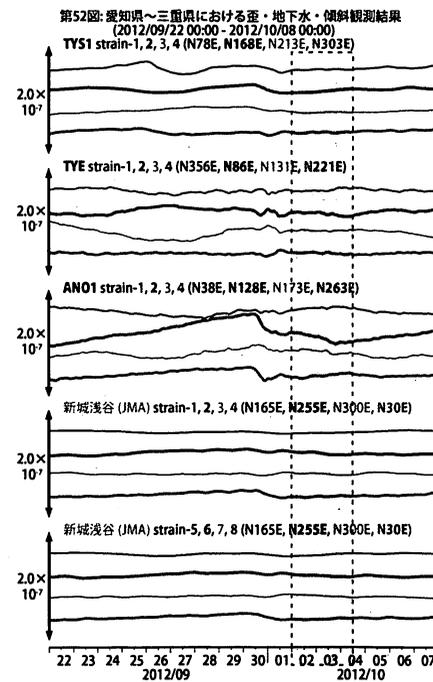
第50図: (上段)プレート境界面上のパッチ(断層面)をすべらせた際の、歪・傾斜の観測値と計算値の残差分布図。断層面サイズは固定(20x20km)。黒色矩形は最小残差の断層面を表す。このパッチのすべり量、Mwを下部に示している。

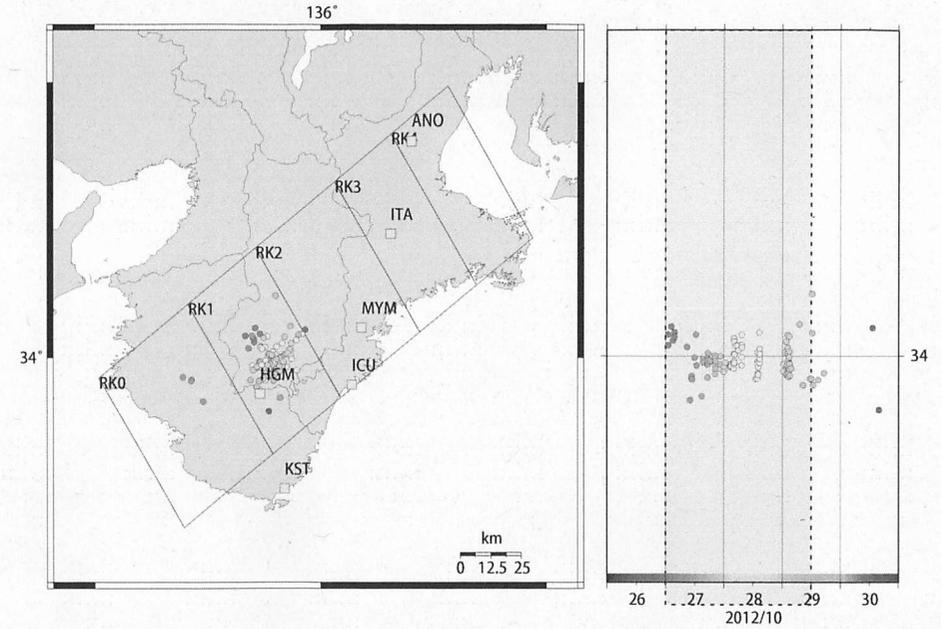
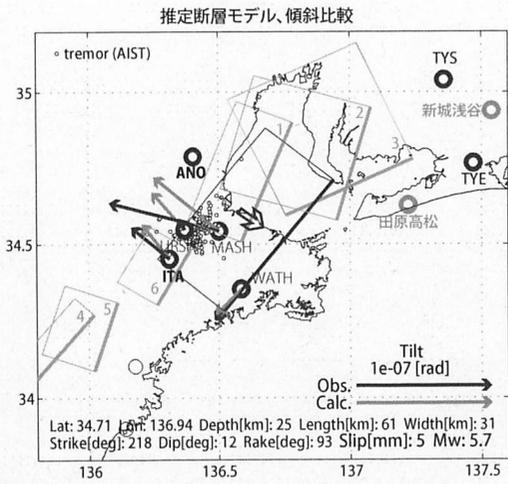
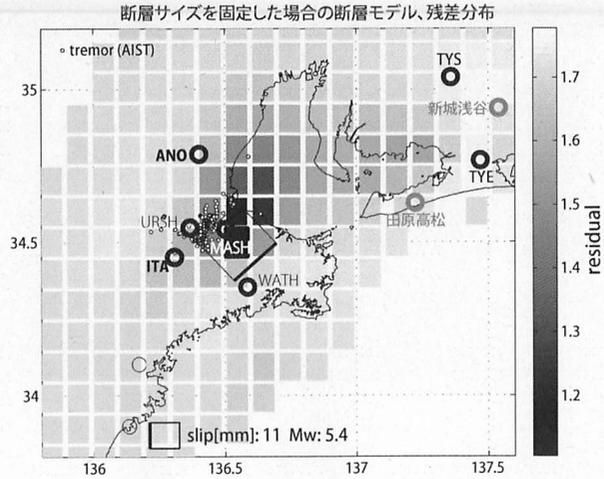
(下段)断層面推定結果(黒色矩形)。傾斜の観測値・モデルからの計算値との比較を地図内に、主歪の観測値・モデルからの計算値との比較を右側に示す。

(共通)小さい黒色丸印は産総研による深部低周波微動の震央位置を示す。黒色太字は産総研の、黒色細字は防災科研Hi-netの観測点を示す。



第51図: 2012/9/29 0:00 - 10/6 0:00 における紀伊半島の深部低周波微動の時空間分布図。
エンベロープ相関法により決定。



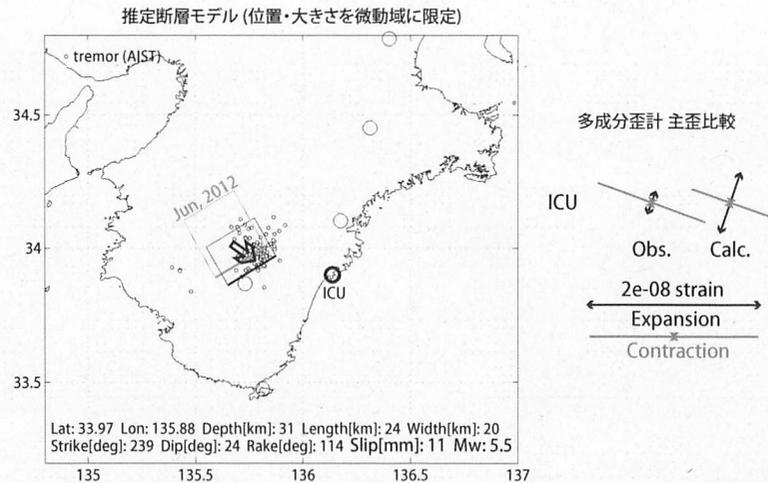
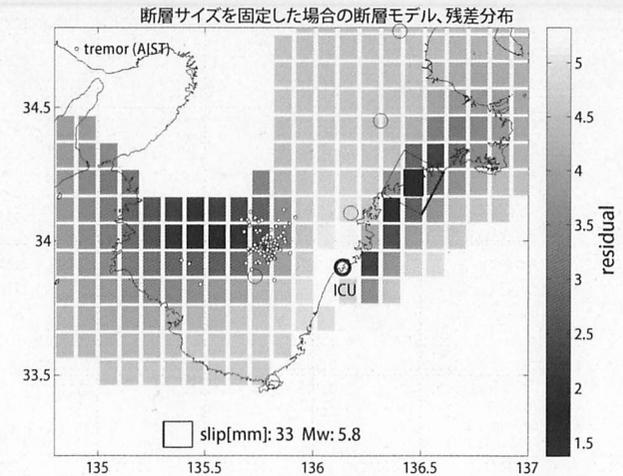
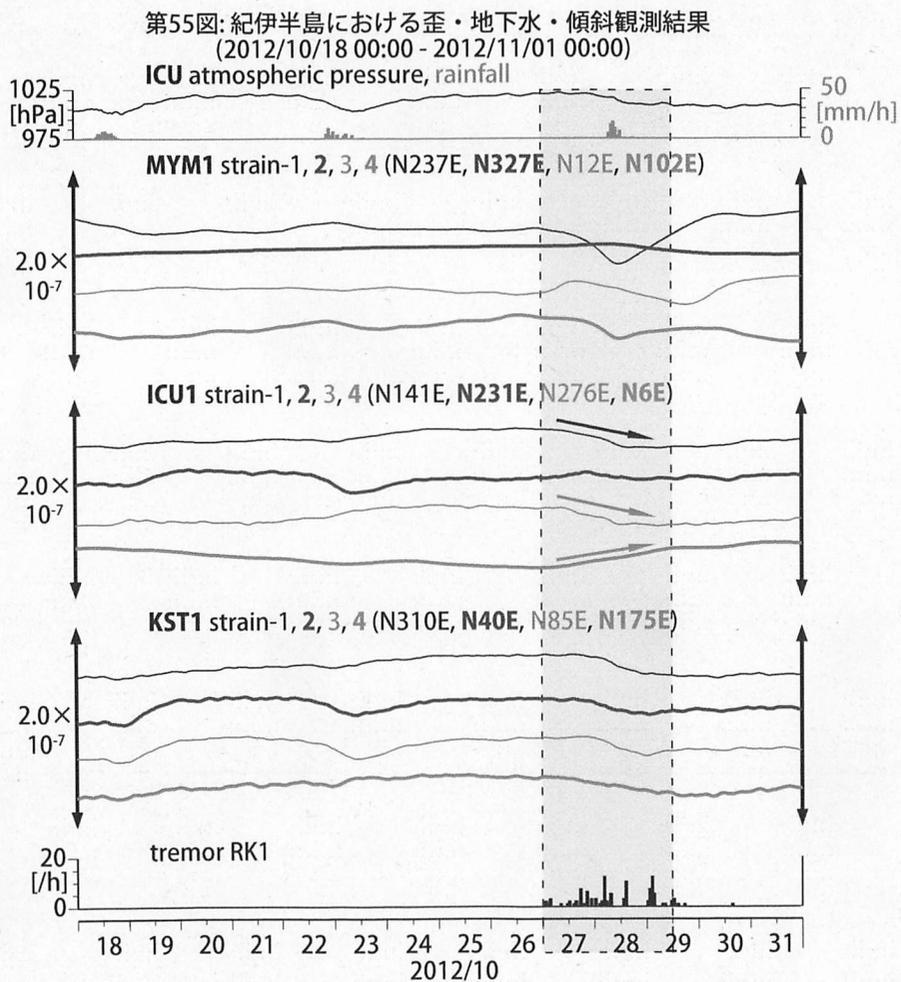


第54図: 2012/10/26 0:00 - 10/31 0:00 における紀伊半島の深部低周波微動の時空間分布図。エンベロープ相関法により決定。

第53図: (上段)プレート境界面上のバッチ(断層面)をすべらせた際の、歪・傾斜の観測値と計算値の残差分布図。断層面サイズは固定(20x20km)。黒色矩形は最小残差の断層面を表す。このバッチのすべり量、Mwを下部に示している。残差の小さい領域(色の濃い領域)が広くコントラストが狭く、任意性が高いと考えられる。

(下段)断層面推定結果(黒色矩形)。傾斜の観測値・モデルからの計算値との比較を地図内に、主歪の観測値とモデルからの計算値との比較を右側に示す。灰色の矩形は、最近周辺で発生した短期的SSEの推定断層面を示す。

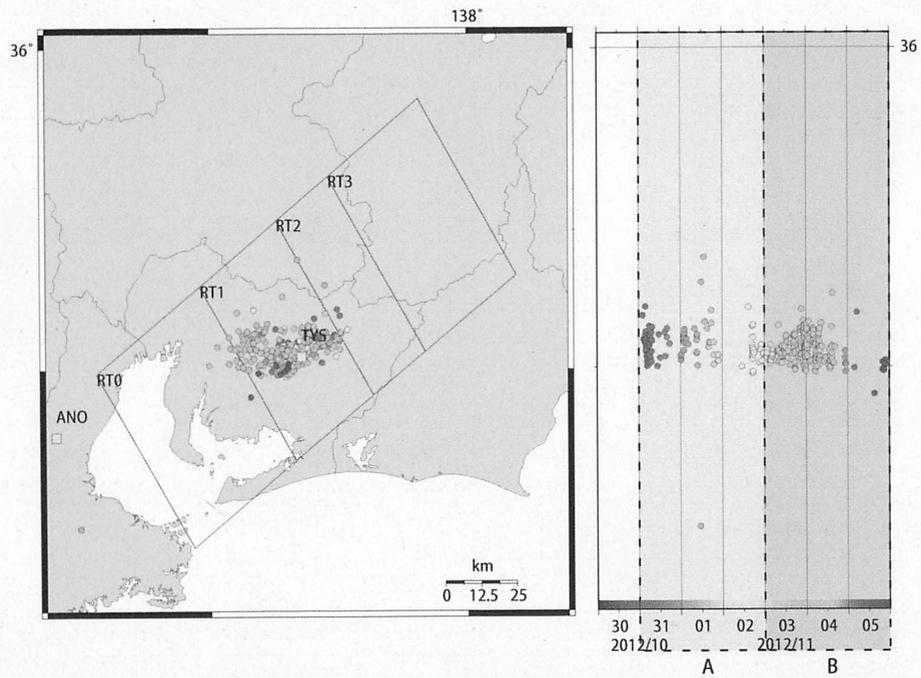
1: 2012年5月15-16日, 2: 同17-20日, 3: 同21-22日, 4: 6月8-11日, 5: 12-14日, 6: 8月12-14日午前
(共通)小さい黒色丸印は産総研による深部低周波微動の震央位置を示す。黒色太字は産総研の、黒色細字は防災科研Hi-netの観測点を、灰色は気象庁の観測点名を示す。



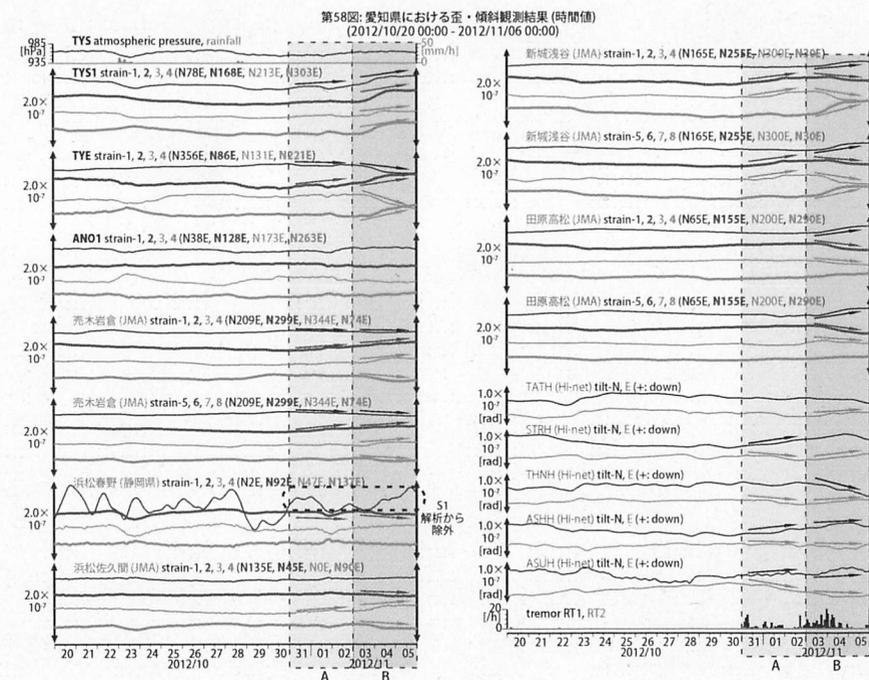
第56図: (上段)プレート境界面上のパッチ(断層面)をすべらせた際の、歪・傾斜の観測値と計算値の残差分布図。断層面サイズは固定(20x20km)。黒色矩形は最小残差の断層面を表す。このパッチのすべり量、Mwを下部に示している。解析に使用しているのが1地点のみであり、残差の小さい領域(色の濃い領域)が広くコントラストが狭く、任意性が高い。

(下段)断層面推定結果(黒色矩形)。位置・大きさを、微動が活発な領域に限定して推定した。主歪の観測値とモデルからの計算値との比較を右側に示す。灰色の矩形は、2012年6月8日午後~9日にかけて発生した短期的SSEの推定断層面を示す。

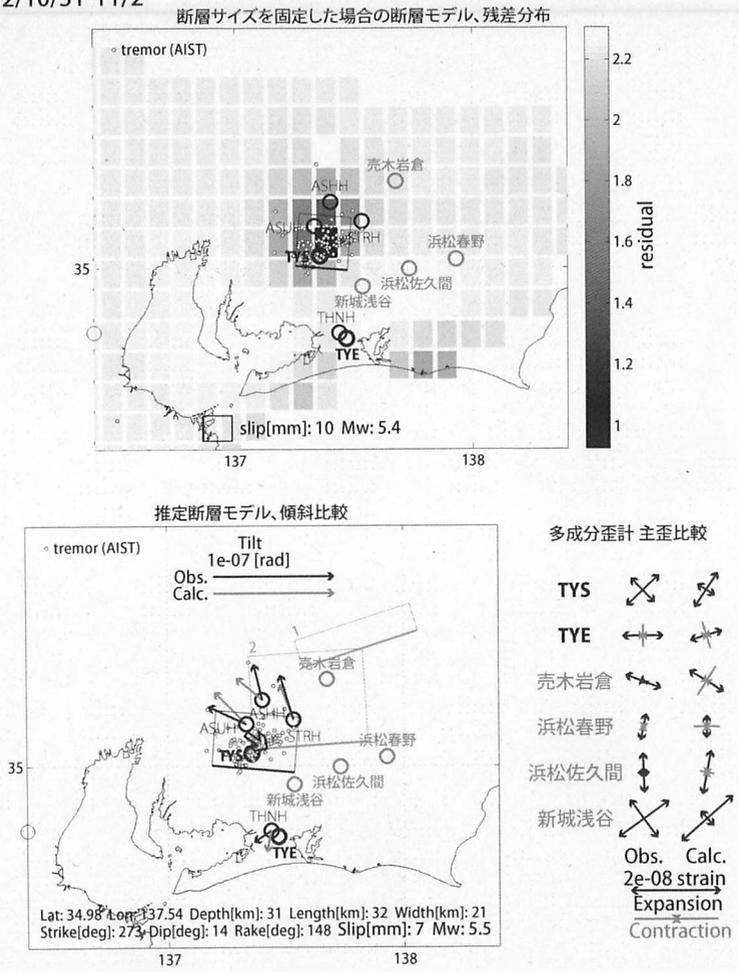
(共通)小さい黒色丸印は産総研による深部低周波微動の震央位置を示す。



第57図: 2012/10/30 0:00 - 11/6 0:00 における愛知県周辺の深部低周波微動の時空間分布図。
エンベロープ相関法により決定。



A: 2012/10/31-11/2

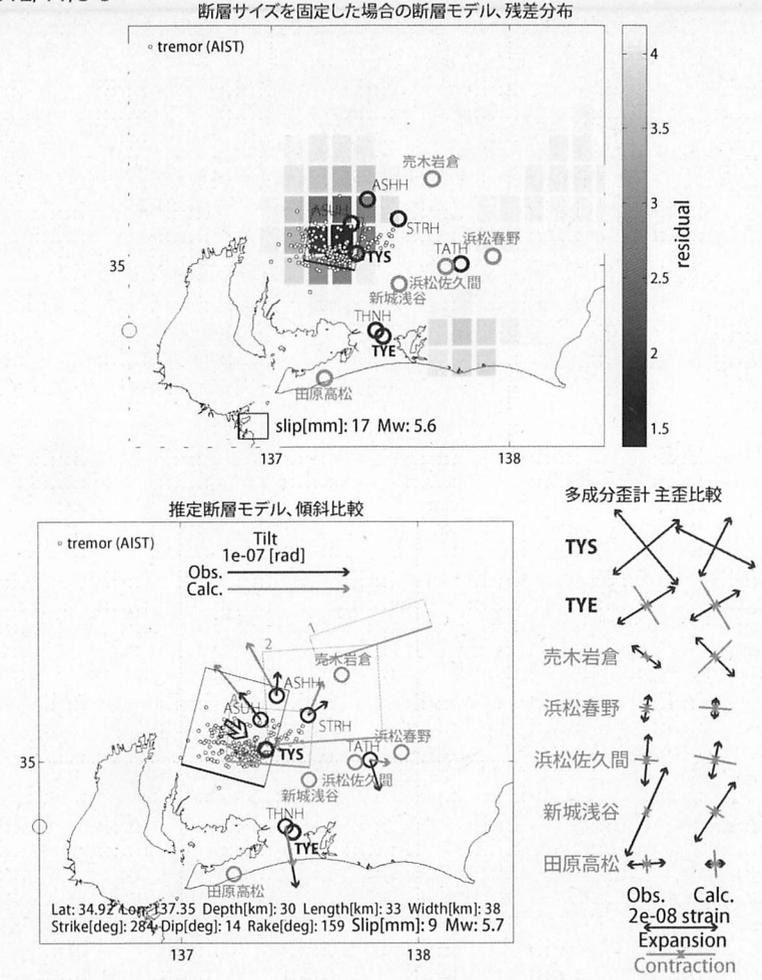


第59図: (上段)プレート境界面上のパッチ(断層面)をすべらせた際の、歪・傾斜の観測値と計算値の残差分布図。断層面サイズは固定(20x20km)。黒色矩形は最小残差の断層面を表す。このパッチのすべり量、Mwを下部に示している。残差の小さい領域(色の濃い領域)が狭くコントラストも高いため、任意性が低いと考えられる。

(下段)断層面推定結果(黒色矩形)。傾斜の観測値・モデルからの計算値との比較を地図内に、主歪の観測値とモデルからの計算値との比較を右側に示す。灰色の矩形は、周辺で最近発生した短期的SSEの推定断層面を示す。

1: 2012年8月16-18日, 2: 同19-24日
 (共通)小さい黒色丸印は産総研による深部低周波微動の震央位置を示す。黒色太字は産総研の、黒色細字は防災科研Hi-netの観測点を、灰色は気象庁の観測点名を示す。

B: 2012/11/3-5



第60図: (上段)プレート境界面上のパッチ(断層面)をすべらせた際の、歪・傾斜の観測値と計算値の残差分布図。断層面サイズは固定(20x20km)。黒色矩形は最小残差の断層面を表す。このパッチのすべり量、Mwを下部に示している。残差の小さい領域(色の濃い領域)が狭くコントラストも高いため、任意性が低いと考えられる。

(下段)断層面推定結果(黒色矩形)。傾斜の観測値・モデルからの計算値との比較を地図内に、主歪の観測値とモデルからの計算値との比較を右側に示す。灰色の矩形は、周辺で最近発生した短期的SSEの推定断層面を示す。

1: 2012年8月16-18日, 2: 同19-24日, A: 同年10月31-11月2日 (期間A)
 (共通)小さい黒色丸印は産総研による深部低周波微動の震央位置を示す。黒色太字は産総研の、黒色細字は防災科研Hi-netの観測点を、灰色は気象庁の観測点名を示す。

神奈川県西部地域の地下水位観測（2012年8月～2012年10月）

神奈川県温泉地学研究所・産業技術総合研究所

1. はじめに

神奈川県温泉地学研究所では、神奈川県西部地震の予知研究の一環として、第1図・第1表に示した6箇所に地下水位観測施設を整備し地下水位の連続観測を行っている。2012年8月～2012年10月の期間に重点をおいた観測結果を報告する。

2. 観測

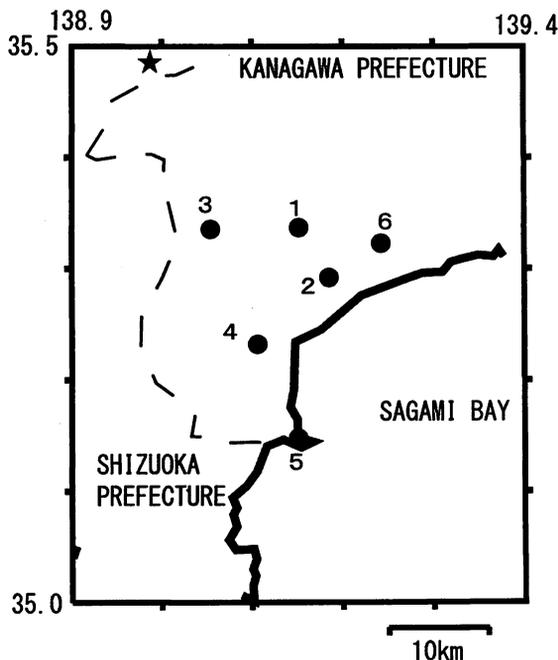
第1図の6箇所の観測点では、地下水位の他、気圧・降水量も1分サンプリングで観測を行っている。得られたデータは、1日1回テレメータにて温泉地学研究所に送信される。

3. 結果（第2～3図）

結果を第2図（原則1時間値、真鶴・二宮のみ24時間平均値）と第3図（原則0時の瞬時値）に示す。第1図の範囲内（北緯35～35.5度、東経138.9～139.4度）で、2012年8月～2012年10月に深さ30km以浅でM4以上の地震はない。また、同期間で、上記以外の地震で、観測点周辺で震度2以上の揺れをもたらしたものは、

- 1) 2012年8月20日20時42分頃に発生した茨城県南部の地震（M5.2、深さ57km、観測点周辺の震度1-2）
- 2) 2012年9月14日2時22分頃発生した千葉県北東部の地震（M5.1、深さ37km、観測点周辺の震度は1-2）

である。これらの地震の前後に特に異常な変化はない（板寺一洋・原田昌武・小泉尚嗣）。



参考論文

横山尚秀・他, 1995, 神奈川県西部地震予知のための地下水位観測施設と地下水位解析, 温泉地学研究所報告, 26, 21-36.

第1図 地下水観測点の分布（●）と1月28日の山梨県東部・富士五湖の地震の主な震央（★）。

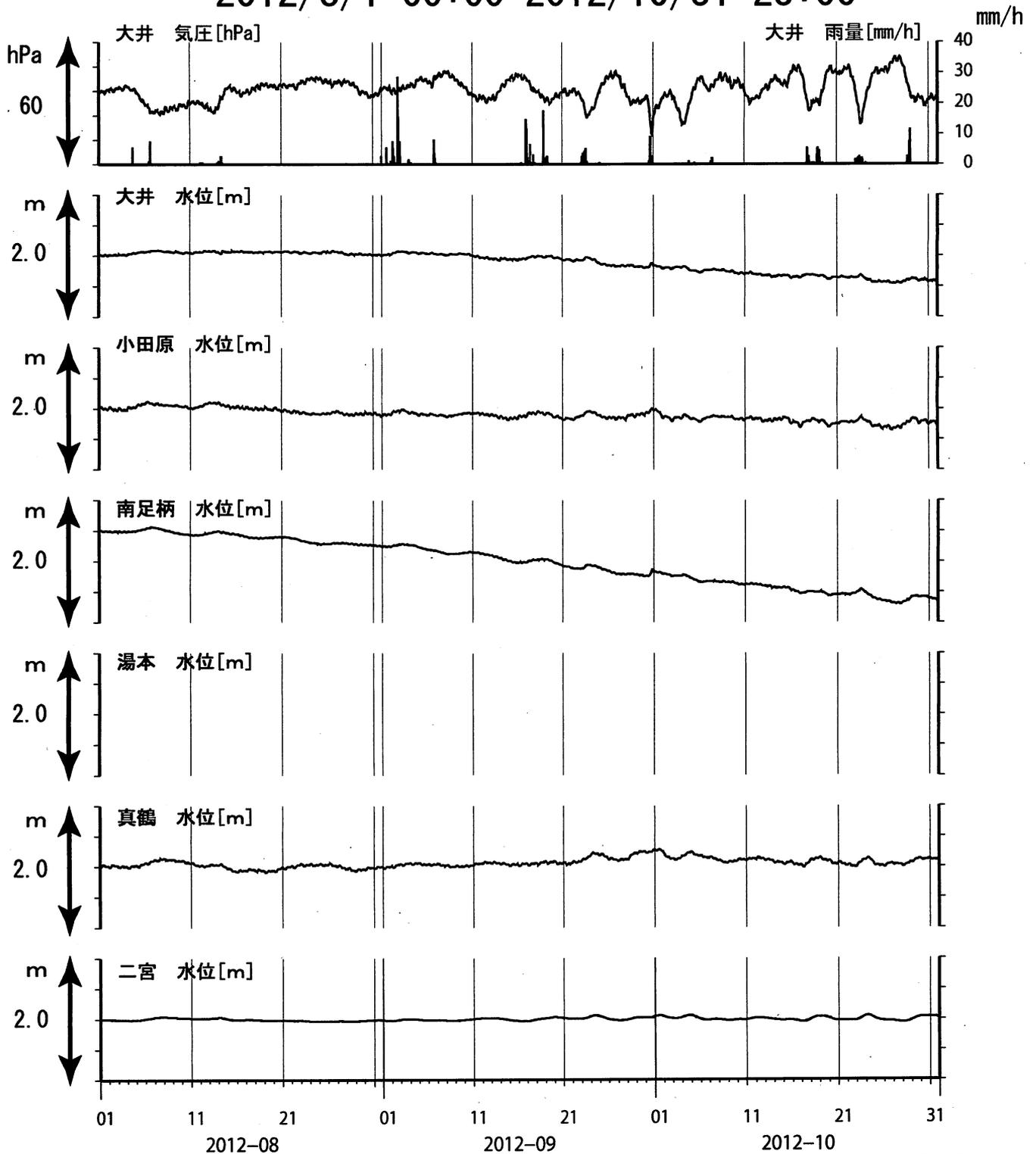
● 1：大井, ● 2：小田原, ● 3：南足柄, ● 4：湯本, ● 5：真鶴, ● 6：二宮。

第1表：地下水観測点の概要（横山・他, 1995）

観測点名	標高 (m)	深度 (m)	スクリーン (m)	センサー位置 (m)	帯水層の地質
大井	47	300	270～300	18	更新統(固結レキ層)
小田原	22	300	270～300	15	更新統(固結泥岩層)
南足柄	143	150	120～150	32	足柄層群(固結レキ層)
湯本	67	300	250～300	20	早川凝灰角レキ岩
真鶴	40	300	250～300	43	箱根古期外輪山溶岩
二宮	51	500	450～500	13	先第四系(固結レキ層)

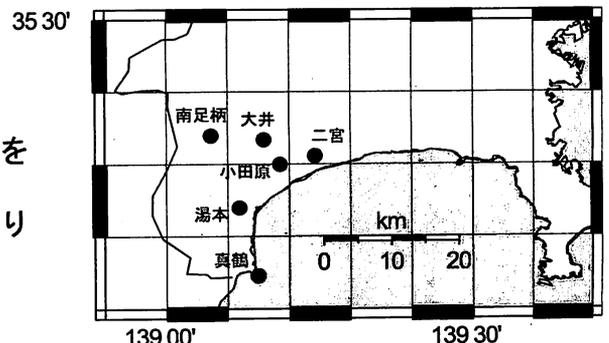
神奈川県西部地域の地下水位観測 中期(時間値)

2012/8/1 00:00-2012/10/31 23:00



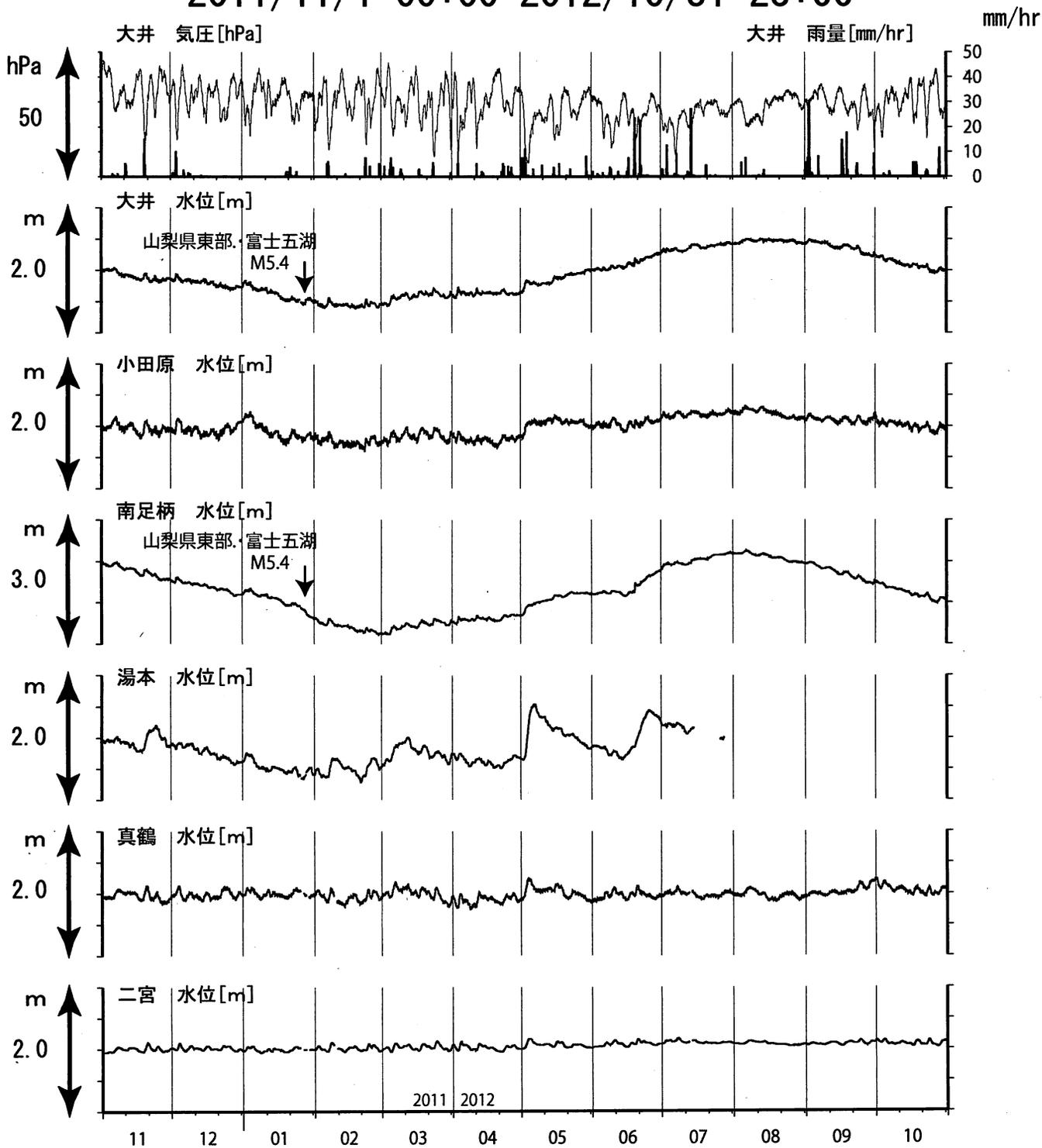
コメント：特記事項なし

真鶴・二宮は潮汐の影響が大きいため日平均値を示している。他は一時間値(生データ)
湯本観測点は、観測点の電気設備の不具合により欠測定している。



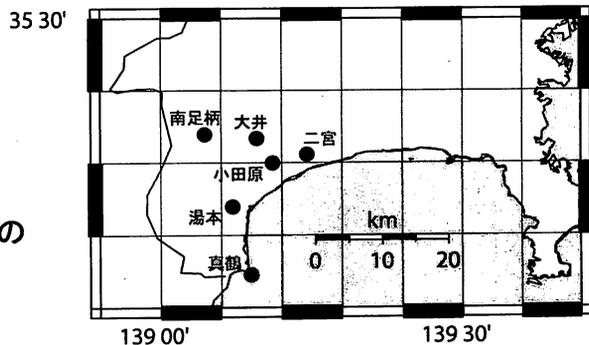
神奈川県西部地域の地下水位観測 長期

2011/11/1 00:00-2012/10/31 23:00



コメント：特記事項なし

真鶴・二宮以外は1日1回の瞬時値を示している。
7月下旬以降の湯本の欠測は、観測点の電気設備の不具合による。



鳥取県・岡山県・島根県における温泉水・地下水変化（2012年8月～2012年10月）

鳥取大学工学部・産業技術総合研究所

1. はじめに

鳥取県・島根県・岡山県は温泉が多く、その所在も地震活動と関連していると考えられる。この地方の特徴を生かし、国際ロータリー第2690地区、鳥取県西部地震義援金事業の一環として、温泉水の時間変化を観測網を山陰地方（鳥取県西部地震周辺及び鳥取県東部・岡山県北部地域）に整備し、地震活動との関連を調べている。

2. 観測

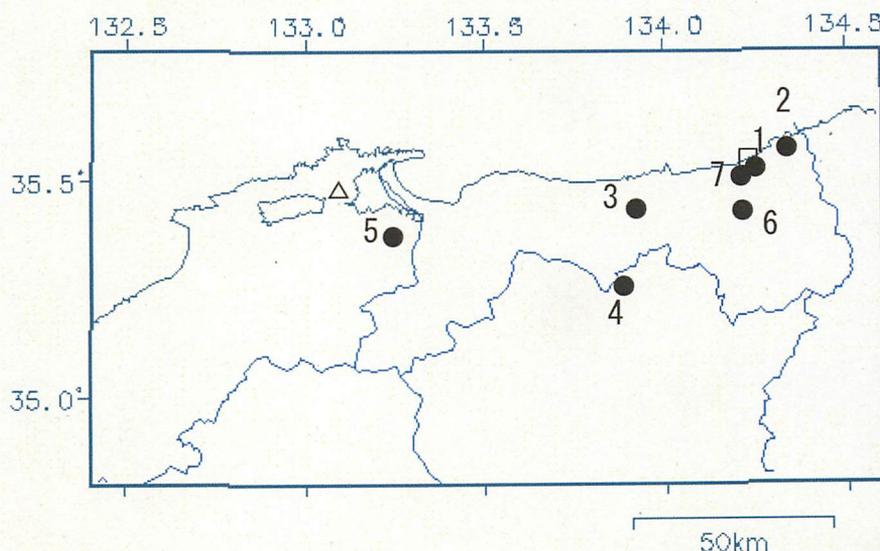
現在観測を行なっている地点は7点である（第1図）。観測方法としては、温泉井に水位計や温度計（分解能：1/100℃）を設置し、測定値をデータロガーにいったん収録した後、観測センター（鳥取大学工学部）へ電話回線を利用して転送する。観測センターには、データの回収・記録・解析システムを設置し、温泉データを地震データ等と比較して関係を調べる。解析の結果は、速報として観測センターのホームページで公開している（http://www.geosd.jp/onsen_k/index.htm）。

水位・水温の測定インターバルは10秒で1分間の平均値を記録している。温度センサーは、事前の温度検層により、湯谷温泉等を除いて、最も温度変化の大きい位置（深さ）に設置している（鳥取温泉175m、岩井温泉150m、三朝温泉25m、奥津温泉130m等）。なお、湯谷（第1図の6）と吉岡（7）では、2012年度からデータを現地集録に切り替えている。

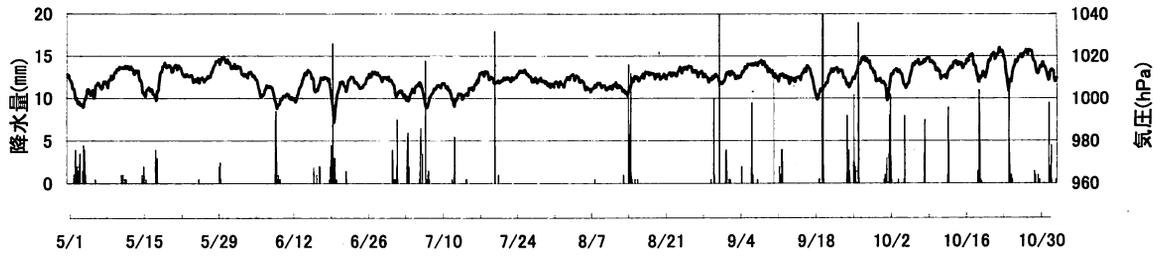
3. 結果（第2～4図）

結果（原則として1時間値）を第2～4図に示す。気圧や気温の記録は、鳥取や松江の気象台の測定値を用いている。2012年8月～2012年10月の間に、第1図の範囲内（北緯34.8～35.8度、東経132.4～134.6度）で深さ30km以浅でM4以上の地震はない。また、観測点周辺に震度2以上の揺れをもたらした地震もない（野口竜也・香川敬生・西田良平・小泉尚嗣）。

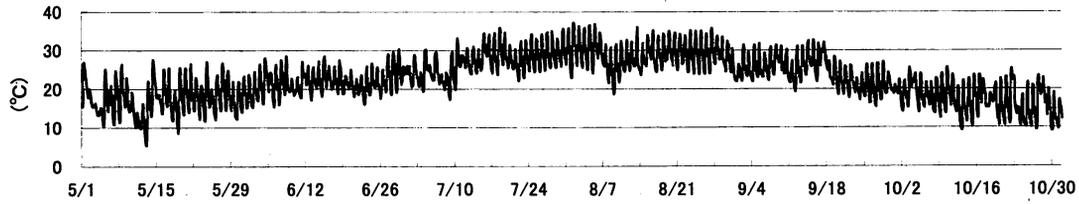
第1図 鳥取気象台（□）と松江気象台（△）および温泉水・地下水観測点（●）の分布。
1：鳥取温泉，2：岩井温泉，3：三朝温泉，4：奥津温泉，5：鷺の湯温泉，
6：湯谷温泉，7：吉岡温泉



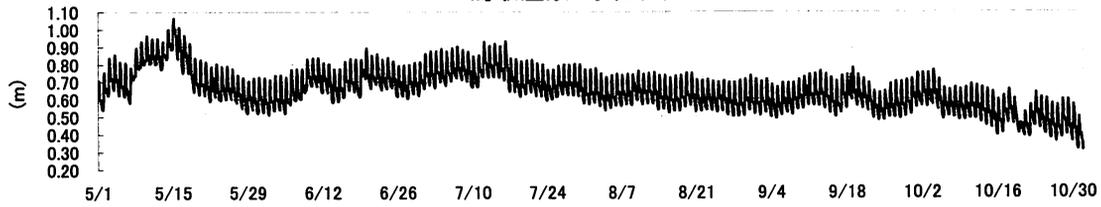
鳥取市 気圧・降水量



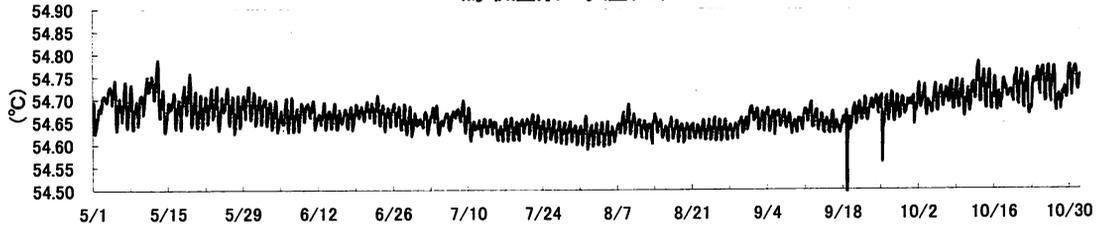
鳥取市 気温



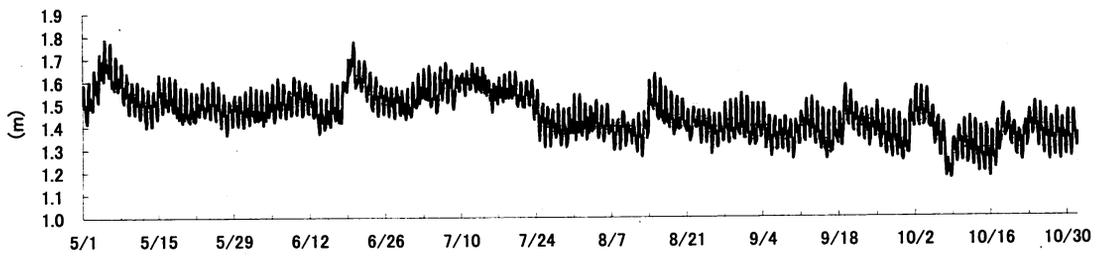
鳥取温泉 水位(m)



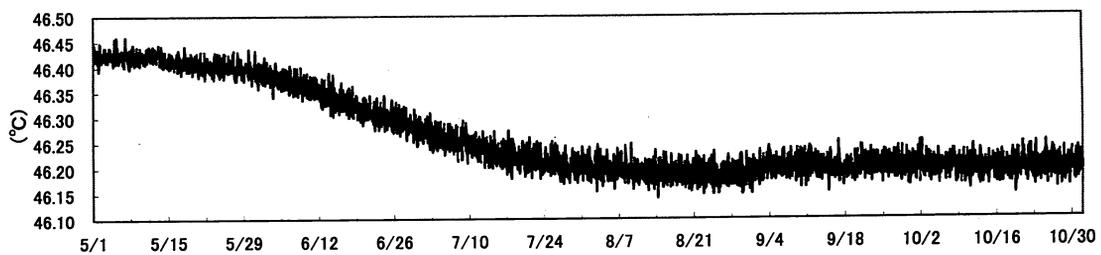
鳥取温泉 水温(°C)



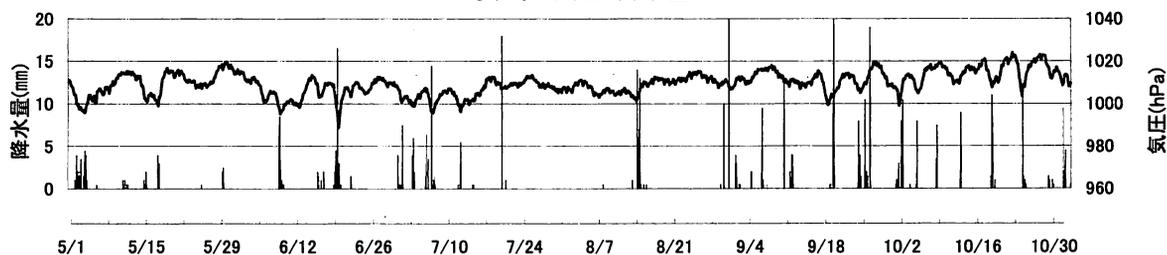
岩井温泉 水位(m)



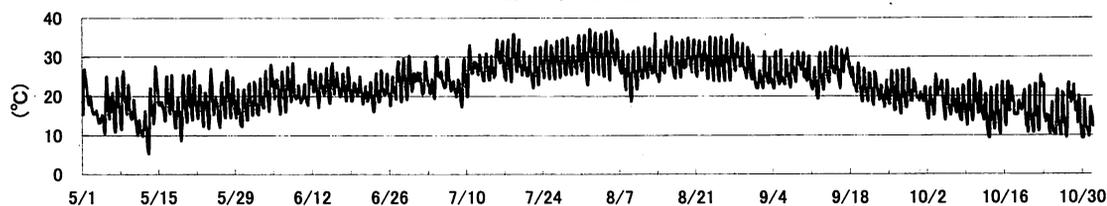
岩井温泉 水温(°C)



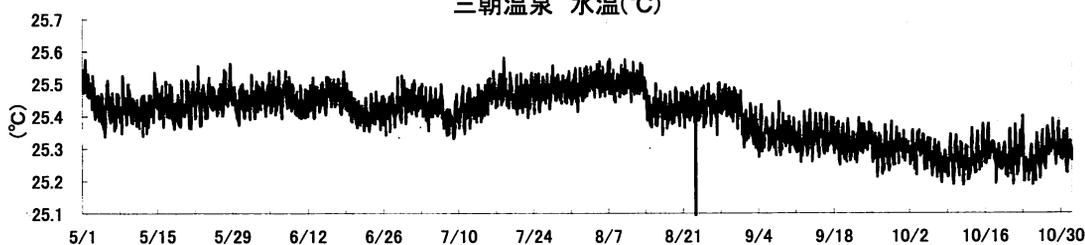
鳥取市 気圧・降水量



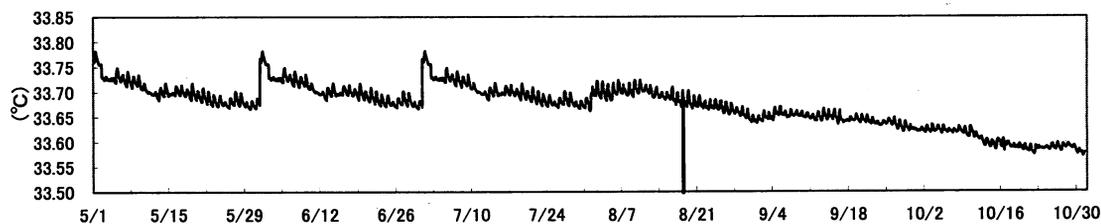
鳥取市 気温



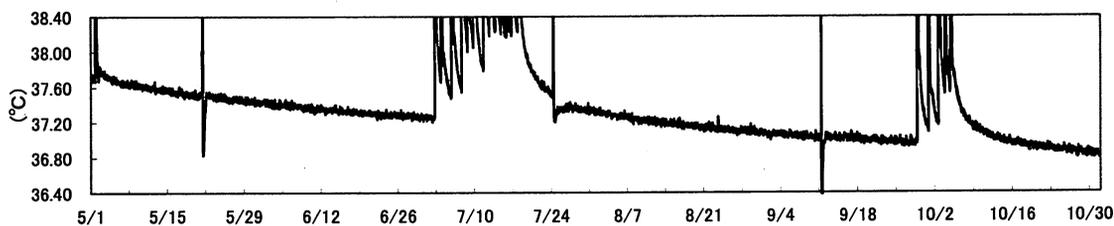
三朝温泉 水温(°C)



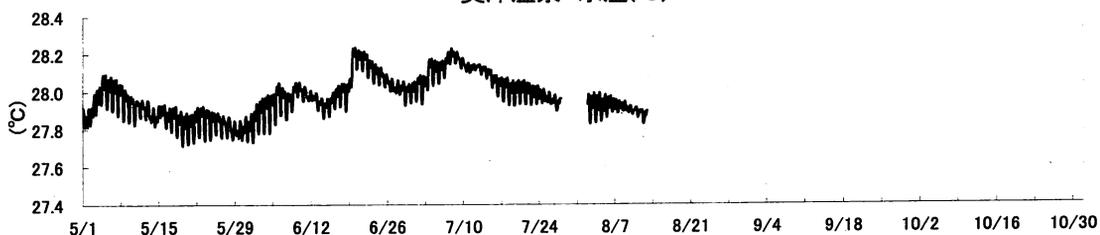
湯谷温泉 水温(°C)



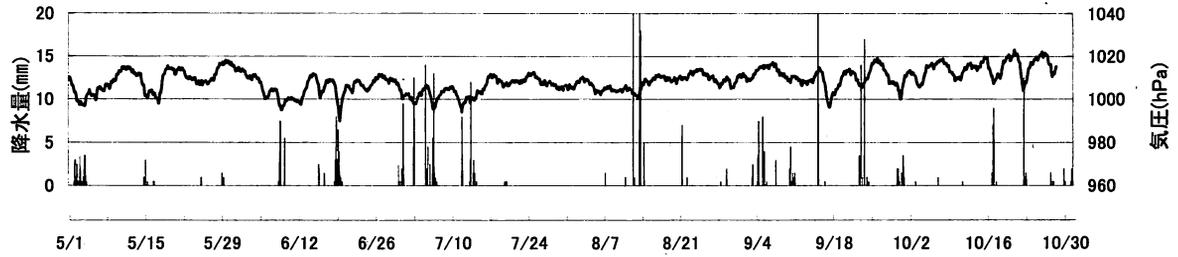
吉岡温泉 水温(°C)



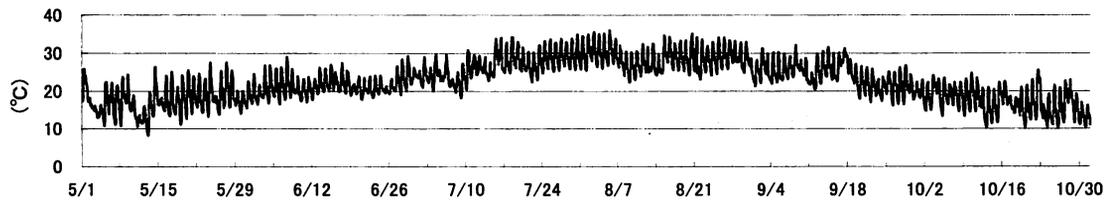
奥津温泉 水温(°C)



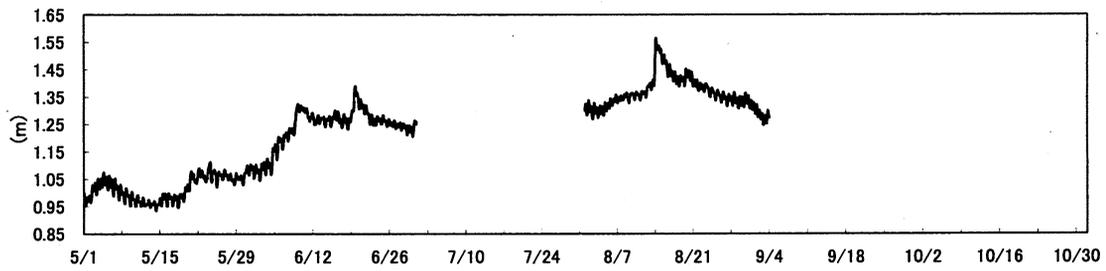
松江市 気圧・降水量



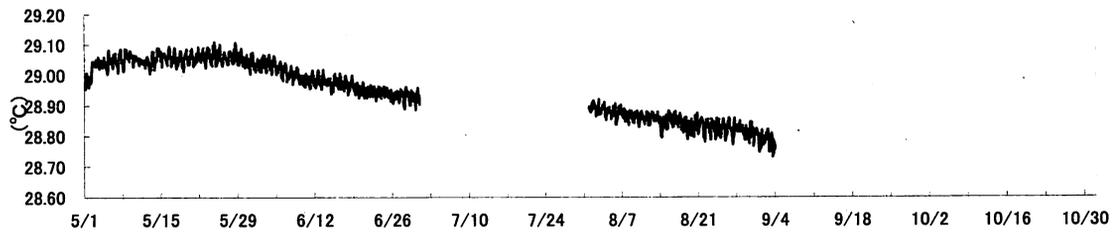
松江市 気温



鷺の湯温泉 水位(m)



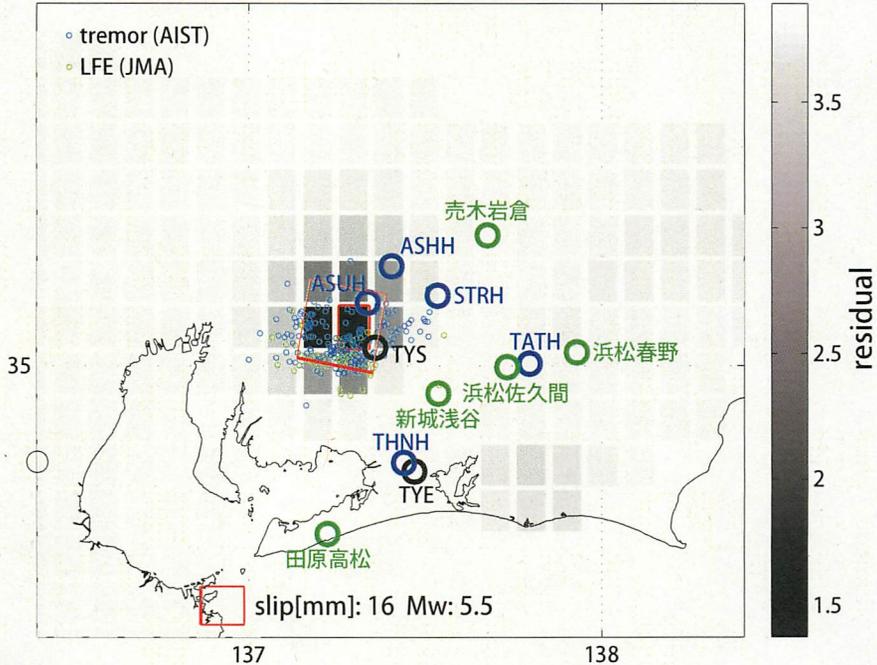
鷺の湯温泉 水温(°C)



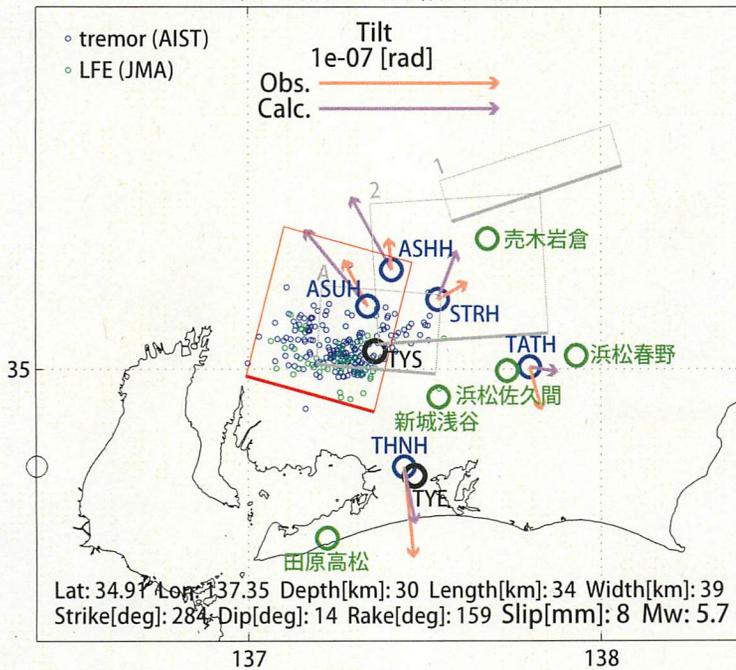
*7/2~7/31, 9/4~10/31計器不良のためデータ欠損

B: 2012/11/3 12時 -11/6 9時

断層サイズを固定した場合の断層モデル、残差分布



推定断層モデル、傾斜比較



多成分歪計 主歪比較

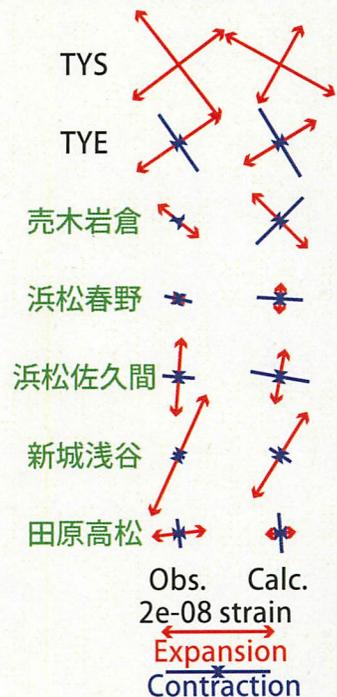


図28: (上段)プレート境界面上のパッチ(断層面)をすべらせた際の、歪・傾斜の観測値と計算値の残差分布図。断層面サイズは固定(20x20km)。赤色矩形は最小残差の断層面を表す。このパッチのすべり量、Mwを下部に示している。残差の小さい領域(色の濃い領域)が狭くコントラストも高いため、任意性が低いと考えられる。

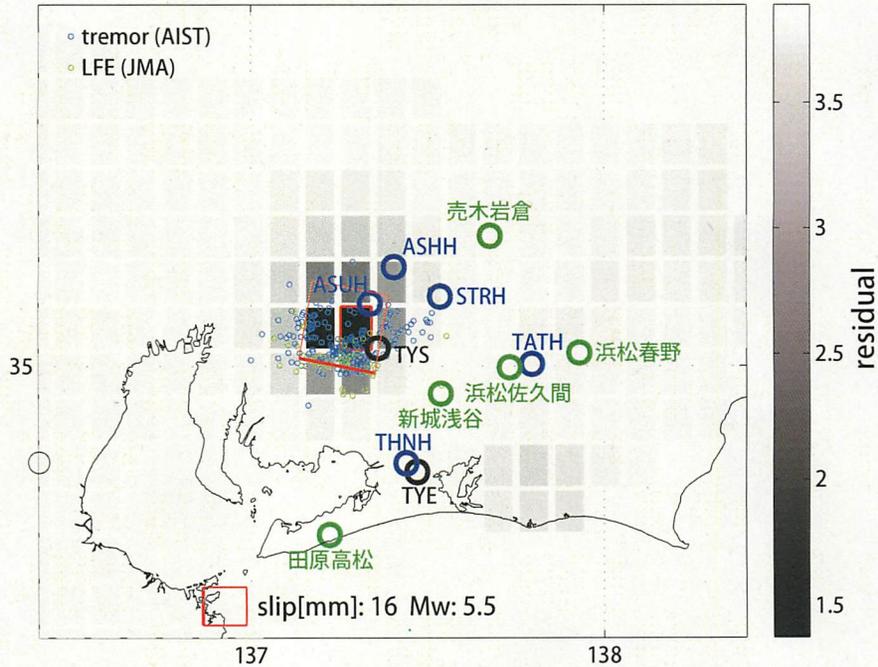
(下段)断層面推定結果(赤色矩形)。傾斜の観測値・モデルからの計算値との比較を地図内に、主歪の観測値とモデルからの計算値との比較を右側に示す。灰色の矩形は、周辺で最近発生した短期的SSEの推定断層面を示す。

1: 2012年8月16-18日, 2: 同19-24日, A: 同年10月31日0時-11月3日12時(期間A)

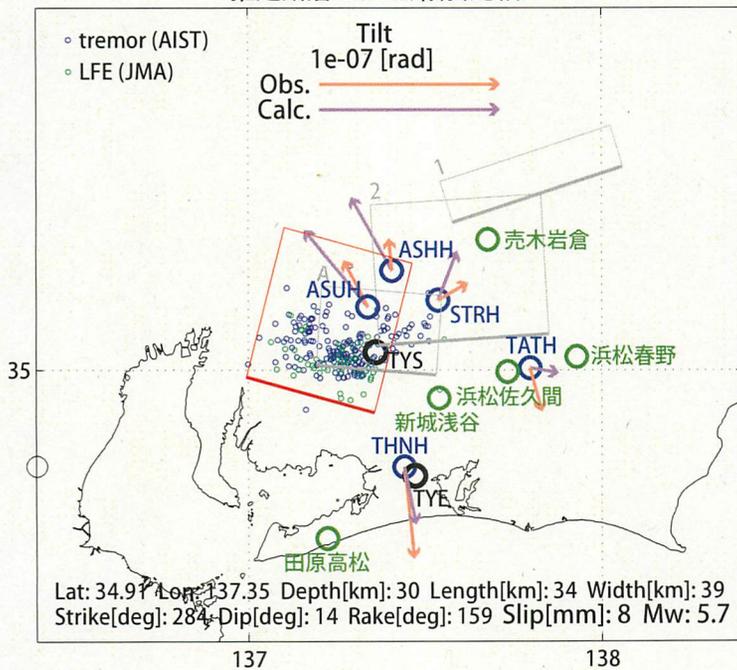
(共通)小さい青色丸印は産総研による深部低周波微動、小さい緑色丸印は気象庁一元化カタログによる低周波イベントの震央位置を示す。黒色は産総研の、青色は防災科研Hi-netの観測点を、緑色は気象庁の観測点名を示す。

B: 2012/11/3 12時 -11/6 9時

断層サイズを固定した場合の断層モデル、残差分布



推定断層モデル、傾斜比較



多成分歪計 主歪比較

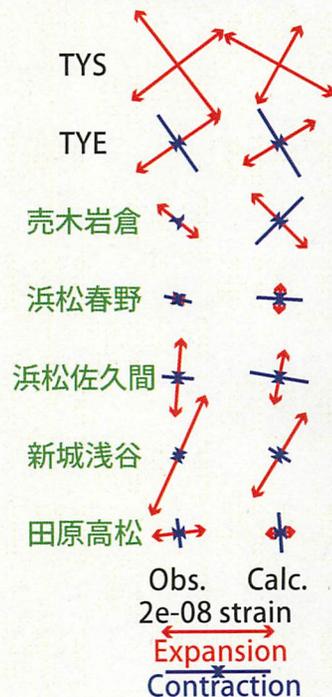


図28: (上段)プレート境界面上のパッチ(断層面)をすべらせた際の、歪・傾斜の観測値と計算値の残差分布図。断層面サイズは固定(20x20km)。赤色矩形は最小残差の断層面を表す。このパッチのすべり量、Mwを下部に示している。残差の小さい領域(色の濃い領域)が狭くコントラストも高いため、任意性が低いと考えられる。

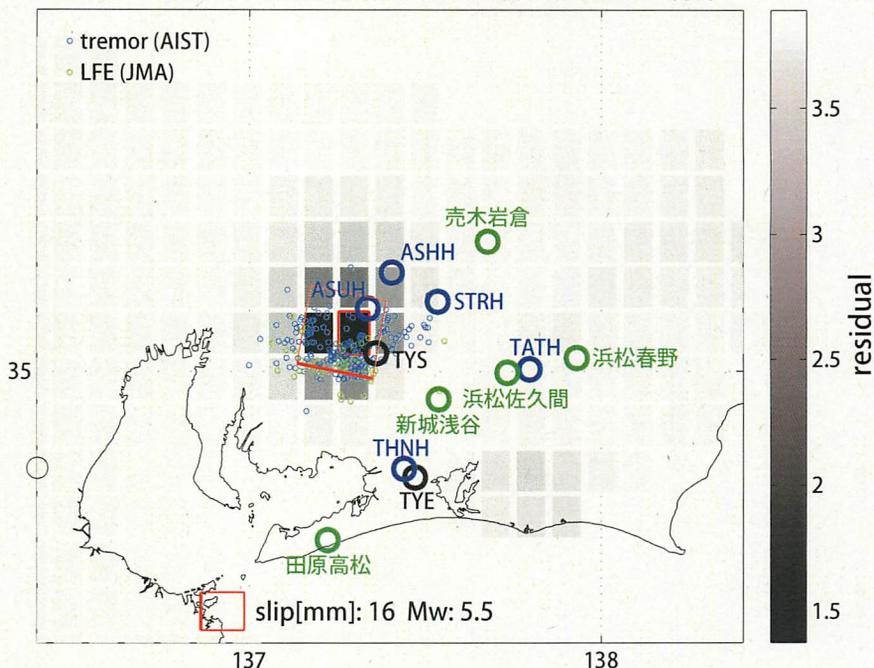
(下段)断層面推定結果(赤色矩形)。傾斜の観測値・モデルからの計算値との比較を地図内に、主歪の観測値とモデルからの計算値との比較を右側に示す。灰色の矩形は、周辺で最近発生した短期的SSEの推定断層面を示す。

1: 2012年8月16-18日, 2: 同19-24日, A: 同年10月31日0時-11月3日12時(期間A)

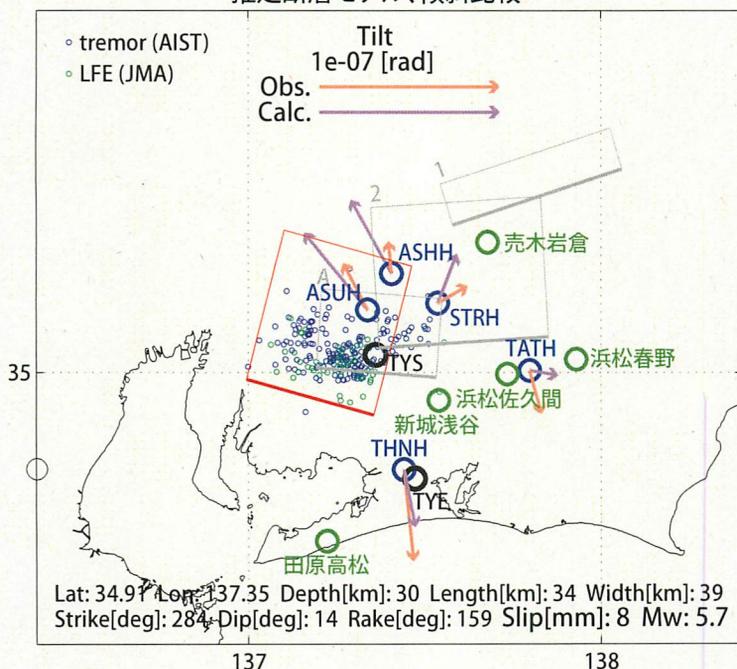
(共通)小さい青色丸印は産総研による深部低周波微動、小さい緑色丸印は気象庁一元化カタログによる低周波イベントの震央位置を示す。黒色は産総研の、青色は防災科研Hi-netの観測点を、緑色は気象庁の観測点名を示す。

B: 2012/11/3 12時 -11/6 9時

断層サイズを固定した場合の断層モデル、残差分布



推定断層モデル、傾斜比較



多成分歪計 主歪比較

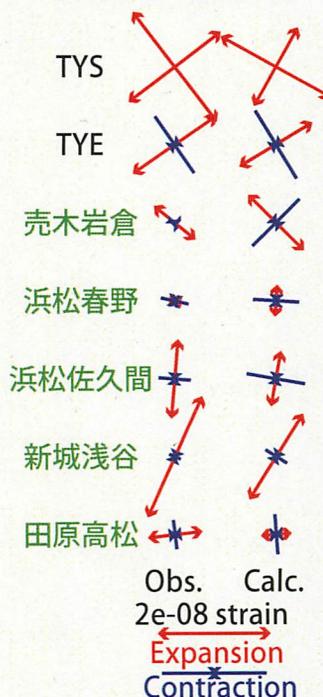


図28: (上段)プレート境界面上のパッチ(断層面)をすべらせた際の、歪・傾斜の観測値と計算値の残差分布図。断層面サイズは固定(20x20km)。赤色矩形は最小残差の断層面を表す。このパッチのすべり量、Mwを下部に示している。残差の小さい領域(色の濃い領域)が狭くコントラストも高いため、任意性が低いと考えられる。

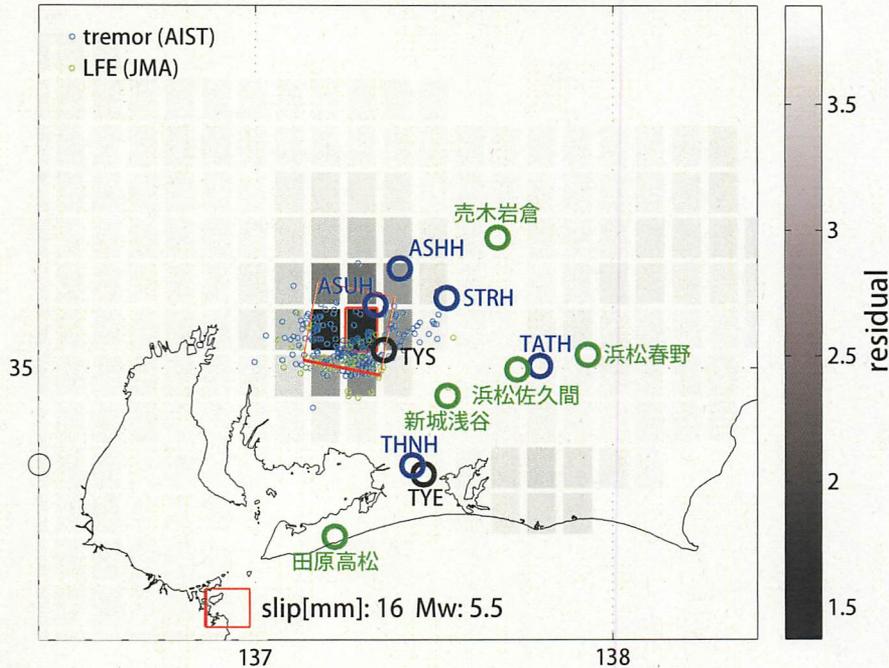
(下段)断層面推定結果(赤色矩形)。傾斜の観測値・モデルからの計算値との比較を地図内に、主歪の観測値とモデルからの計算値との比較を右側に示す。灰色の矩形は、周辺で最近発生した短期的SSEの推定断層面を示す。

1: 2012年8月16-18日, 2: 同19-24日, A: 同年10月31日0時-11月3日12時(期間A)

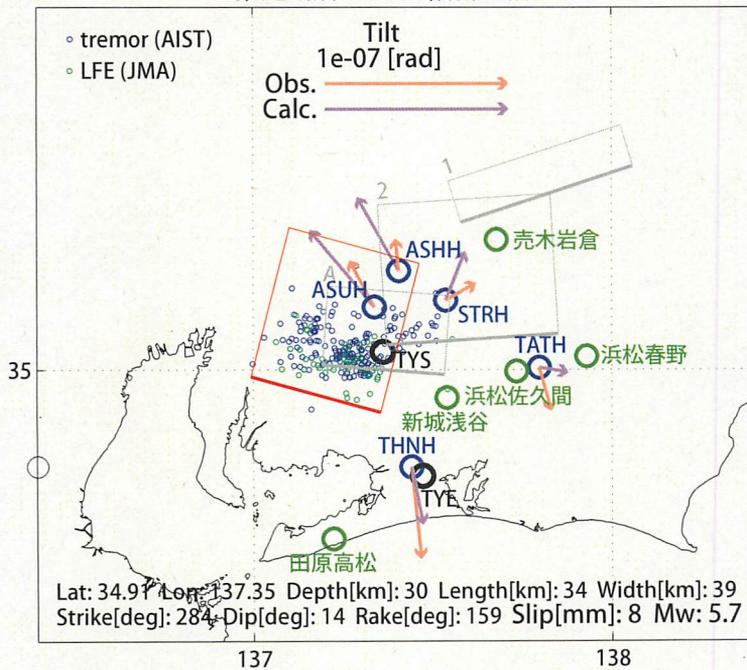
(共通)小さい青色丸印は産総研による深部低周波微動、小さい緑色丸印は気象庁一元化カタログによる低周波イベントの震央位置を示す。黒色は産総研の、青色は防災科研Hi-netの観測点を、緑色は気象庁の観測点名を示す。

B: 2012/11/3 12時 -11/6 9時

断層サイズを固定した場合の断層モデル、残差分布



推定断層モデル、傾斜比較



多成分歪計 主歪比較

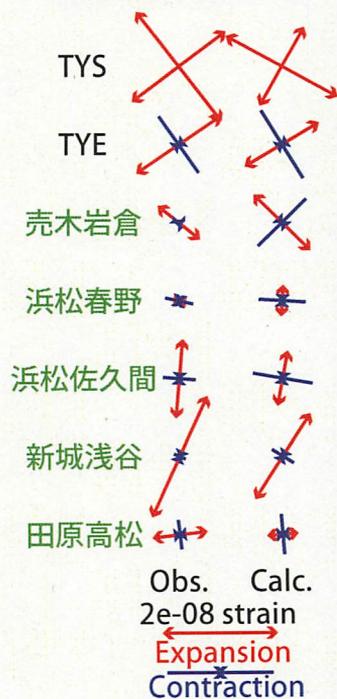


図28: (上段)プレート境界面上のパッチ(断層面)をすべらせた際の、歪・傾斜の観測値と計算値の残差分布図。断層面サイズは固定(20x20km)。赤色矩形は最小残差の断層面を表す。このパッチのすべり量、Mwを下部に示している。残差の小さい領域(色の濃い領域)が狭くコントラストも高いため、任意性が低いと考えられる。

(下段)断層面推定結果(赤色矩形)。傾斜の観測値・モデルからの計算値との比較を地図内に、主歪の観測値とモデルからの計算値との比較を右側に示す。灰色の矩形は、周辺で最近発生した短期的SSEの推定断層面を示す。

1: 2012年8月16-18日, 2: 同19-24日, A: 同年10月31日0時-11月3日12時(期間A)

(共通)小さい青色丸印は産総研による深部低周波微動、小さい緑色丸印は気象庁一元化カタログによる低周波イベントの震央位置を示す。黒色は産総研の、青色は防災科研Hi-netの観測点を、緑色は気象庁の観測点名を示す。